

第 2 章
法人報告
事業報告

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 患寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

想定外の政治・経済の混乱、そして新たな国際紛争など波乱含みの年が続く。また、想定されていたとはいえ、地域が深刻な少子高齢、人口減少社会に突入してきたことを、私たちはひしひしと実感する。加えて、人手不足の中でも働き方改革を進めねばならない。

今後もこの傾向は変わるものではないだろう。しかし、私たちは下ばかりを向いているわけにはいかない。継続的な方針である3D（DX、データ、デザイン）経営を柱に、変化を前向きにとらえ、よりよく、より効率化のための選択と集中を図ろう。決して、後ろ向きではない「削減」にも取り掛かろう。そこで

2024年度方針を、

ATM：明るく、楽しく、前向きに！

とする。笑顔と明るさこそが組織の強みなのだ。

TQM発表大会（董仙会）

前期 第28回 2024年10月15日、16日、18日 オンライン開催

セッション1 One Keiju, Dataを活かす、生きるをデザインする、医療の質改善

部署	テーマ
1位 恵寿金沢病院 臨床栄養課	外来栄養指導件数の増加に向けた取り組み
本院 臨床検査課	医業収入増加を目指して ～睡眠時無呼吸症候群検査（PSG）の検査体制の再構築
本部 企画部 企画課	董仙会における情報発信の習慣化に向けて
本院 4階西、4階HCU、外来	4階フロアにおける協働体制の構築 ～安全で質の高い看護を提供するために～
恵寿総合病院訪問看護ステーション、訪問リハビリステーション 恵寿、ケアマネステーション恵寿、医療福祉相談課、めぐみ/ 福祉用具レンタルステーション恵寿、ヘルパーステーション ローレル、訪問診療恵寿	地域包括ケアステーションの仕組みづくり
本部 総務課、けいじゅ健康保険組合	健康経営優良法人ホワイト500の再認定を目指して
恵寿金沢病院 人間ドックセンター	健康意識向上を目指した睡眠からのアプローチ ～生活習慣との関係～

セッション2 質をあげる、満足度100%、DX/Data/Design

部署	テーマ
1位 本院 手術センター課、医療安全管理課	より安全・安心な手術を提供するためのシステムを構築する ～ガーゼカウントを一致させるために～
本院 放射線課	停電に備えたBCP改編 ～ATM(新しい停電時マニュアル)～
恵寿金沢病院 看護部病棟、地域連携室、 訪問看護ステーション、看護部記録委員会	その人らしい生活へつなげていくための退院サマリーを目指して
恵寿金沢病院 病棟	病棟再編後の清潔ケアの統一 ～MC5（Majiでcareする5秒前）～
恵寿金沢病院 リハビリテーション科	365日リハビリの導入 ～週末に切れ目のないサービスを～
本部 資財課、本院 臨床工学課、本部 経理課	未来・働き方にこだわる資産（機器・備品）管理を目指して ～レガシーからの脱却～
福祉用具レンタルステーション恵寿、理学療法課、 作業療法課、言語聴覚課、ケアマネステーション恵寿	自宅退院に向けた院内リハビリと福祉用具レンタルステーションの連携
ケアマネステーション恵寿	さあやろ！ ICT活用×介護DX ～生産性向上を目指して～

セッション3 新サービス創出、DXの強みを生かす

部署	テーマ
1位 本院 救急救命課、看護部外来	けいじゅ救急搬送サービス 運用システムの構築
本院 内視鏡課	内視鏡業務におけるRPAの導入 効果 ～大腸内視鏡検査の残業時間"0"を目指して～
本院 サービス課 電話交換室	iPhone活用による交換室業務のさらなる効率化を目指して
本院 医療秘書課	らくらくオンライン診療 ～和光苑との連携～
恵寿金沢病院	DPCに対応したクリニカルパスの導入
本院 健康管理センター	健診WEB問診の利用率向上に向けて
本院 医事課、恵寿金沢病院 医事課	マイナ保険証利用率50%に向けて

後期 第29回 2025年3月8日 七尾市文化ホール

セッション1 質をあげる

部署	テーマ
本院 薬剤課	持参薬運用のしくみ改革 ～代行入力 of 全病棟展開～
和光苑	ユマニチュードケアの浸透
1位 本院 本館5階西・本館5階東・5病棟3階・5病棟4階・ 5病棟5階、介護部、リハビリテーションセンター	多職種協働による身体拘束解除に向けた取り組み ～ユマニチュードを導入して～
恵寿鳩ヶ丘	鳩ヶ丘での尊厳ある生活を支えるために ～ユマニチュードを実践し介護の質の向上を目指す～
恵寿金沢病院 看護部病棟、管理課、血液内科医師	動画を活用した造血幹細胞移植オリエンテーション ～自家末梢血幹細胞採取での患者指導に動画を使用して～

セッション2 One Keiju, 生きるをデザインする、新サービス創出

部署	テーマ
恵寿金沢病院 臨床検査課	末梢血液像鏡検を実施できる技師育成の取り組み
ほのぼの	ATMスマイルプロジェクト ～IT機器で笑顔溢れるレクリエーションを～
1位 本院 本館6階東、本館6階西、介護部、理学療法課、 作業療法課、言語療法課、血液浄化センター、DATA LAB	RPA・部署モニターを活用したケア介入（身体拘束最小化と適切な診療報酬請求）
本院 入退院管理センター、5病棟3階（地域包括ケア病棟）	地域の健康寿命を延ばす新たな取り組み ～長生き健康サポート入院～
恵寿金沢病院 外来	内視鏡検査の集客率向上に向けて
本院 感染制御センター	2024年度診療報酬改定に対応した感染対策向上加算施設基準を遂行 ～介護保険施設等との連携強化～

セッション3 満足度を100%にする、新サービス創出

部署	テーマ
本院 3病棟2階 産婦人科外来	指導動画の有効な活用時期の構築
本院 事務部	事務部に係るペーパーレス化を進める ～ワークフローの改善～
1位 恵寿金沢病院 事務部 管理課	ペーパーレス化 ～ベクトルを束にして挑む～
本院 臨床栄養課	入院から48時間以内の栄養アセスメントを実施する
鶴友苑	入所者のACPを実現する取り組み ～入所者が大事にされていると伝わるケアを目指して

事例研究大会（徳充会）

2025年2月7日開催 大会テーマ：「ATM：明るく、楽しく、前向きに！」

	所属	発表者	テーマ
優秀賞	青山彩光苑ライフサポートセンター	橋本 拓也 山崎 亮一	義援金を活用した外出企画 ～復興のために私たちが出来る事～
	青山彩光苑ワークセンター田鶴浜	杉本 健	軽作業事業の取り組みを通して ～復旧から復興を目指して～
	青山彩光苑リハビリテーションセンター	井本 菜智 室屋 亜紀奈	ATM ～明るく・楽しく・前向きに～
	徳充会 本部事務局	龍澤 徳樹 上野 菜巳	「ATM」に震災復興 -事務対応-
奨励賞	青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	永井 渉 丹羽 俊満	行動から見る本人理解
最優秀賞	さいこうえんの障害者生活支援センター 相談支援キララ	大町 みずき	それでも私は能登がいい
	石川県精育園	佐藤 禎記 田口 茂美	特性に配慮した環境整備 ～錦城学園での居場所づくり～
奨励賞	エレガンテナぎの浦 入所部門	幸田 恵 西住 純子 砂山 奈於	ATM広場の開園 ～エレナぎの良いところ探し、良いところづくり～
	デイサービスセンターもみの木苑	佐藤 彩子 亀井 真巳	ゼロから始めるプログラム作り ～もみの木cafeのご紹介～
	エレガンテナぎの浦 在宅部門	松本 雅予 庵 実里 曽我 百華	生(行)きがいのあるデイサービスへ ～二つの施設の統合～
優秀賞	ヘルパーステーションローレル	浜崎 久代	Teamケアでつなぐ 地域包括ケアステーション多職種連携

新聞掲載（董仙会）

日付	内容	施設	掲載媒体
2024.4.2	恵寿総合病院 新式/14職種73人地域医療へ	董仙会	北國新聞/北陸中日新聞
2024.4.5	免震協会 38の建物 損傷ほぼなく	恵寿総合病院	日刊建設工業新聞
2024.4.6	“社会的推し活” クラファン寄付 能登被災地、甲子園の躍進も支える	董仙会	産経新聞
2024.4.12	免震病棟が地域医療の大きな支えに	恵寿総合病院	日刊建設工業新聞
2024.4.16	能登半島地震 あの時医師は お産を守る①	恵寿総合病院	朝日新聞
2024.4.16	事業再建へ細やかな対応を 自民が七尾、輪島視察	恵寿総合病院	北國新聞
2024.4.17	能登半島地震 あの時医師は お産を守る②	恵寿総合病院	朝日新聞
2024.4.17	免震機能十分に発揮 協会が能登半島地震で報告会	恵寿総合病院	日刊建設工業新聞
2024.4.18	能登半島地震 あの時医師は お産を守る③	恵寿総合病院	朝日新聞
2024.4.20	地震で蓄電池配備の動き	恵寿総合病院	北國新聞
2024.5.9	新生児の人形使い園児が看護師体験/園児たち体験してみた	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.5.10	能登半島地震と病院 災害でも医療を止めない 恵寿総合病院理事長	董仙会	北國新聞
2024.6.1	受診後すぐに帰れます 会計待ちゼロ、薬宅配	恵寿総合病院	北國新聞
2024.6.3	避難者 脚に血栓8.8%「エコノミー」原因 通常上回る割合	恵寿総合病院	読売新聞
2024.6.7	介護予防へ教室開講 中能登で董仙会	鳥屋診療所	北國新聞
2024.6.11	ラジオななお ほっとたいむ放送1,400回	董仙会	北國新聞
2024.6.16	孤立化防止へ会話の場 七尾・御祓でカフェ開設	恵寿総合病院	北國新聞
2024.6.20	震災機に一体感 離職ゼロ 入浴や保育 職員家族ケア	董仙会	日本経済新聞
2024.6.30	希望の命 復興と重ね 山田さん七尾で地震直後出産	恵寿総合病院	北國新聞
2024.7.2	ベトナム人4人が介護技能習得へ決意 七尾・恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2024.7.4	歩いて健康維持を 七尾の「Foot活」	董仙会	北國新聞
2024.7.5	医療法人「董仙会」がベトナム人4人採用	董仙会	北陸中日新聞
2024.7.9	地域の催し 七尾市矢田郷地区 夏季研修会	恵寿総合病院	北國新聞
2024.7.12	金大医学類の地域枠削減 能登の医師不足拍車懸念	恵寿総合病院	北國新聞
2024.7.15	透析続行に医療、行政一丸 発災直後 断水の能登	恵寿総合病院	北國新聞
2024.7.20	医療分野のDX「役立った」 能登地震で被災 病院理事長が講演	董仙会	佐賀新聞
2024.7.23	看護師の働きやすさ 恵寿総合病院が大賞	恵寿総合病院	北國新聞
2024.7.25	日本一働きやすい病院 恵寿総合病院大賞	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2024.8.13	献血優良で県表彰 20団体7市町91人	恵寿金沢病院	北國新聞
2024.8.14	能登「北部」だけの問題か「中部」の七尾から「一緒に考えよう」	恵寿総合病院	北國新聞
2024.8.15	恵寿総合病院理事長・神野正博氏に聞く 能登一体で「全体最適」を	恵寿総合病院	北國新聞
2024.8.15	東日本に学び「能登の奇跡」 恵寿総合病院医療止めず	恵寿総合病院	北國新聞
2024.8.26	羽咋高生に医療オンラインツアー 恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2024.8.26	社説【地下水の防災活用】 能登の教訓生かし整備を	恵寿総合病院	北國新聞
2024.8.29	けいじゅヘルスケア 医療介護で連携協定 戸田中央グループ	董仙会	北國新聞
2024.8.30	ラジオななお 恵寿総合病院が来月90周年催し	恵寿総合病院	北國新聞
2024.8.31	介護部職員100人達成祝いセレモニー/介護部員目標の100人に	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.9.6	介護予防教室が修了 中能登	鳥屋診療所	北國新聞
2024.9.13	河北郡市医師会 災害時の対応学ぶ 県立看護大で講演会	董仙会	北國新聞
2024.9.22	医療支援地域と歩み90年 七尾・恵寿病院がフェス	恵寿総合病院	北國新聞
2024.10.12	福利厚生より手厚く 石川の医療・福祉法人 介護用ロボで講座	董仙会	北國新聞
2024.10.24	乳がんの早期検診をピンクの光で啓発 七尾の高齢者施設	恵寿総合病院	北國新聞

日付	内容	施設	掲載媒体
2024.11.7	百歳 小路福井さん/穴水の小路さん 100歳の長寿祝う 家族ら	恵寿鳩ヶ丘	北國新聞/北陸中日新聞
2024.11.9	健康経営で16社たたえ/「健康経営優良企業」石川県内16社を表彰	董仙会	北國新聞/北陸中日新聞
2024.11.14	青い光で糖尿病啓発 七尾の高齢者施設	恵寿総合病院	北國新聞
2024.11.15	介護身近に感じて 七尾・恵寿病院で啓発	恵寿総合病院	北國新聞
2024.11.26	救急搬送病院がやります 七尾・恵寿総合病院 県内初	恵寿総合病院	北國新聞
2024.11.29	心和ます光の演出 七尾の高齢者複合施設	董仙会/徳充会	北國新聞
2024.11.29	臨床研修医100人超え 地震で災害医療関心か	恵寿総合病院	北國新聞
2024.12.1	社説【病院救急車の活用】効率的な搬送推進したい	恵寿総合病院	北國新聞
2024.12.10	寄付 JA能登わかば	恵寿総合病院	北國新聞
2024.12.15	恵寿総合病院医師 がん診療を解説 羽咋で市民講座	恵寿総合病院	北國新聞
2024.12.20	アルツハイマー新薬治療を開始 七尾・恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2024.12.30	アルツハイマー新薬の治療公開 七尾・恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.1.1	あの日の命 すくすくと 七尾で出産・山田さん	恵寿総合病院	北國新聞
2025.1.1	激震の10時間後に「奇跡の命」ふるさと能登に重なる母の夢	恵寿総合病院	毎日新聞
2025.1.7	消防隊が出初め式 恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.1.8	支えられた命 大きくなったよ 余震・断水の七尾で1月25日誕生	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2025.1.15	「能登で質の高い看護を」七尾・恵寿病院 特定行為4人が修了	恵寿総合病院	北國新聞
2025.1.17	ラジオななお「がん診療」講座を矢田郷で25日開催 恵寿総合病院	恵寿総合病院	北國新聞
2025.1.26	がん発見と治療 定期検診が重要 恵寿総合病院が講座	恵寿総合病院	北國新聞
2025.2.11	運動器の健康・日本賞 宮口教授と恵寿病院受賞	董仙会	北國新聞
2025.3.6	能登の被災病院支えたDX 文書はAI任せ、医療に集中	董仙会	日本経済新聞
2025.3.7	DX、能登の病院支える 効率化進め人材難補う	董仙会	日本経済新聞
2025.3.9	業務改善の工夫紹介 七尾で董仙会発表	董仙会	北國新聞
2025.3.13	健康経営法人に董仙会	董仙会	北國新聞
2025.3.25	綱渡りの病院給食 栄養別調理で生産性アップ 震災時も提供	董仙会	中日新聞/東京新聞

新聞掲載（徳充会）

日付	内容	施設	掲載媒体
2024.11.17	被災時の障害者に情報共有の大切さ	自立ホームけいじゅ	北陸中日新聞
2024.11.29	心和ます光の演出 七尾の高齢者複合施設	董仙会/徳充会	北國新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	見学者	見学内容
2024.5.16	岐阜市民病院 計3名	BCP、地震被害箇所、上空連絡通路
2024.5.20	石川県立金沢泉丘高等学校新聞部 計5名	能登半島地震当時の取材
2024.7.16	美原記念病院 計4名	介護部
2024.7.25	公益社団法人日本医師会 常任理事他計6名	医療DX
2024.7.31	尼崎総合医療センター 計4名	医療DX、iPhone活用事例
2024.8.2	国際医療福祉大学 計16名	医療DX
2024.8.20	羽咋高等学校 計22名	医療・介護の仕事紹介
2024.9.6	社会医療法人謙仁会 山元記念病院 理事長他計10名	医療DX、iPhone活用事例
2024.9.16	徳洲会インフォメーションシステム、湘南藤沢徳洲会病院 計5名	生成AI
2024.9.17	聖マリアンナ医科大学病院 病院長他計6名	医療DX、生成AI
2024.10.17	国立研究開発法人 建築研究所 計5名	能登半島地震 建築設備被害調査
2024.11.6	社会医療法人北斗 計4名	介護部
2024.11.19	岐阜県立多治見病院 副院長他計7名	医療DX、iPhone活用事例
2024.11.20	医療法人 良秀会 理事長他計2名	生成AI
2024.12.11	社会医療法人高清会 高井病院 計4名	リハビリテーション
2025.1.23	神奈川県立病院機構 計5名	iPhone活用事例
2025.2.26	脳神経外科東横浜病院 副院長他計5名	医療DX
2025.3.6	飛騨市民病院 副病院長他計4名	iPhone活用事例
2025.3.11	朝日大学病院 計4名	iPhone活用事例

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2024.11.1	オカリナフレンズsmile	【もみの木苑】演奏ボランティア
2024.12.20	にこにこ一座	【もみの木苑】演奏ボランティア
2025.3.7	沖縄三味線 かりゆし会	【もみの木苑】演奏ボランティア

■ 基本戦略と概念図

創業精神

いつでも、誰でも、たやすく、安心して、診療を受けられる病院にする。

基本理念

信頼の心
思いやりの心
健全な経営
職員の健康と幸せ

Mission

ミッション

創業精神・基本理念に基づいたスローガン
先端医療から福祉まで「生きる」を応援します

Vision

ビジョン

継続的基本方針：中期計画(3年毎)

Value

バリュー

戦略テーマ

戦略マップ

スコアカード

アクションプラン

BSC

単年度基本方針：短期計画（毎年）

- ・ 戦略目標
- ・ 成功要因（CSF）
- ・ 評価指標（KPI）
- ・ 現状値・目標値
- ・ アクションプラン
- ・ 中期・期末達成度
- ・ 評価

新型コロナ禍に果敢に挑み続けた3年間を経て、地域と患者・利用者を守り抜く姿勢は、医療・介護人として目を見張る活躍であり、仲間を気遣う温かな風土が定着した。医療介護は労働集約型（事業活動の大部分を人間の労働力に頼る割合が多い産業）ではあるが、テクノロジー（ICT/AI/Robot）の進歩を活用し、労働力を補い、温かな風土と共に全国の見本となろう！

【図1】董仙会Mission/Vision/Value

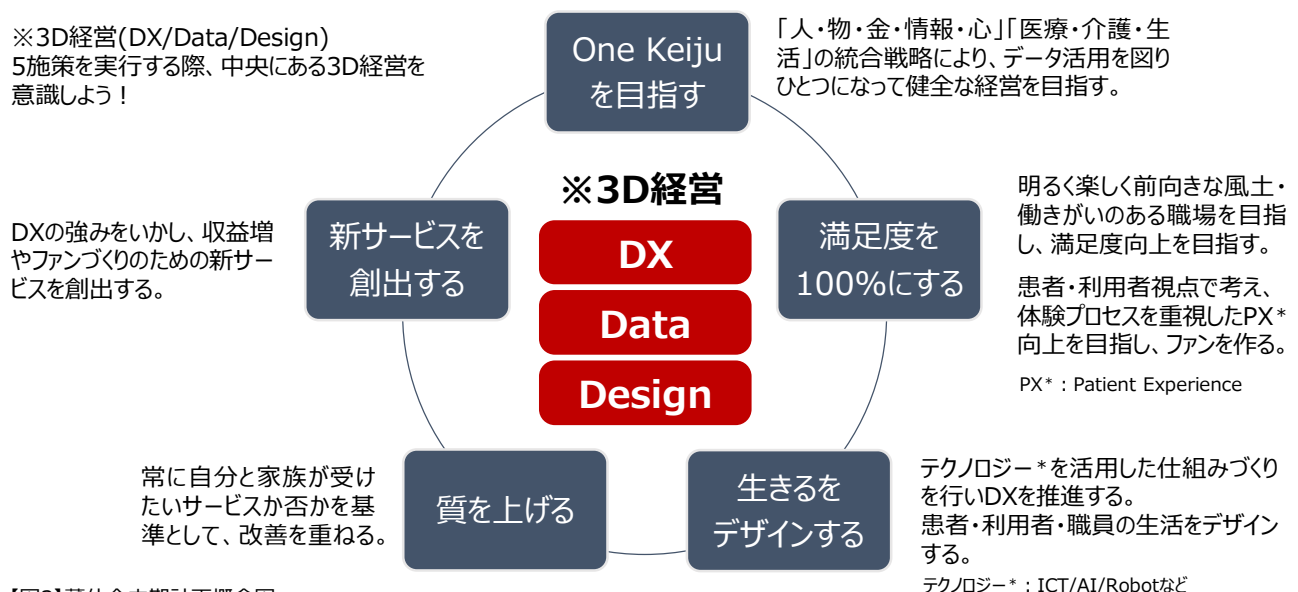
1. 基本戦略

2018-2021・2021-2023中期計画を踏襲するが優先順位を変えた下記の5施策を基本戦略とする。

- One Keijuを目指す
- 満足度を100%にする
- 生きるをデザインする
- 質を上げる
- 新サービスを創出する

2. 概念図

※3D経営(DX/Data/Design)
5施策を実行する際、中央にある3D経営を意識しよう！



【図2】董仙会中期計画概念図

■ 実施計画

私たちの やるべきこと

医療介護の質の向上と経営の安定を図る。

投資としては、施設の大規模改修、新金沢病院建築、先端医療・介護機器の導入である。

重要業績達成指標（KGI）

2024年度：医療収入155→150億円に修正

2025年度：医療収入156→151億円に修正

2026年度：医療収入157→152億円に修正

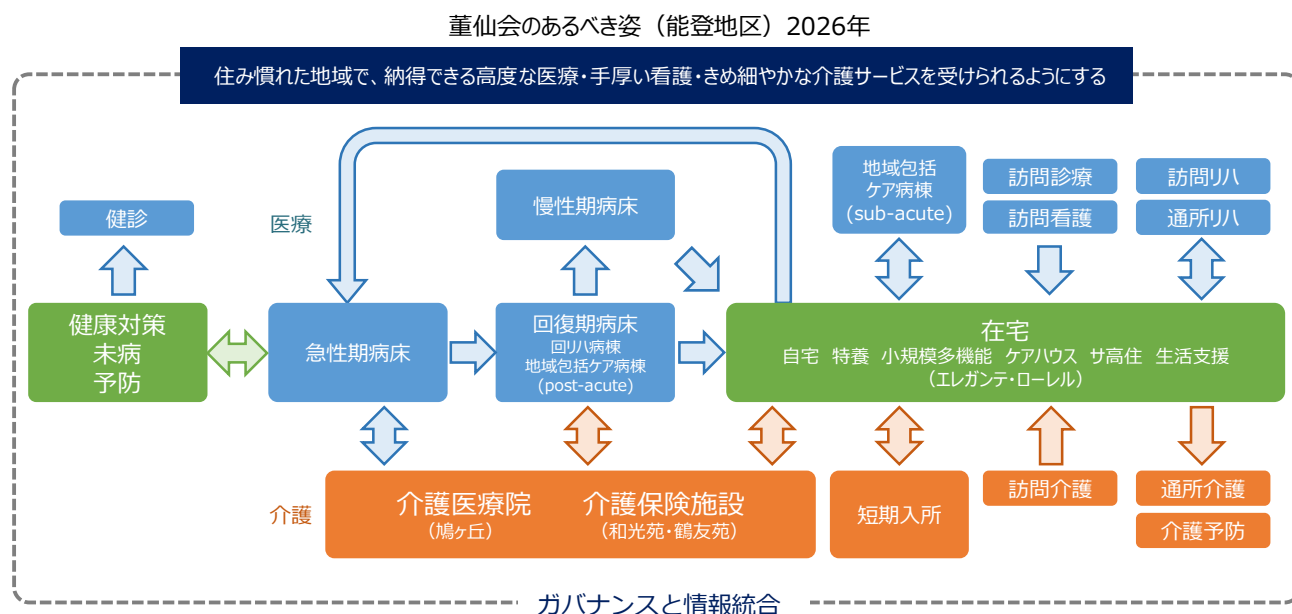
継続的 基本方針	2024年 弱み・脅威の 改善・克服戦略 単年度方針 ATM:明るく楽しく前向きに	2025年 強み・機会の 積極・差別化戦略 単年度方針	 MOTTO	2026年 中期計画 仕上げの年
One Keijuを 目指す	Dataを活かす 【本院・金沢】夜勤人員の見直し 【本院】恵寿セルケア方式とiPhoneの効率化 【本院・金沢・介護】訪問・通所サービスの見直し 【金沢・介護】不採算部門の改善 【本院・介護】医療介護PFMの構築 【共通】医療収入155億	Dataを活かす 【必須】経営の質向上（医療収入の増加） 【本院・金沢】新夜勤体制構築（看護・介護の協働） 【本院】恵寿セルケア方式の完成 【本院・金沢・介護】訪問・通所サービスの集約・強化 【金沢・介護】新規事業へむけて採算性の強化 【本院・介護】医療介護PFMの完成 【共通】職員の適正配置（人数・適所適材）		仕上げ
満足度を 100%にする	DX/Data/Design 【本院・金沢】医療の質改善 【本部】施設の老朽化対策 【介護】ロボットの導入 【本院】待ち時間対策と運用・ポケメド活用 【共通】ペーパーレス化（同意書など）の遅れ	DX/Data/Design 【本院・金沢】診療内容の充実・強化 【本部】施設の改修 【介護】ロボットの活用・MaaS事業展開 【本院】待ち時間対策強化・ポケメド活用 【共通】ペーパーレス化の達成 【共通】健康経営の浸透		仕上げ
生きるを デザインする	Designによる仕組みづくり 【本部】人材育成・人事評価制度の見直し 【共通】中堅リーダー教育（恵寿MBAコース他） 【共通】院内副業の開始 【共通】くれない族の存在	Designによる仕組みづくり 【本部】新人事評価制度開始 【本院】院内副業の開始 【共通】人材育成教育体制の充実 【共通】中堅リーダー活躍 【共通】自ら進みでる風土づくり（自立と自律の心）		仕上げ
質を上げる	DX/Data/Design 【本院】脳疾患・泌尿器科医リクルート 【本院】地域との新たな関係構築（恵寿フェスティバル他） 【共通】BCM/BCPの年次改編 【共通】EK活動の開始・TQM活動の活発化 【共通】ユマニチュードの拡散	DX/Data/Design 【必須】医療介護マネジメントEラーニングでの学習成長 【本院】診療科の充実 【共通】医療・介護の質向上 【共通】地域連携・マーケティングの強化 【共通】地域との共生（恵寿フェス・市民公開講座等） 【共通】強靱なBCM/BCPの策定更新 【共通】KAIZEN(EK活動の定着・TQM活動の進展) 【共通】ユマニチュードの定着 【共通】全部署モニターのフル活用（業務の可視化）		仕上げ
新サービスを 創出する	DXの強みを生かす 【本院】オンライン診療の実施 【本院】AI問診の拡大 【本院】けいじゅ救急搬送サービスの体制構築 【金沢】病院機能の再構築（集患・部門・スピード） 【共通】RPAの積極的展開 【共通】生成AIの導入 【共通】iPhoneの導入と活用 【共通】クラウドファンディングの導入	DXの強みを生かす 【本院】オンライン診療の拡大 【本院】AI問診の活用 【本院】けいじゅ救急搬送サービスの進化 【金沢】病院機能の再構築（集患・部門・採算） 【共通】RPAの活用 【共通】生成AIの活用 【共通】iPhone業務の効率化 【共通】新たなDXの導入		仕上げ

■あるべき姿（能登・金沢地区）

医療
介護
生活

1. 能登地区方針

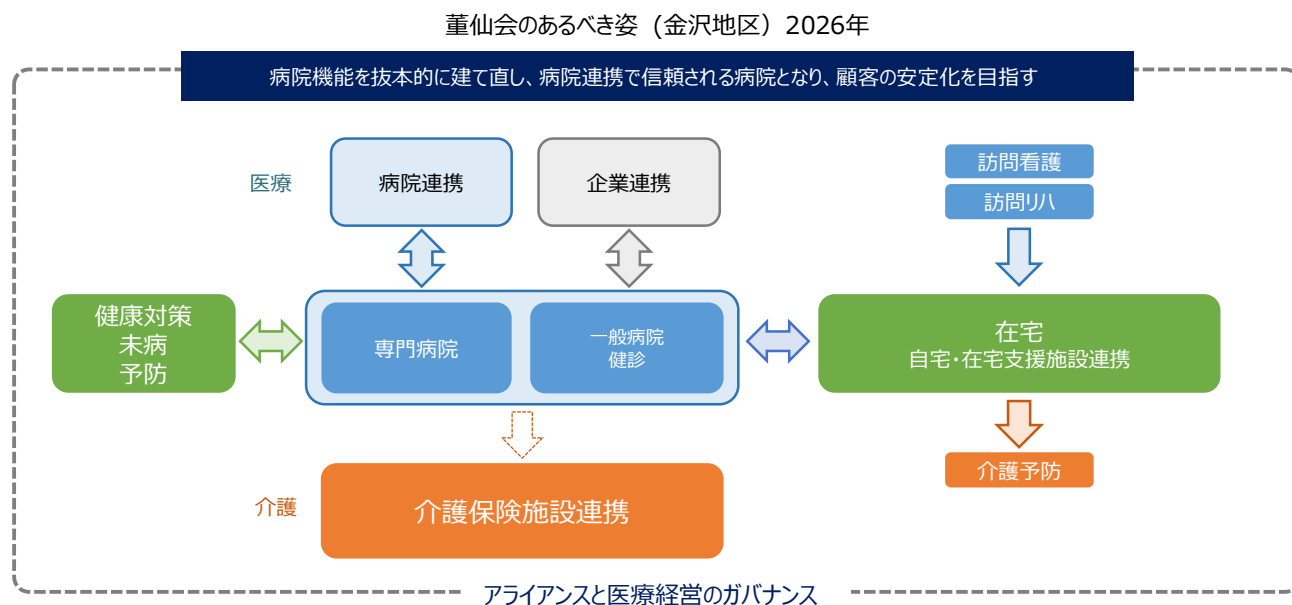
【図3】董仙会のあるべき姿（能登地区）の中では、急性期医療から生活支援までまずPFM（Patient Flow Management）を完成することである。本院ではデータに基づくPFMが2023年度確立したため、今後施設間への拡散が期待される。特に鳩ヶ丘・和光苑・鶴友苑は本院からの利用者受け入れが重要である。また施設では夜間医療が手薄になるため、急変時は本院での受け入れが重要である。訪問系サービス・通所事業は効率化の課題があり、機能を十分に果たし切れていない。地域包括ケアステーションという考えのもとサービス提供日などの集約を図り効率化を進め、併せてサービスの質向上を図ることが肝要である。選択と集中である。



【図3】董仙会のあるべき姿（能登地区）

2. 金沢地区方針

【図4】董仙会のあるべき姿（金沢地区）の中では、病院機能の抜本的建て直しが急務である。紹介元の大学病院・県中などからの信頼を得られるにはどうすることが必要なのかゼロベースで院内における議論から始めなければならない。またデータに基づき1日あたりの新入院患者数を達成できるように医師が中心となり体制再構築を行うべきである。NTT関係会社の健康を預かる病院として、未病・予防などの健康対策に注力されたい。新病院構想を受け、健診業務・外来運用など「昭和の病院」からの脱却を図りたい。



【図4】董仙会のあるべき姿（金沢地区）

董仙会本部 事務管理統括部門

董仙会本部

■ 常務理事	■ 理事長補佐	■ 本部長
神野 厚美	神野 正隆	進藤 浩美

■ 2024年度のトピックス

2024年度は能登半島地震からの復興に尽力し、被災した施設の復旧工事に加え、災害復旧のための補助金申請を行った。復旧工事と並行し、介護施設の設備機器に関する補助金申請を行い、補助金交付が確定した。医療・介護サービスの機能維持・質の向上を目指した。

＜災害復旧補助金申請見積件数＞

和光苑	25件
鶴友苑	17件
恵寿鳩ヶ丘	14件
田鶴浜診療所	4件
本館	42件
3病棟	33件
5病棟	15件
PET・CT、発熱外来	10件
合計	160件

■ 事業報告

- ① 中期計画の検証：2024-2026中期計画のSWOT分析を行い、実施計画を見直した。
- ② 新人事評価制度：成果評価（BSC）について、詳細を規定し、行動評価とともに、研修実施し周知に努めた。
- ③ 人材育成：若手養成の「恵寿MBA」は1期生を輩出し、2期生養成を開始した。E-learning「Waculbaゼミ」は被災を考慮し、本格開始に至らなかった。
- ④ データ経営：ポータル上での部署モニターだけでなく、本院で各部署に、全部署モニターを設置し情報の見える化の加速を図った。
- ⑤ DXの推進強化：生成AI×電子カルテ、RPAを進めた。介護部門でも120台のiPhoneを導入し、施設内外、場所にとられないインカムにて音声DXを進めた。
- ⑥ 董仙会業績集をはじめ、HP・マンスリーレター・広報誌「恵寿」・YouTube動画など制作物を刊行し、病院広報アワードで優秀賞・特別賞を受賞した。
- ⑦ 董仙会の車両をリースへ移行した。
- ⑧ 国交省MaaS事業：Spare社と共にAIオンデマンド乗合交通ソリューション「Spare Platform」を活用した介護送迎サービスの高度化を目指した実証実験で、作業効率を改善し90%の業務時間削減を達成した。

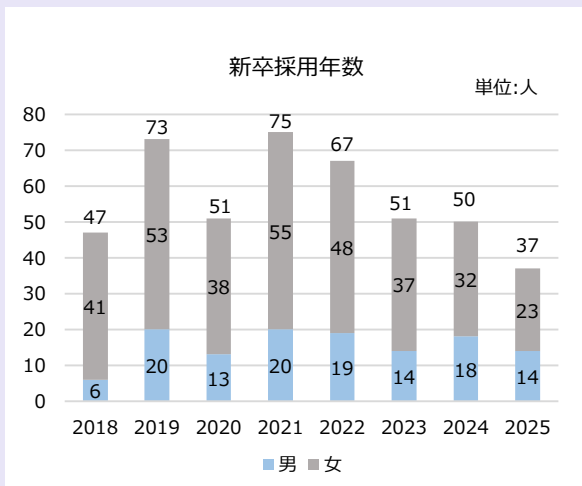
総務部

■ 部長

松田 久良

■ 2024年度のトピックス

今年度は新卒採用難航し、苦戦した。



■ 事業報告

- ① 新卒採用は早期に対応を心掛け、夏にインターンシップを行ったものの、人材確保の激化、採用時期の早期化が進行し、応募自体も低調で思うような採用活動に至らなかった。
- ② 診療報酬改定に伴い、全職員を対象とした新処遇改善手当を導入し、周知を図った。それに伴い、就業規則の変更も行った。
- ③ 新人事制度を導入し、人事評価規程の全面改訂を行った。それに伴い、人事評価システム「Navigator」を導入し、職員への周知徹底を繰り返すことで、人事評価のペーパーレス化、効率化を実現した。
- ④ 健康経営対策も積極的に行った結果、ホワイト500の再取得につながった。
- ⑤ E-learning制度も全面的に見直し、補助金申請と抱き合わせて、新たなE-learning研修受講システム「Waculba」を導入した。

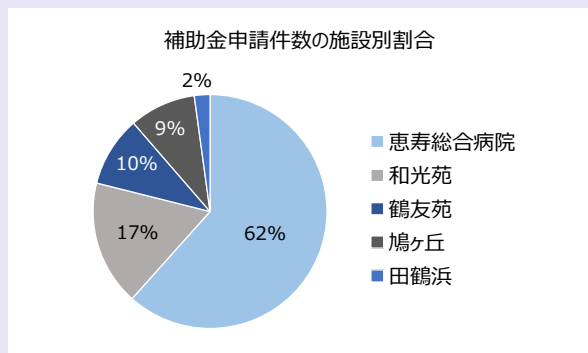
財務部

■ 部長

安井 智美

■ 2024年度のトピックス

能登半島地震の復旧工事では支払計画をコントロールするために期日管理や証憑書類の管理など膨大な管理業務が発生した。加えて、災害復旧費補助金の申請においては200件近い案件管理が必要で、度重なる工期延長や金額の変更に伴う関連書類の差し替え、資金計画の変更が必要であった。復旧工事は現在も進行中である。



■ 事業報告

- ① 被災地に対する特例措置として各種税金の申告と納付期限の延長が実施されたが、2025年1月1日の延長期限終了を待たず、前倒しで申告処理を進める事ができた。
また、仮決算ではあったが通常通り6月に理事会と評議員会を開催する事ができた。
- ② 被災により閉所する事となった鶴友苑で使用していた電動ベッドを法人内他施設に移動した結果、介護施設の電動ベッド導入は100%となった。その他の什器備品も移設し、古い物を更新する事で5Sにもつながった。
同様に田鶴浜診療所の医療機器等も移設した。
- ③ 鶴友苑と田鶴浜診療所のクロージング手続きには、過去に受領した補助金情報が必要であったが、開設当初まで遡っての確認作業に苦慮した。
- ④ 管理栄養士と共に補充が必要な備蓄食の検討を行い、定数や更新計画を見直した。
- ⑤ 法人車両を都度購入から一括リースに変更し順次納車が進んでいる。これにより車種の統一を図る事ができ、これまで職員が施設を異動した際にはある程度必要だった車両操作の習熟期間短縮につながるものと考えている。

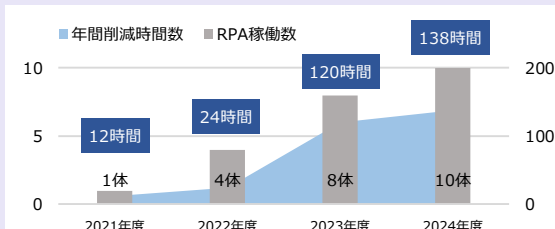
財務部 経理課

■ 課長

河合 隆志

■ 2024年度のトピックス

RPAを2体増産し、業務時間削減を更に加速させた。



■ 事業報告

- ① RPA合計10体。業務仕分けを継続し、DXの更なる定着と業務の効率化を図る。
- ② 全部署モニター「董仙会収支モニター」「光熱費モニター」を公開。「病理組織診」「細胞診件数」「KAIZEN-TQM活動」については元資料を提供。
- ③ 部長の指示のもと、災害復旧補助金等に係る膨大な証憑を過不足なく準備。

財務部 資財課

■ 課長

延田 宗久

■ 2024年度のトピックス

恵寿総合病院は本館引越しい前から使用している什器類を含め、規格統一化を図るため、外来診察室什器更新を行った。

更新日程	4月から計画、8月施行	
作業進捗管理	ガントチャートを活用、Teamsで共有	
更新什器	診察デスク22台 プリンタ30台	診察ベッド30台 脱衣カゴ40台

■ 事業報告

- ① 恵寿総合病院 全部署モニター設置。
- ② 田鶴浜診療所・鶴友苑の閉所に伴う資機材の整理と他施設での有効利用を行った。
- ③ 恵寿総合病院 外来待ち時間モニター設置。
- ④ 震災後の災害用備蓄食料の定数・品目見直しを実施。
- ⑤ SPD定数表をポータルに掲示で見える化を行った。
- ⑥ 恵寿総合病院 医局の震災後什器修繕を実施。

企画部

■ 常務理事

神野 厚美

■ 部長

神野 彩

■ 2024年度のトピックス

CBNewsが主催する「病院広報アワード2024」において、広報誌部門で優秀賞、「能登半島地震後の広報の取り組み」で特別賞を受賞した。病院広報アワードは全国の病院広報事例をから特に優れた病院を表彰するもので、今年の総エントリー数252件から、高い評価を受け受賞に至った。

受賞	取り組み内容
広報誌部門 優秀賞	全ての制作過程を社内で完結させることにより、コストを大幅に削減しながら高品質な出版物を実現。特にMicrosoft PowerPointを駆使し、スライドマスター機能の活用で一貫性のあるデザインを確保している。
特別賞	「災害でも医療を止めない」を信念に発災直後から医療・介護サービスを止めることなく提供。同時に、被害状況や復興の経過をクラウドファンディングの活動報告を通して動画で発信した。

■ 事業報告

- ① 6月：2023年度業績集（232ページ）を作成した。地震発災後から3月までの記録を「能登半島地震クロノロジー」としてまとめ、業績集巻頭に特集として掲載した。
- ② 9月：けいじゅフェスティバル開催にあたり、メインビジュアルデザイン、ノベルティグッズ作成（クッキー、トートバック等）、フライヤー・ポスターなどの印刷物作成を担当した。
- ③ 12月、1月：羽咋市と七尾市で開催した市民公開講座で、フライヤー・ノベルティの作成やホームページ作成など、周知広報を担当した。開催後は講演会の様子をアーカイブ動画としてYouTubeに公開した。
- ④ 2024年4月-2025年3月の期間で、19団体126人の病院見学を受け入れた。プレゼン・見学内容は、DXの取り組み、iPhone導入における活用事例、給食システム、BCM、災害対策など、多岐にわたった。
- ⑤ 全部署モニターの導入に伴い、写真を使ったイベント開催スライドやお知らせスライドを放映し、職員広報に積極的に取り組んだ。

情報部 情報管理課

■ 部長

小澤 竹夫

■ 2024年度のトピックス

導入・更新 システム一覧	電子カルテバージョンアップ
	あと払いbyとどくすり導入
	電子処方箋システム導入
	画像診断AI補助診断システム導入
	退院・看護サマリーの生成AI要約
	生成AI用インフラサーバー構築

■ 事業報告

- ① 電子カルテシステムをV2.2にバージョンアップし処理速度が格段にアップしたことで、ストレスを大幅に軽減した。
- ② あと払いbyとどくすりを導入し、患者の会計待ち時間をなくすことで患者満足を高めることができた。
- ③ AIによる退院・看護サマリーの要約システムの導入と画像診断のAI補助診断システムの実証実験を行い医療現場の業務軽減を行った。

事務管理統括部門 董仙会本部 委員会・プロジェクト

個人情報管理委員会

■委員長
進藤 浩美

■2024年度のトピックス

【AIと個人情報流失防止対策】

Ubieの生成AIを業務で安全に使用するために、**システム接続用サーバーの作成**を実施した。利用システムのホワイトリスト化である。このホワイトリスト化により、リスト外の外部サイトを利用できなくなるため、個人情報の流失を防止することができる。

■事業報告

- ① 施設数統合によるプライバシーポリシーを見直した。『公式SNSアカウント運用規程』を制定し個人情報保護誓約書・同意書を改定し、取得した。
- ② 教育研修として、サーバーセキュリティに関するオンライン研修を実施した。E-learningのコンテンツは、中途採用職員用、董仙会E-learning「個人情報」に加えて、WaculbaのE-learningも提供することができた。

広報委員会

■委員長
神野 彩

■常務理事
神野 厚美

■2024年度のトピックス

イベントや新サービス開始時には、チラシ・ポスター・ノベルティグッズなどを使って周知広報に取り組んだ。

活動	広報手段
けいじゅ救急搬送サービス	ポスター、3つ折りリーフレット、フライヤー、マグネット、クリアファイル、ホームページ、SNS、院内サイネージ
けいじゅフェスティバル	チラシ、ホームページ、ラジオ、院内サイネージ、フラッグ、Instagram、Facebook

■事業報告

- ① 委員会で集まった情報をもとに、プレスリリースを年間で40回行った。新聞やニュースで取り上げられた情報はメールやTeamsで共有し、法人の活動について情報共有した。
- ② 受賞報告や新サービス開始時は特設ページを設置し、ホームページでお知らせした。

けいじゅFM委員会

■委員長

安井 智美

■2024年度のトピックス

能登半島地震発災後、応急復旧から恒久復旧と膨大な業務のため、通常の週1回のFM会議では対応できず、復興対策本部にて随時実施。大規模案件と通常の保守修繕を除く管理案件は165件であった。

恵寿総合病院	110件	鳩ヶ丘	22件
和光苑	10件	鶴友苑	16件
その他施設	7件	合計	165件

■事業報告

震災対応以外の主な機器修繕は次の通りであった。

デリカサブライセンター：エアコン2台更新

恵寿総合病院：吸引ポンプ更新、落雷による自動火災報

知設備とエレベーター監視盤修繕

恵寿金沢病院：GHP室外機修繕

鳩ヶ丘：非常照明設備修繕、エントランス空調修繕

TQM委員会

■委員長

森下 毅

■副委員長

安井 智美

■2024年度のトピックス

『ATM：明るく、楽しく、前向きに』優秀賞は以下の通り

2024年10月15日（火）・16日（水）・18日（金）	場所：オンライン
1日目	地域包括ケアステーションの仕組みづくり
2日目	停電に備えたBCP改編～ATM（新しい停電時マニュアル）～
3日目	けいじゅ救急搬送サービス 運用システムの構築
2025年3月8日（土）	場所：七尾市文化ホール（ハイブリッド）
セッション1	多職種協働による身体的拘束解除に向けた取り組み
セッション2	RPA・部署モニターを活用したケア介入
セッション3	ペーパーレス化 ～ベクトルを束にして挑む～

■事業報告

能登半島地震の影響で開催できなかった2023年度後期大会を、2024年4月26日、30日、5月1日にオンラインで実施した。優秀賞は以下3演題。

1日目：入退院支援システムの有効活用

2日目：読影補助業務でのDX推進

3日目：動画を活用した入院時業務短縮の検討

福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

■2024年度のトピックス

2024年度永年勤続表彰者

勤続50年	1名
勤続40年	4名
勤続30年	8名
勤続20年	11名
勤続10年	52名

■事業報告

- 職員家族を対象とした「こども参観日」を実施した。
委員会メンバーでのスモールスタートを通して規模感やタイムスケジュールの確認と課題の抽出を行い、来年度からの本格開催につなげる事ができた。
- 昨年再開する事ができた忘年会は、残念ながら能登半島地震の影響で中止となった。

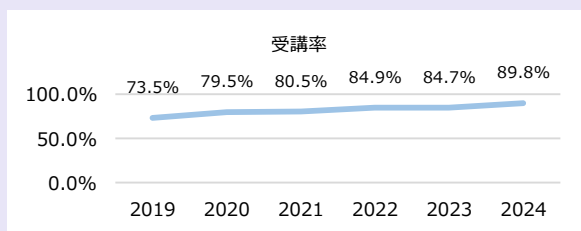
キャリアデザインプロジェクト

■委員長

松田 久良

■2024年度のトピックス

E-learning受講率は昨年度比大きく改善した。



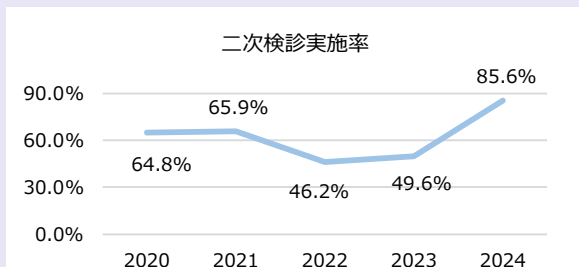
■事業報告

- 上半期は震災の影響もあり、E-learning対応できなかったが、下半期期初には補助金も利用して新しいE-learning「Waculba」を導入できた。
- E-learning受講率は新制度「Waculba」を全職員に周知・紹介する機会を設け、各部署に毎月受講率を報告することで、職員の意識も高まり、過去最高の水準となった。

健康委員会

- 委員長
松田 久良

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 二次健診の受診率向上を目指し、健診データの取り込み、受診勧奨メールの発信、上長への報告などDXを使った仕組みを構築した結果、受診率が大きく改善した。
- ② けいじゅ健康保険組合（健保）とコラボし、歯科無料検診制度を導入した。初年度として53名の申し込みがあった。

病院・施設委員会

- 委員長
吉田 茂和
- 副リーダー
内田 かおり、古木 恵美子

■ 2024年度のトピックス

委員会で情報共有した主な内容

地震、豪雨災害による穴水応援体制作り
介護DXの促進
研修計画と実施 介護初任者研修、マイスター研修（おむつ・ノーリフト）
介護グランプリ大会実施と県大会出場計画
Foot活出前授業（2回/年）

■ 事業報告

- ① 介護DXの促進として、「MaaS事業 介護送迎」、「入浴装置ピュアット」、「iPhoneインカム」、「持ち上げない移乗機器」などの、情報共有を実施した。
- ② 「iPhoneインカム」については、特に、使用方法・管理方法・業務改善を指導した。
- ③ ほのぼの（中能登町）、鳩ヶ丘（穴水町）でケアマネのサテライト化を行った。

給食戦略プロジェクト

- リーダー
神野 厚美
- 副リーダー
進藤 浩美

■ 2024年度のトピックス

地震による機器破損状況

本院	再加熱カート：3・5病棟 固定金具外れ、不具合、立体炊飯器：廃棄、新規購入
和光苑	立体炊飯器：廃棄、新規購入
鳩ヶ丘	立体炊飯器：廃棄、新規購入
鶴友苑	温冷配膳車：横転1台、不具合2台

■ 事業報告

- ① 能登半島地震後、断水中でも継続した給食提供についてまとめ、全日病学会で発表した。
- ② 各施設のサテライトでつくる主食が、アルファ化米等調達品から全施設立体炊飯器で炊飯できたのは5月だった。
- ③ 発災後、シダックスフード様が、各施設の未洗浄の食器を金沢に運び、協力企業の厨房で洗浄してくれたことに感謝したい。

クリーン&5Sプロジェクト

- リーダー
神野 厚美
- 副リーダー
進藤 浩美

■ 2024年度のトピックス

検討問題

本院	落下針、病棟天井等カビ、地下2F湿度・カビ、トラッキング問題、大腸菌検出、図書室5S、トイレのオムツ放置
金沢	ゴミリ、注射針
和光苑	天井カビ、大腸菌検出
田鶴浜・中能登	みおや・鶴友苑・診療所閉所

■ 事業報告

- ① オリックスファシリティーズ（株）の職員が、全社の標語募集で、6年連続、最優秀賞・優秀賞受賞。
『安全確認 やって悔いなし 慣れはなし 岡崎裕美作』
- ② 本年メンテナンスとして、特に汚れが目立った以下の箇所の清掃を実施した。：本院外来、ヘリポート、ビオラ通路、PET-CTセンター看板・外壁点字ブロック

地球温暖化対策推進プロジェクト

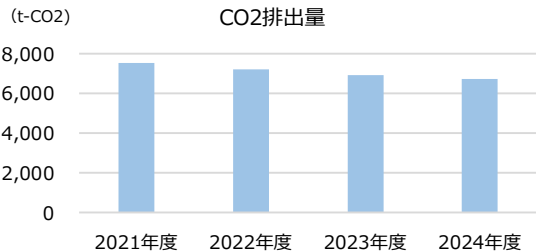
森下 毅

■ 2024年度のトピックス

CO2排出量

(t-CO2)

年度	CO2排出量 (t-CO2)
2021年度	7,600
2022年度	7,300
2023年度	7,000
2024年度	6,700



- ① 光熱費モニターを設置し、各部署から使用状況が速報値で確認することができ、省エネの啓発に役立っている。
- ② 董仙会全体の電気使用量は、前年度比87.9%となった。重油、ガス等含めても、86.7%と削減できている。旧式のボイラーを交換、廃止することでエネルギー効率が向上している。
- ③ CO₂排出量も減少傾向である。

- ① 光熱費モニターを設置し、各部署から使用状況が速報値で確認することができ、省エネの啓発に役立っている。
- ② 董仙会全体の電気使用量は、前年度比87.9%となった。重油、ガス等含めても、86.7%と削減できている。旧式のボイラーを交換、廃止することでエネルギー効率が向上している。
- ③ CO₂排出量も減少傾向である。

BCMプロジェクト

松田 久良

[illegible][illegible]

- ① 2024能登半島地震の発災を受けて、災害時携行カードの改定を行った。
- ② Teams「非常事態報告」が定着化し、職員の報告もスムーズに行われるようになった。職員の入退職に伴う入替もRPAをつかったメンテナンス体制を確立した。
- ③ レッドブック「董仙会BCM」はバージョンアップに向けて、検討を行ったものの、年度内の発刊には至らなかった。

- ① 2024能登半島地震の発災を受けて、災害時携行カードの改定を行った。
- ② Teams「非常事態報告」が定着化し、職員の報告もスムーズに行われるようになった。職員の入退職に伴う入替もRPAをつかったメンテナンス体制を確立した。
- ③ レッドブック「董仙会BCM」はバージョンアップに向けて、検討を行ったものの、年度内の発刊には至らなかった。

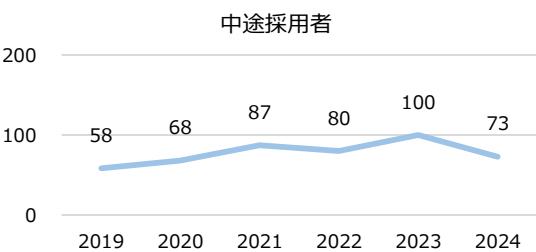
リクルートプロジェクト

松田 久良

■ 2024年度のトピックス

中途採用者

Year	Number of Mid-year Hires
2019	58
2020	68
2021	87
2022	80
2023	100
2024	73



- ① 能登半島地震発生に伴い、被災者の雇用維持の観点から、徳充会や地元企業からの出向やアルバイトの他、震災復興応援ナースなどを積極的に受け入れた。しかし、人材不足の影響は深刻で、中途採用者も低調に終わった。
- ② 本院事務部体制強化のため経験者1名を副部長として採用した。

- ① 能登半島地震発生に伴い、被災者の雇用維持の観点から、徳充会や地元企業からの出向やアルバイトの他、震災復興応援ナースなどを積極的に受け入れた。しかし、人材不足の影響は深刻で、中途採用者も低調に終わった。
- ② 本院事務部体制強化のため経験者1名を副部長として採用した。

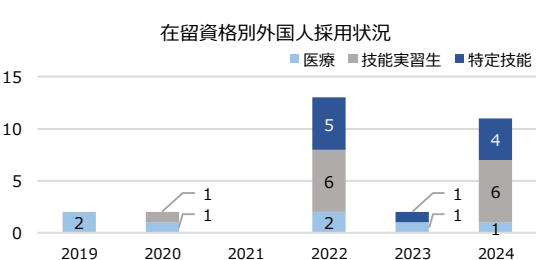
外国人職員受け入れプロジェクト

松田 久良

■ 2024年度のトピックス

在留資格別外国人採用状況

Year	Medical (医療)	Skills Practice Trainee (技能実習生)	Specified Skills (特定技能)	Total
2019	2	0	0	2
2020	1	1	0	2
2021	0	0	0	0
2022	2	6	5	13
2023	1	1	1	3
2024	1	6	4	11



- ① ベトナムダナン大学と連携し、介護特定技能外国人として初めて4名の職員を採用し、受け入れた。
- ② 介護技能実習生としてインドネシア人6名採用し、受け入れたが、うち2名は一旦帰国後、再度当法人の就職希望の技能実習生であった。

- ① ベトナムダナン大学と連携し、介護特定技能外国人として初めて4名の職員を採用し、受け入れた。
- ② 介護技能実習生としてインドネシア人6名採用し、受け入れたが、うち2名は一旦帰国後、再度当法人の就職希望の技能実習生であった。

復興対策本部

■理事長 ■常務理事 ■本部長 ■企画部長
神野 正博 神野 厚美 進藤 浩美 神野 彩

■2024年度のトピックス

【復興補助金申請】

- 介護施設としての復興補助金申請
2024年度内では終了せず次年度も申請継続
- 医療施設としての復興補助金申請
2025年度に申請予定
社会医療法人としての補助率は不明

【施設別損傷と修繕状況】

恵寿鳩ヶ丘	給排水損傷・施設内修繕
鶴友苑	杭基礎部分の損傷大→修繕不能
和光苑	給排水修繕→年度内では終了せず
デリカサブライゼーター	給排水・空調修繕
本館	免震構造EXPジョイント部分
3病棟	給水・空調・外壁の損傷→年度内では終了せず
5病棟	外壁など構造体の修繕

■事業報告

- 2024年度は1月1日に発生した能登半島地震による大規模な被害への対応を中心に行った。ライフラインの応急復旧を目指し、給排水・電気・空調などを仮復旧させ、事業継続を図った。
- 建築定例会議を1回/週以上開催し、修繕における方向性を統一し、工事の進捗確認も行った。大成建設との会議：46回、竹中工務店との会議：13回
- 七尾市・穴水町では地震による長期間の断水があり、年度初めは断水からは開放されたが、その影響を受け給排水の損傷確認が遅れた。
和光苑では、浄化槽の復旧不能と判断し、七尾市の下水管に接続した。しかし七尾市の下水管にも不具合が残存しており、BCMとして従前使用していた浄化槽を汚水桝として残し、緊急時に使用する計画とした。
恵寿鳩ヶ丘では、緊急復旧時に引き込んだ空港線の水道支線をBCMとして残すことを、穴水町に承認いただいた。現在、水道は精育園線に復旧した。また井水を検討したが、水脈が無く断念した。
- 杭基礎部分に損傷があり、BCMとして次の被害を食い止められないと判断し、鶴友苑の使用を止め閉苑した。

各種タスクフォース

■常務理事 ■理事長補佐 ■本部長
神野 厚美 神野 正隆 進藤 浩美

■2024年度のトピックス

今年動いたタスクフォース

常務理事	復興工事、キャリアデザイン、BCM
理事長補佐	データ経営、けいじゅフェスティバル
本部長	介護iPhone導入、国交省MaaS介護送迎
財務部長	復興関係補助金、鶴友苑・田鶴浜診療所閉所
総務部長	健康経営、人事評価制度、外国人プロジェクト

■事業報告

- 復興工事、施設閉鎖（みおや、鶴友苑、田鶴浜診療所）に伴う引越、各種契約・届出変更に時間を要した。
- AI導入にて、業務効率向上元年となった。
- 新人事評価制度を導入した。キャリアデザインプロジェクトのE-learningシステムにWaculbaを導入した。
- ダナン大学卒業生プロジェクトの介護職員が入職した。

医療事業統括部門 恵寿総合病院

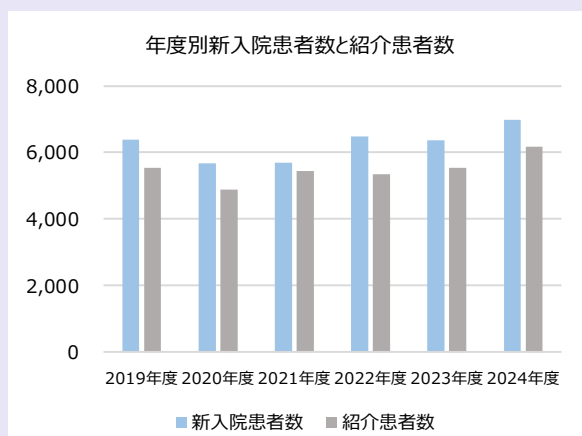
恵寿総合病院

■ 病院長

鎌田 徹

■ 2024年度のトピックス

地域貢献度や地域からの信頼度を示す重要指標である新入院患者数と紹介患者数は、コロナの影響を受け、2020年度は低下したが、その後は徐々に回復し、2024年度はいずれも過去最高を記録した。



■ 事業報告

- ① 病院指標等について（↑:前年比上昇、↓:同低下）
病床稼働率、平均在院日数、急性期の医療・看護必要度Ⅱは、83.5% ↑、11.4日 ↑、① 21.42% ② 31.3%だった。救急車受入数、新入院患者数、全身麻酔件数は1,809台 ↓、6,978人 ↑、963件 ↑だった。紹介・逆紹介数は6,181件 ↑、6,989件 ↑だった。
- ② 新たな取組・イベントなどについて
5月けいじゅ救急搬送サービス、AIによる胸部単純写真読影補助、ユマニチュード施設導入講演会。6月長生き健康サポート入院、電子処方箋、けいじゅ地域向け講座。7月『日本一働きやすい病院アワード』大賞。9月生成AI本格導入、けいじゅフェスティバル。11月わんこいん健診、いしかわ介護フェスタ介護技能グランプリ最優秀賞受賞。12月LINE公式アカウント開設、市民公開講座 in 羽咋。1月市民公開講座 in 七尾。
- ③ 今後に向けて
医療安全を基本とし、職員満足度を高めながら、医療・看護・介護の質と利用者さんへのサービス向上に努めねばならない。AIやDX推進などにより、本来業務以外を削減し、これまでのユマニチュードや救急搬送サービスなどの取り組みをさらにブラッシュアップする必要がある。

診療部

■診療部長

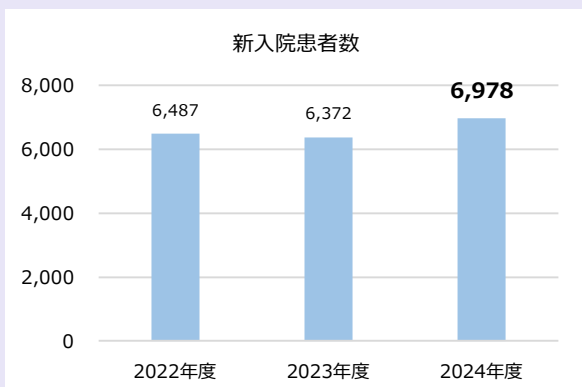
西澤 永晃

■診療副部長

能登 正浩、金田 朋也、伊達岡 要

■2024年度のトピックス

新入院患者数の増加を第1目標とした。年間累計では、前年度を9.6%増加し過去最多となった。院内で生成AIの活用が推進され、医師の負担軽減の対策の一環として、生成AIによる退院サマリの作成支援の実証実験を行い、実運用に至っている。



■事業報告

- ① 新入院患者数の目標を、530人/月としていたが、期中より570人/月に上方修正した。最終的には580人/月となり、目標を達成した。
- ② 手術件数は、前年度比111.4%と増加した。能登北部からの手術患者数も増加している。
- ③ 外来新患者数は、前年度比104.6%、外来総患者数も102.4%と増加した。
- ④ 医師の時間外労働の累計で、960時間を超えるものはなかった。
- ⑤ 生成AIを活用した、退院サマリ作成支援の実証実験を経て、実用化した。このほかにも、胸部単純X線画像診断サポートにおいても実証実験を行った。
- ⑥ 9月に行われた、けいじゅフェスティバルにおいて、医療体験ブーススタッフとして参画した。
- ⑦ 12月に羽咋市、1月に七尾市で市民公開講座を開催し、9名の専門医が、血液がん、肺がん、乳がん、消化器がん（胃がん、大腸がん、胆管がん、膵がん）について講演を行った。

消化器外科

■所属医師

能登 正浩、有東 緑、鳥居 真行

■2024年度のトピックス

2023年度は震災の影響もあり手術件数が大幅に減少したが、2024年度は回復の兆しがみられ、最近8年間のなかでは2番目に多い件数であった。



■事業報告

- ① 2024年度の手術件数は332件であり、過去8年間では2022年度に次ぐ2番目に多い件数だった。
- ② 2022年度が突出しているため、それ以降の手術件数がやや減少しているようにも見えるが、過去8年の経過で見ると徐々に増加している。手術時間・在院日数についての検討では、2022年以前と比較し2022年以降は大幅に改善を認め、その状態を維持している。
- ③ 今後、能登地域の人口減少に伴い手術件数の減少が懸念される。その対策として特別なアクションで何とかしようとするのではなく、目の前の患者に対して満足度の高い診療を提供していくことが、紹介を含む外来患者数、手術件数の安定につながると考えている。今まで通り地域に根差した満足度の高い医療の提供を目指して診療を継続したいと考えている。

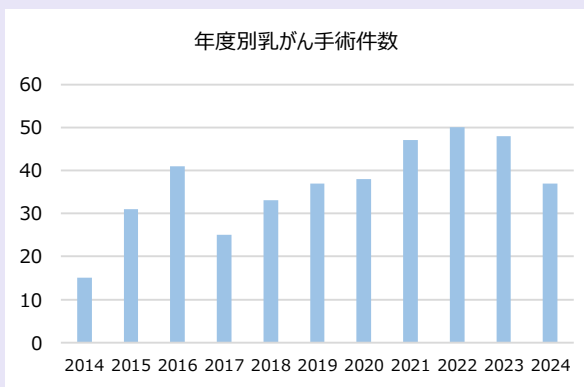
乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹、高井 優輝

■2024年度のトピックス

2024年度は令和6年能登半島地震による影響が大きく残る状態での診療となった。病院機能としては、通常診療、外来、入院、手術においても地震前と遜色なく行える状況であったが、乳癌検診を受ける方の減少が乳腺科の実績に大きく響いた。



■事業報告

- ① 乳腺外科において、住民乳がん検診で要精査となった2次検診目的の患者さんの受診が、外来新患者数の大きな割合を占めている。住民乳がん検診が癌症例発見や手術症例数増加には欠かせないが、令和6年能登半島地震後、住民乳がん検診を受ける患者さんが大幅に減少したことが当科の実績低下にも大きく影響した。通常、能登地区の患者さんは輪島病院で1次検診を受けたり、予防医学協会や成人病予防センターのバス検診を受けていたが、その両者ともが地震後に実施不能となった。昨年度半ばには道路が徐々に整備され、バス検診が徐々に可能となったが、豪雨災害で再度バス検診の予定が中止された地域もあった。（能登北部検診件数は25%減少というデータあり）
- ② これまで当科の手術症例は、概ね週に1例のペースであったが、去年度前半は月に1-2例程度しか症例がなく、極端に手術数が減少した。後半は生活が落ち着いた影響もあるのか、例年並みのペースに戻った。
- ③ 実際患者の話を聞くと、症状があり、もう少し早く受診したかったが、なかなか受診できなかったと言われる方も多く見受けられたため、2025年度は例年通り症例数の回復が見込まれる。

第2章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

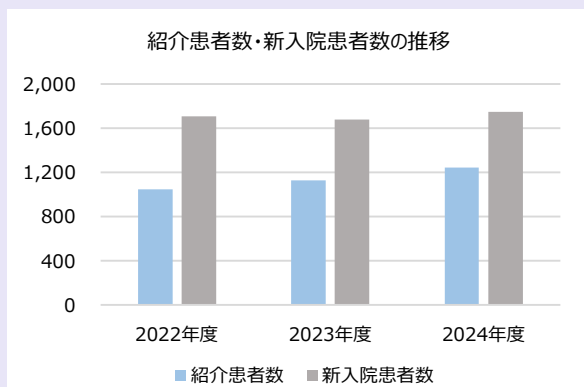
内科

■所属医師

宮本 正治、山崎 雅英、松岡 寛樹、中川 紀温、山崎 恵大、吉倉 昌平、熊野 奨、山本 祥博、築田 紗矢、三島 瑞樹

■2024年度のトピックス

専門性の高い診療を維持発展し、新型コロナウイルス感染症対応の主体も担った。連携医療機関との連絡を密にすることで、紹介・逆紹介患者・紹介入院患者は増加し、延べ外来患者数、新入院患者数も維持できた。



■事業報告

- ① 2024年元旦の能登半島地震の影響で能登北部の病院からの紹介患者数は減少したが、「医療を止めない」を合言葉に通常診療体制を維持した。
- ② 新型コロナ感染症対応として、家庭医療科、循環器内科、消化器内科と協力し、発熱外来の実施、新型コロナ感染患者の入院治療を行った。
- ③ 紹介患者数、逆紹介患者数、新入院患者数は2022年度から2024年度にかけて順調に増加した。
紹介患者数：1,045→1,124→1,245
逆紹介患者数：1,357→1,391→1,435
新入院患者数：1,704→1,679→1,745
- ④ 能登半島地震の影響もあり、外来新患数、外来総患者数は微減した。
総外来患者数：36,624→31,993→31,515
外来新患数：3,585→1,874→1,832
- ⑤ 急性期病院として入退院支援を充実することにより、延べ入院患者数は減少している。
延入院患者数：36,249→35,441→32,591
- ⑥ 金沢大学附属病院、金沢医科大学病院と連携し、専門性の高い診療を維持発展させている。

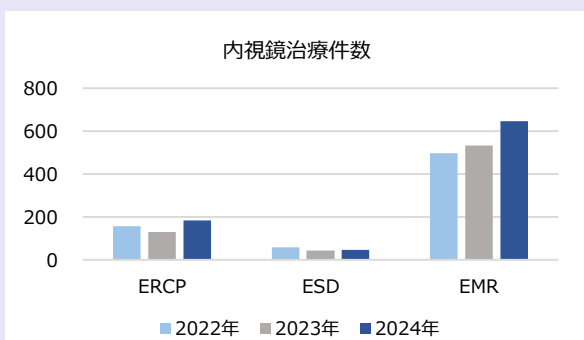
消化器内科

■所属医師

神野 正隆、藤原 秀、吉尾 隆利、大溝 知英

■2024年度のトピックス

内視鏡総件数はここ数年の中では最も多い9,576件となった。内視鏡治療件数は連携医療機関からの紹介件数が増加したことで件数も増加した。「膵がんMRI検診」からの早期膵がんの拾い上げにも積極的に取り組んだ。「市民公開講座」では消化器がん（胃・大腸・胆道・膵臓）についての講演を行い啓蒙活動を行った。



■事業報告

- ① 健診や外来における内視鏡検査のニーズに応え、総件数は右肩上がりである。当日内視鏡も検査数の制限を設けず、内視鏡検査・治療を行っている。総件数は9,576件とここ数年では最多だった（前年8,980件）。
- ② 内視鏡治療は引き続き24時間365日受入可能体制で能登北部・中部医療圏の連携医療機関からの紹介を中心に即対応し速やかに治療につなげている。
ERCP183件(前年128件)、ESD47件(前年43件)、EMR646件(前年533件)といずれも前年より増加した。内視鏡処置完遂率も95%以上を維持している。
- ③ 「紹介数」は796件と経時的に増加しており、「逆紹介数」は1,257件と前年と同等数であり、能登最後の砦として断らない医療を行いながら、状態の安定した患者さんの積極的な逆紹介にも引き続き注力をしている。
- ④ クリニカルパスにおいては、パス利用率は年間を通してほぼ100%で推移した。治療の標準化、医師・看護師・メディカルスタッフの業務負担軽減、生産性・効率性UPに寄与した。
- ⑤ データ分析（自病院分析・ベンチマーク分析等）結果を踏まえ、最適治療を心掛け、指標（平均在院日数や1日単価等）の改善を行った。

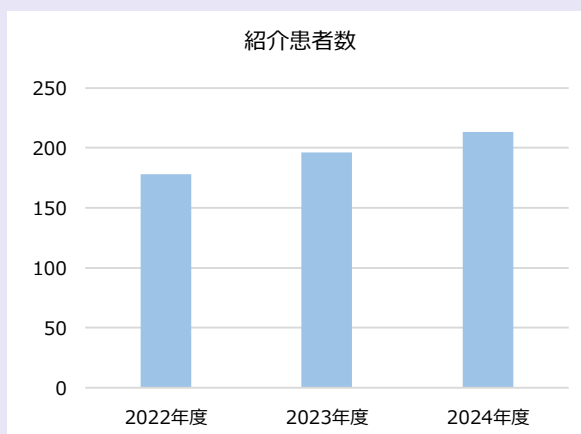
心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃

■2024年度のトピックス

紹介件数が増加した。前年比8%増加となり、そのうち能登北部の医療機関からの紹介件数は19件増加であった。



■事業報告

- ① 患者数実績
外来初診患者数：136人（前年比99.9%）
外来総患者数：2,597人（前年比91%）
新入院患者数：163人（前年比91%）
総入院患者数：2,709人（前年比111%）
総入院患者数は増加。その他は、前年度と同等。
- ② 手術実績
手術件数は157件（前年比98.7%）
下肢静脈瘤手術が54%と半数を占める。続いて、透析関係（シャント増設等）が15%、ペースメーカー関連が12%、動脈手術等が9%と続く。循環器内科とも連携をしている。
- ③ 令和6年能登半島地震の影響による、深部静脈血栓症予防の啓発活動（フォローアップ）を継続して行った。この取り組みについて、学会、研修会等で報告した。

循環器内科

■所属医師

金田 朋也、真弓 卓也、廣正 暁

■2024年度のトピックス

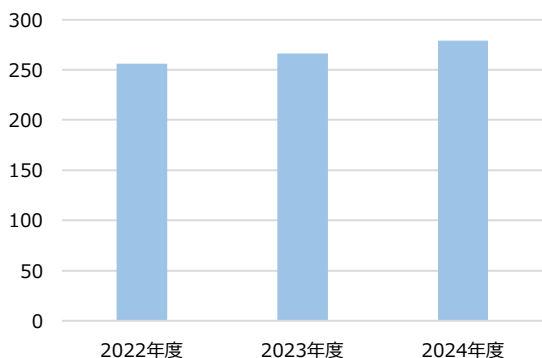
総外来患者数：7,904人（前年比 97%）

初診外来患者数：279人（前年比 105%）

延べ入院患者数：7,571人（前年比 106%）

新入院患者数：564人（前年比 101%）

初診外来患者数



■事業報告

- ① 4月から廣正医師が着任した。
- ② 経皮的冠動脈形成術 142件（前年比97%）
ペースメーカー植込み術 24件（前年比77%）
- ③ 冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、不整脈に対するアブレーション治療などの高度な治療を要する症例は、高度医療機関と緊密に連携し、安全で適切な医療に努めている。
- ④ 珠洲総合病院の出張外来を継続している。能登北部の地域医療に今後も貢献していく。
- ⑤ 金沢の高度医療機関と連携し、手術後や急性疾患の回復期や維持期の心臓リハビリを、外来や入院で積極的に行っている。

脳神経外科

■所属医師

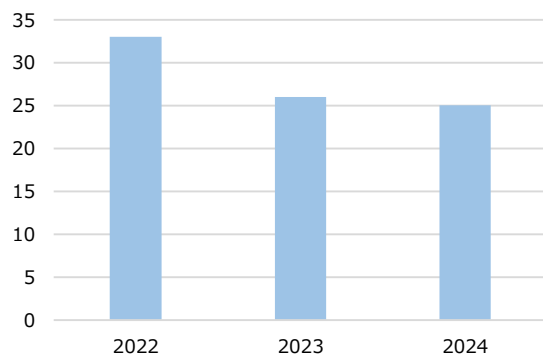
岡田 由恵、東 壮太郎

■2024年度のトピックス

① 2025年度の1日平均在院患者数は25人だった。

② 脳神経外科専門医を更新した。

平均在院患者数



■事業報告

- ① 新入院患者数：151人
手術件数：5件（慢性硬膜下血腫5例）
tPA症例：1例（血栓回収術症例が増加）
- ② 平均在院患者数は25人。
- ③ 能登総合病院をはじめとして、金沢大学病院、県立中央病院の脳神経外科で、超急性期治療終了後の転院受け入れ依頼に対し、回復期リハビリ病棟と調整して受け入れている。
- ④ 血栓回収術を含む緊急手術が必要な症例に関しては、公立能登総合病院、金沢大学附属病院、県立中央病院等と連携し、迅速に対応できる体制をとっている。
- ⑤ 脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤等で、高度な治療が必要な症例に関しては金沢大学脳神経外科と連携して、対応している。
- ⑥ 金沢大学脳神経外科から専門医を外来応援に派遣していただき、症例のコンサルテーションを行っている。

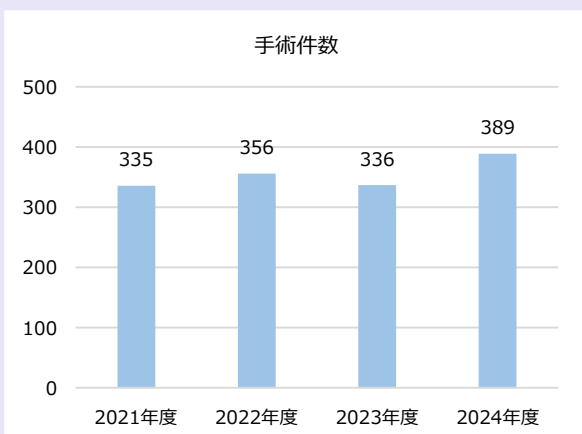
整形外科

■所属医師

森永 敏生、浅井 一希、辻 大祐、岸田 晟利

■2024年度のトピックス

手術は、昨年同様、変形性膝関節症に対する人工関節置換術、骨切り術、関節鏡視下手術に力を入れた。また大腿骨近位部骨折に対し、可及的早期に手術を行うように努力した。



■事業報告

- ① 4月から岸田医師が着任し、4人体制となった。辻医師が9月で退職し、10月からは再び3人体制に戻ったが、週1回金沢大学から応援医師を派遣してもらった。
- ② 初診患者数は878人（前年比15.5%増）であった。
- ③ 総外来患者数は15,697人（13.8%増）であった。
- ④ 新入院患者数は614人（11.6%増）であった。
- ⑤ 延べ入院患者数は20,525人（10.3%増）であった。
- ⑥ 紹介件数は423件（27.8%増）、逆紹介件数は484件（10.4%減）であった。
- ⑦ また珠洲、輪島、宇出津、穴水、富来の5病院からの紹介患者数は34人（17.2%増）であった。特に珠洲病院からの紹介患者数が前年度4人から13人へと大きく増加した。
- ⑧ 定期的にカンファレンスを実施し、看護師のみならず薬剤師、理学・作業療法士、放射線技師、MSW等のスタッフとの連携を重視している。
- ⑨ 今年度も、骨粗鬆症リエゾンチームの活動として、2次性骨折予防活動を展開した。全職員に対する研修を実施した。

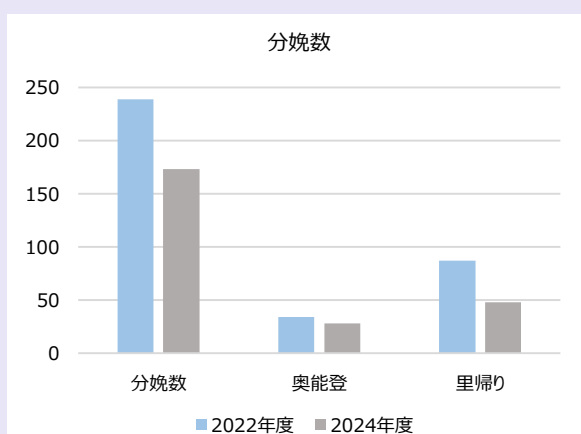
産婦人科

■所属医師

新井 隆成、安田 豊、小平 雄一、宮田 康一、
麻野 徳仁、山田 野々花

■2024年度のトピックス

当院の分娩数は震災の影響のなかった2022年度と比較して大きく減少した。特に里帰り分娩の割合が減少していることが、震災の影響と推察される。



■事業報告

- ① 令和6年能登半島地震後、能登地域の分娩取扱施設が5施設から3施設に減少した。特に奥能登地域唯一の分娩取扱施設であった市立輪島病院が分娩管理を行わなくなったため、七尾市の3施設で能登地域全体のお産を守ることとなった。
- ② 2018年から大災害時の能登地域周産期医療連携の強化を目指して活動してきた能登母子保健医療連携ネットワーク研究会の地域連携活動は、令和6年能登半島地震以後、母子を守る活動において効果を上げた。その連携の実績は、その後も強く引き継がれており、分娩取扱施設3施設の情報共有は常に良好に維持されている。今後も能登地域のお産を守るために、大災害時を想定した地域医療連携強化活動を継続していく必要がある。「能登のお産は安全」という状態を維持することが、分娩のために里帰りを安心してできる地域を守る唯一の手段であると言える。

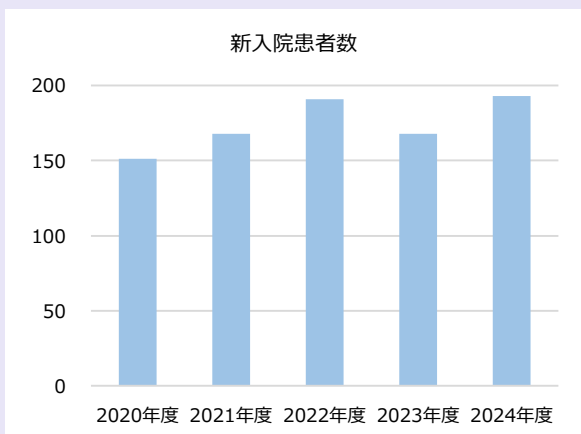
総合診療科（家庭医療）

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、徳永 達信

■2024年度のトピックス

新入院患者数は一昨年水準に回復したが、家庭医療科医師の退職意向により2024年度末で家庭医療科の入院診療は終了となった。



■事業報告

- ① 年度後半に医師1名の退職があったが、新入院患者数は一昨年水準まで回復した。
- ② 主な疾患は、誤嚥性肺炎、腎・尿路感染症、心不全、体液量減少であった。レスパイト入院も積極的に受け入れている。
- ③ 家庭医療科医師の退職意向により、2024年度末で家庭医療科の入院受け入れは終了となった

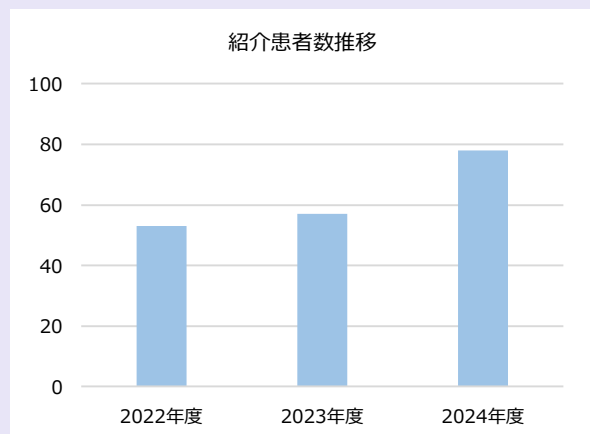
小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、清水 一秀

■2024年度のトピックス

2024年度より金沢医科大学小児科教授伊川泰広先生（血液、悪性腫瘍専門）が毎週水曜日午前小児科外来に非常勤講師として赴任した。さらにポケメドによる予防接種予約が定着し利用者の利便性が向上した。



■事業報告

- ① 小児科は常勤医師3名（1名は鳥屋診療所兼務）で一般小児疾患の診断、治療、乳児検診、予防接種業務を中心として活動している。さらに金沢大学・金沢医科大学より免疫アレルギー、血液、内分泌、神経の各専門医の派遣を受け小児科専門外来を開設し能登全般の小児科医療に貢献している。
- ② 夜間に関しては毎週水曜・金曜の午後6時～12時まで夜間診療を行い、休日は地域の医療機関と連携し輪番制による休日診療に参加し地域医療に貢献している。また外来診療で不十分と判断された患児には入院治療を行い、さらに重症症例に関しては大学病院などの高次医療機関と連携して対応している。
- ③ 発熱患者はコロナ時期に引き続いて発熱外来にて診療し院内感染予防を徹底して行っている。
- ④ 産科との連携で24時間拘束体制を取って分娩時の新生児の異常に対応している。PokeMedアプリで小児科診療予約や予防接種予約も積極的に行っている。

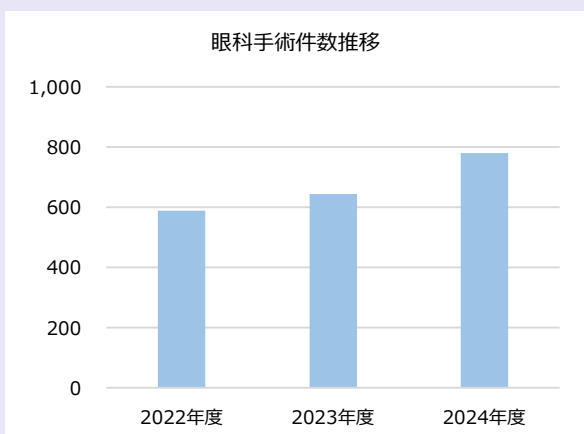
眼科

■所属医師

馬渡 嘉郎、杉山 和久

■2024年度のトピックス

2024年度の手術件数は、2023年度を大きく上回る779件だった。他の医療機関との連携を大切にしながら、外来・入院体制の維持を継続して行っていく。



■事業報告

- ① 連携医療機関の先生方の期待に沿えるよう、最新の知見に基づいた治療の選択肢を患者に提供できるように努力した。
- ② 手術では白内障手術を中心に、眼瞼下垂症手術、眼瞼内反症手術、緑内障手術、硝子体手術等に力を入れ、低侵襲で最新の手技を心掛けている。
- ③ 外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、患者負担の少ない投薬、通院の仕方を提供できるよう心がけている。
- ④ 緑内障治療においては、低侵襲の緑内障手術を開始、実施している。通院と点眼の負担軽減目的に点眼加療と手術を組み合わせた治療を提案している。
- ⑤ 今後、アンギオOCTと超広角眼底カメラの導入予定であり、さらに短時間低侵襲の検査が可能となる。診断力も高まり慢性疾患の経過観察に寄与できると考える。

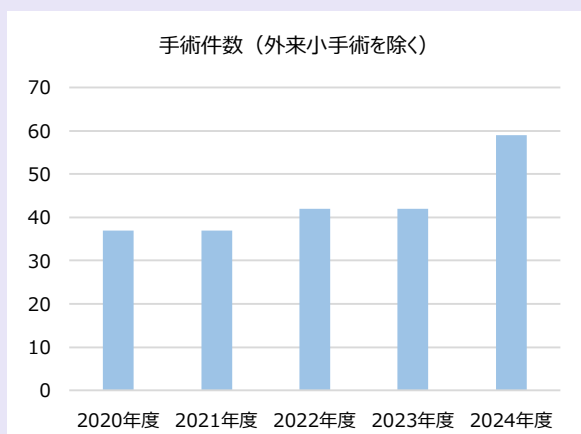
耳鼻咽喉科

■所属医師

山田 和宏

■2024年度のトピックス

手術件数（外来小手術を除く）は、例年と比較して増加した。



■事業報告

- ① 2024年度 患者数・手術件数
外来患者数：5,810名
初診患者数：450名
新入院患者数：113名
手術件数（外来小手術を含む）：130件
- ② 新入院患者数が増加した。
73名（2022年度）→86名（2023年）→113名（2024年度）
- ③ アレルギー性鼻炎の患者に対し、内服薬や点鼻薬といった保存的治療以外に、外来日帰り手術の下甲介粘膜焼灼術（アルゴンプラズマ凝固）も提案し、治療の選択の幅を広げている。
- ④ わかりづらい耳鼻咽喉科の疾患について、十分に理解していただけるよう、耳・鼻・咽喉頭の解剖の図や模型を用いるなどして丁寧な説明を心がけた。
- ⑤ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

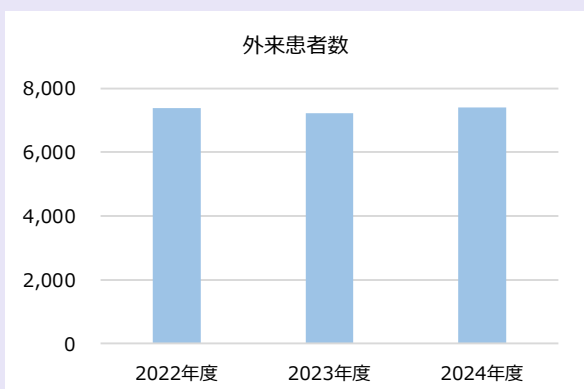
泌尿器科

■所属医師

菅 幸大、川村 研二

■2024年度のトピックス

外来患者数が前年度比2.5%の増加となった。紹介数も72%増加した。



■事業報告

- ① 外来患者数が増加した。初診患者数が40%増加、紹介件数も75%と増加した。
- ② 総入院患者は減少したが、他科からの院内対診数、処置等の対応件数は増加した。
- ③ 手術件数は前年度とほぼ同等であり、主な手術内容は、体外衝撃波腎・尿管結石破碎術が29%、経尿道的尿管ステント留置術が20%である。
- ④ 看護師とも協働して、排尿自立支援にも力を入れており、排尿自立支援加算の算定件数は、39%増加となった。

麻酔科

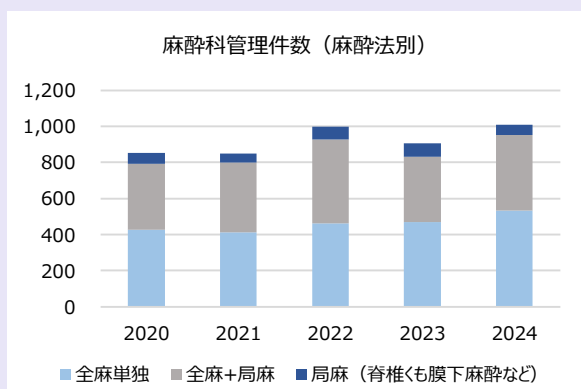
■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦、神野 彩

■2024年度のトピックス

麻酔科管理件数は増加し、震災以前の件数まで回復した。奥能登地区からの紹介、緊急手術が増加している。

- ① 麻酔科管理手術件数 1,008件（前年度906件）
- ② 総麻酔管理時間 2,678時間（前年度2,398時間）
- ③ 緊急手術割合 35%（前年度37%）



■事業報告

- ① 麻酔科管理件数
前年度比増加し、震災以前の件数まで回復した。奥能登地区からの紹介、緊急手術が増加している。
- ② 総麻酔時間
件数の増加に従い時間数も増加した。内視鏡手術など高度で長時間の手術も増えてきている。
- ③ 緊急手術割合
35%と高い割合を維持している。3名の麻酔科医を有効に配置し、滞りなく緊急手術に対応した。また、夜間休日の拘束体制を維持した。
- ④ 無痛分娩取扱数
前年度比減少した。全分娩数の19%を取り扱った。他院からの紹介や遠方よりの受診も見受けられるようになった。能登地区においても、出生数が減少傾向のなか、当院の分娩数は安定しており、今後も母体管理体制を整え安全性と質を高め、より潜在的ニーズに応えていけるよう努力したい。
- ⑤ 緩和ケアチーム対応患者数（※緩和ケア科参照）
前年度比横ばいであった。これからも、多職種や在宅医療と協力しながら、患者さん、ご家族が少しでも満足できるよう質の高い対応をしていきたい。

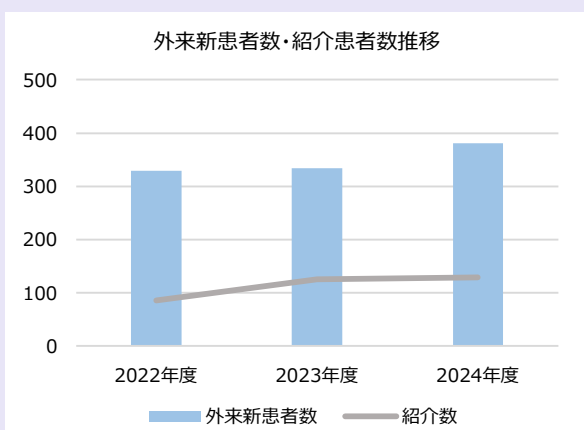
皮膚科

■所属医師

小野 弘登

■2024年度のトピックス

- ① 日本皮膚科学会専門医（1名）が新たに誕生
- ② 外来新患者数381人、紹介患者数129人で直近3年で増加傾向
- ③ 乾癬分子標的薬使用承認施設取消となった



■事業報告

- ① 新患者数は直近3年で増加傾向である。
（329→334→381）
- ② 紹介患者数は2022年度から2024年度にかけて順調に増加した。（85→125→129）
- ③ 2024年より乾癬分子標的薬使用承認施設取消となった。維持投与のほか、薬剤変更が必要な患者には関連施設と連携し速やかな製剤変更を行う事ができた。
- ④ iPhoneを用いた写真撮影で、入院患者の褥瘡の状態や皮膚障害の状態を共有することで迅速な検査・診断・治療を開始できた。これにより業務の効率化と医療の質向上が図られた。
- ⑤ 褥瘡委員会と褥瘡回診を通じて、院内スタッフの褥瘡に対するアセスメントが向上した。多職種と協力し、質の高い対応をしていく。

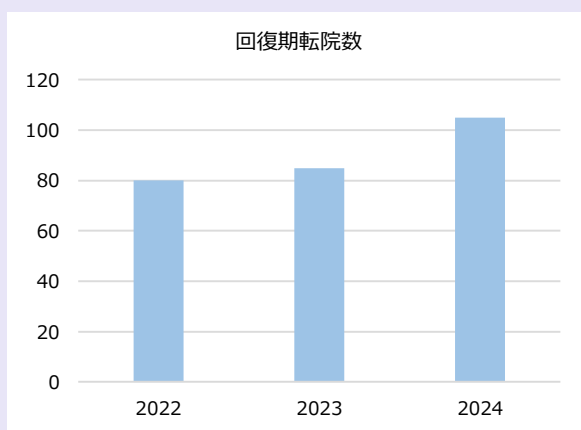
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、小竹 源紀、和田 洸也

■2024年度のトピックス

回復期リハビリ病棟への紹介転院数は年々増加しており、初めて100例を超え、105例であった。
早期アルツハイマー病治療外来を創設し、アミロイドPET検査後アミロイドβ抗体薬を4例で使用。



■事業報告

- ① 年間のリハビリテーション処方数は3,800と年々増加している。
- ② 回復期リハ病棟転院数は過去最高の105例、回復期でのリハ科転科数も37例であった。
- ③ ポツリヌス治療数は95回と例年並み、治療後のリハビリ入院（地域包括ケア病棟）は22例あった。
- ④ 認知症ケアDr回診患者はのべ100名であった。
- ⑤ 身体抑制率低下（2%台）に貢献した。
- ⑥ レカネマブ注射開始患者が4名あり、初めての能登地域でのMCI治療開始となった。
- ⑦ 能登脳卒中地域連携協議会活動は従来通り遂行され、講演会、症例検討会、市民公開講座などを開催した。新たにケアマネ勉強会も立ち上げた。
- ⑧ スタッフと看護・介護に役立つ「リハの知恵とワザ」という本を執筆し出版した。

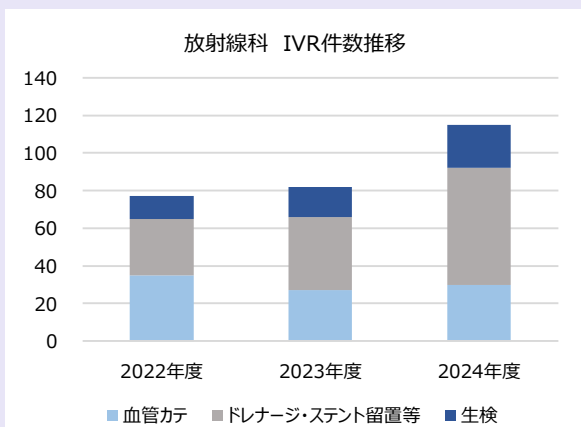
放射線科

■所属医師

角 弘諭

■2024年度のトピックス

IVR件数は今年度、大幅な件数増となった。肝胆道系のドレナージ、ステント留置術とCTガイド下生検が前年度に比べ約1.5倍となった。



■事業報告

- ① 血管カテーテル検査・治療件数：30件
(前年度比111%)
- ② ドレナージ・ステント留置等件数：62件
(前年度比159%)
- ③ CTガイド下生検：23件 (前年度比144%)
- ④ CT件数：15,941件 (前年度比104%)
- ⑤ MRI件数：4,485件 (前年度比107%)
- ⑥ 一般撮影：34,331件 (前年度比104%)
- ⑦ マンモグラフィ件数：3,196件 (前年度比100%)
- ⑧ 骨塩量測定件数：1,405件 (前年度比100%)
- ⑨ 健診胃透視件数：647件 (前年度比82%)
- ⑩ 共同利用件数：381件 (前年度比111%)
(CT:182件/MRI:102件/PET-CT:97件)
- ⑪ 金沢大学放射線科 井上医師ご協力の下、膵がん健診としてMRI撮影を健康管理センターとコラボレーションし、画像診断にて膵がんの早期発見につなげている。2021年4月の開始より150件、2024年度は52件であった。

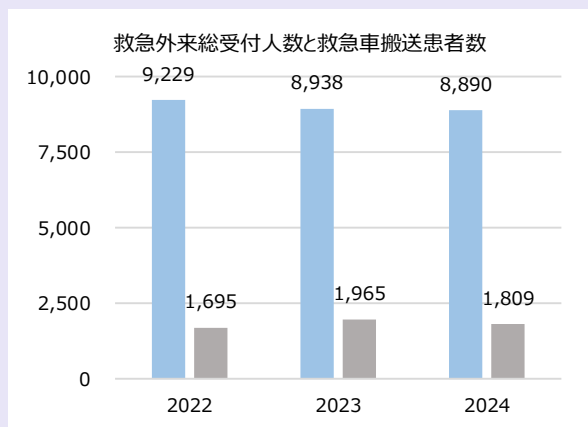
救急科

■所属医師

米田 高宏

■2024年度のトピックス

救急搬送患者数は過去最高だった2023年度に比して1,809人と微減にとどまった。地域に根付く総合病院として、年間救急車受入不能件数の5件（前年度20件に比して激減）は地域医療に非常に貢献している証といえる。



■事業報告

- ① 救急搬送患者数は1,809人（前年度1,965人）
- ② 救急外来受診数は8,890人（同8,938人）
- ③ 救急搬入患者の年間入院は963人（入院率としては53%）だった。（同53%）
- ④ 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医を維持・更新できている。
- ⑤ 救急車受け入れ不能件数は年間5件と前年20件から激減した。
- ⑥ CT・MRIの読影レポート結果確認率100%であり、さらに必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。
- ⑦ 研修医のER研修は継続して力を入れてきた。
- ⑧ 救急科への紹介患者数は103件だった。
(同106件)
- ⑨ 医療秘書課と連携している逆紹介件数は182件だった。
(同261件)
- ⑩ 返書作成日数は1日とほぼほぼ当日中に作成・FAXできている。
- ⑪ 「普段かかりつけ医、時々恵寿総合病院」という医療連携のつどいで発表した各医療機関との連携を実践している。

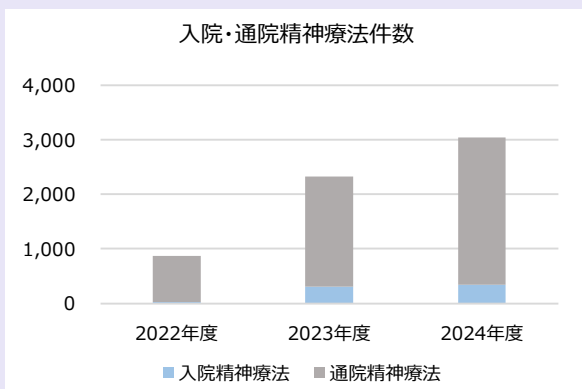
心療内科（精神科）

■所属医師

丸山 晃弘、中川 東夫

■2024年度のトピックス

昨年度より医師2人体制となり、外来・入院ともに、より充実した診療を提供できるようになった。外来患者数、精神科専門療法件数も大きく増加した。公認心理師も1名増員し4名となり、外来や入院中（緩和ケアを含む）の患者への対応にも注力している。



■事業報告

- ① 外来診療日は昨年度と同じだが、患者数は平均204人/月から264人/月に増加、初診患者数も89人/月から101人/月に増加するなど、堅調に推移した。
- ② 2024年度初診患者における傷病上位は以下であった。（※重複あり）
 - ・神経症性障害ストレス関連障害及び身体表現性障害（パニック障害、不安障害、適応障害等）：55名
 - ・睡眠障害：35名
 - ・アルツハイマー型認知症を含む認知症疾患：30名
 - ・気分・感情障害（うつ病等）：21名
- ③ 丸山医師の経験を活かし、訪問診療にも注力し、身体疾患と精神疾患の両面からの診療とケアを提供した。
- ④ 臨床心理課（公認心理師4名）と密に連携し、必要に応じて心療内科における心理カウンセリング、心理検査等を受けられる体制を整えている。加えて、がん患者への心理的援助も積極的に行っている。
- ⑤ 総合病院であることの強みを活かして、他診療科、看護師、リハビリテーションスタッフなど多職種と連携し、患者の治療にあたっている。

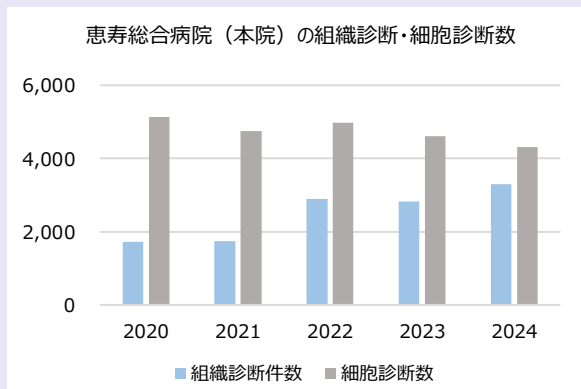
病理診断科

■所属医師

上田 善道

■2024年度のトピックス

病理医2名（常勤、非常勤各1名）、検査技師は1名増え4名となった。1名が細胞診スクリーナー資格を取得し、2名での細胞診診断体制となった。恵寿総合病院本院の病理診断、術中迅速、細胞診に加え、アルプ病理との連携で、恵寿金沢病院ならびに能登地区連携病院の診断を行った。

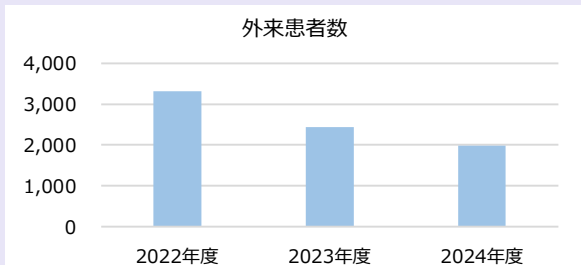


■事業報告

- ① 病理組織3,293件（△472）、術中迅速30件、細胞診4,318件、病理解剖2件（△1）の診断を行った（図は最近5年間の病理組織・細胞診診断数の推移を示す）。
- ② 免疫染色797件（△167）（3,229抗体）、特殊染色 545件、in situ hybridization 35件、T、B細胞性リンパ腫のPCR法による遺伝子解析15件を実施し、病理組織診断の精度を高めた。
- ③ 研修医 C.P.C.を1回開催し、発表とレポート作製を指導した。
- ④ グループ施設である恵寿金沢病院の病理組織262件、細胞診989件の診断を行った。
- ⑤ アルプ病理からの受託診断（病理組織診断4,618例（△290）；細胞診診断379例（△5））を行い、北陸3県、特に能登地区の地域連携に貢献した。
- ⑥ 本院の病理組織診断症例を英文医学雑誌に報告し、学術的な貢献を行った。

脳神経内科

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 非常勤医師による診療体制となっている。診療日は、毎週水曜日と金曜日のそれぞれ午前中となっている。
- ② 変性疾患を主体とする診療内容である。早期認知症治療も行っており、必要に応じて脳神経外科やリハビリテーション科との連携を図っている。

緩和ケア科

■ 所属医師

櫛田 康彦

■ 2024年度のトピックス

新規紹介患者に対する症例検討会、1～2ヶ月ごとの委員会開催を実施。症例検討会には、研修医も参加。緩和ケア科での見取りは1名。緩和ケア実施計画書を作成した。

緩和ケア紹介患者数

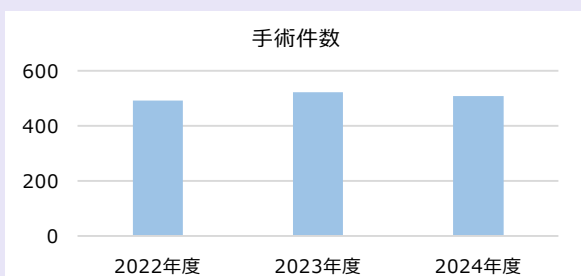
2022年度	52名
2023年度	47名
2024年度	41名

■ 事業報告

- ① 数名の方にPCAポンプを用いて鎮痛薬を投与したため病棟看護師に使用方法を確認した。
- ② 2024年12月14日に能登地区における緩和ケアに携わる医療従事者の委員会を行い情報伝達ツールを確認した。
- ③ 緩和ケア紹介患者さんは、精神的苦痛を伴っている方が多く、心療内科、公認心理師に介入していただいた。

形成外科・美容外科

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

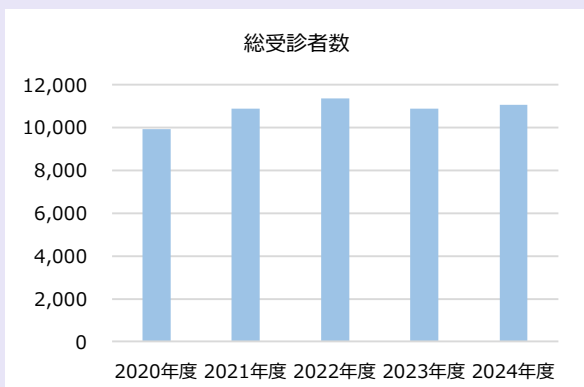
- ① 年間の初診患者数は前年度比4%増加した。外来総患者数も前年度比3%増加している。紹介患者数は26%増加し、今後も連携強化を図っていく。
- ② 外来手術を含む全手術件数は508件で、前年度に引き続き年間500件以上の手術を施行した。皮膚、皮下腫瘍摘出術をはじめ、多岐にわたる手術を施行している。

健康管理部

- センター長 ■副センター長
上野 恭一 桐山 正人

■2024年度のトピックス

2024年度は、令和6年能登半島地震の復旧工事に対応しつつ、健診業務を行った。受診者の皆様に安心して健康診断を受けていただけるよう、関係部署と連携し、健診手順を整備した。総受診者数は増加し、前年度比101.6%であった。



■事業報告

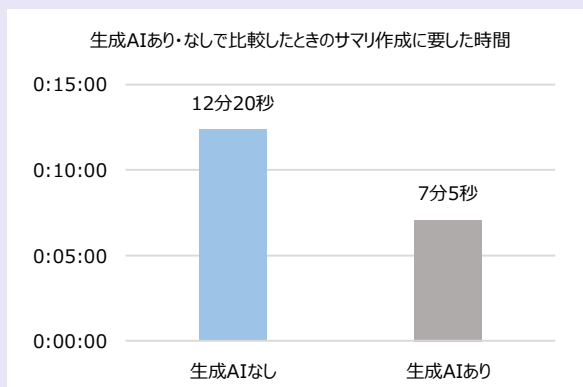
- ① 2024年度 受診者数実績
総受診者数：11,062名
1日当たりの受診者数：46名
一泊二日人間ドック受診者数：521名
日帰り人間ドック受診者数：1,300名
- ② 震災の復旧工事
2025年1月～3月の期間、能登半島地震の復旧工事のため、健診業務を3病棟6階に移転して実施した。移転期間中は、受診者の皆様にご不便をお掛けしたが、予定していた人間ドックおよび健康診断はすべて滞りなく実施できた。
- ③ 健診体制の見直し
健診時の尿検査体制を見直した。従来は、来院後に採尿するためにトイレ利用時に混雑が生じていた。そこで、自宅で採尿して持参いただく方式に変更した結果、採尿時の混雑が解消され、健診をスムーズに進めることができるようになった。
- ④ オンライン資格確認の導入
資格確認限定型のオンライン資格確認を導入し、マイナンバーカードによる資格確認を可能にする体制を整備した。

看護部

- 看護部長
阪口 智恵

■2024年度のトピックス

当院で元来取り組んでいた医療DXに加え、恵寿セルケア方式、生成AIを活用した看護サマリーや議事録の作成、優しさを伝えるユマニチュードの取り組み等が、業務の効率化によって看護業務に専念できる魅力的な職場として認められ、「日本一働きやすい病院アワード2024」で大賞を受賞した。



■事業報告

- ① 生成AIの活用
試行病棟を2病棟（本館5西・6東病棟）決定し、生成AIを用いて看護サマリーの作成に取り組んだ。サマリー作成に要する心理的負担感の低減かつ作成時間を43%削減した。この効果をもとに生成AIを活用したサマリー作成を全病棟で拡大した。
- ② ユマニチュードの導入（初年度）
 - ・全職員対象にユマニチュード法人研修（5月）を実施した。
 - ・試行病棟（本館5西、地域包括ケア病棟）の看護師2名・介護士2名、リハビリテーションセラピスト2名が実践者育成4日間研修（5月～6月）を受講し、講師の指導のもとユマニチュードを実践した。
 - ・部署の推進者となるよう主任会で学習会を実施した。
 - ・各病棟でユマニチュードの4つの柱と5つのステップについて学習会を実施し、毎月集中的に取り組むステップを決め、実践時はシールを貼るなど可視化して取り組んだ。
- ③ Web問診の開始
9月から入院前・入院時Web問診を開始した。これにより患者参加型の情報共有のしくみができた。

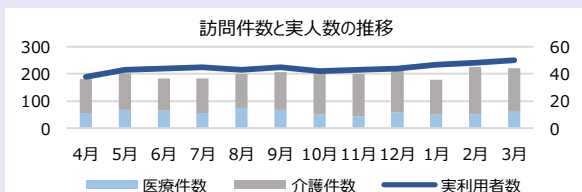
恵寿総合病院訪問看護ステーション

■ 所長

久能 恵美

■ 2024年度のトピックス

震災の影響で減少していた実人数は期首38人から期末50人まで回復した。



■ 事業報告

- ① 地域包括ケアステーションとして、院内からの新規獲得に向けて、8月より在宅サービス事業所で検討会議を実施した。院内紹介数:51件中27件（2024年度）
- ② ターミナル期で訪問看護介入時、訪問件数を増やし、手厚く看護できるよう取り組んだ。

医療訪問看護件数 2022年度：604件

2024年度：713件

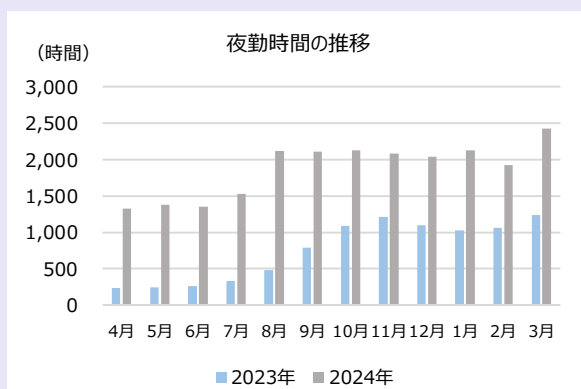
介護部

■ 部長

内田 かおり

■ 2024年度のトピックス

開設当初から掲げていた「目指せ！介護部100人」を9月1日付けで達成した。その後も100人以上をキープし各病棟に介護士を配置した。増員したことで夜勤人数が増え、夜間の時間帯も昼間と変わらず手厚くお世話を行うことができた。夜間100対1から、50対1を取得。



■ 事業報告

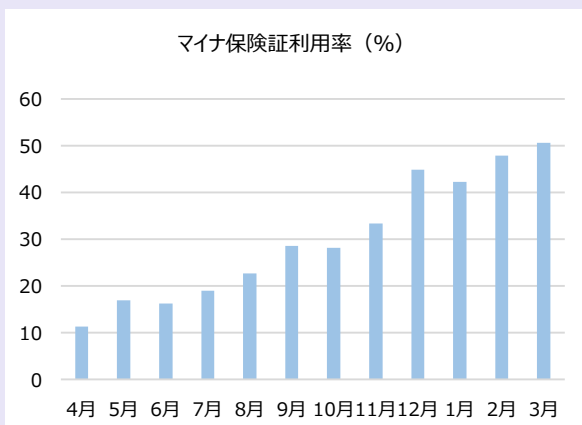
- ① 身体拘束解除に向けた取り組み「KDS（講堂に集合）」を年間60回、月平均6回実施した。1回の参加者平均は5～6人で多い時で10人弱だった。Foot活体操、10のストレッチ、オミビスタ、床サッカー、風船バレーなど、身体を動かすことができる内容を中心に実施した。
- ② 介護士の増員によって、夜間の人員配置を強化した。急性期看護補助体制加算（25対1）と夜間50対1を取得した。今後も時間確保と維持に取り組む。
- ③ 9月に介護部100人達成し、くす玉割イベントを行った。
- ④ 介護DXの促進として、全病棟でインカムを使用し、入浴送迎業務を改善した。
- ⑤ 入浴機器ピュアットを導入し、皮膚の保湿や入浴時間の短縮につながり、入浴業務が改善できた。
- ⑥ Foot活出前授業を2回/年実施した。
- ⑦ コマニチュード研修に4名が参加した。
- ⑧ 資格取得を目指し、介護福祉士試験に4人が合格した。初任者研修を8人が取得した。
- ⑨ 正職員のうち、介護福祉士資格所有者78%、初任者研修（旧ヘルパー）受講者22%となり、全員が介護系の資格を取得した。

事務部

- 事務部長
森下 毅

■ 2024年度のトピックス

マイナ保険証利用の推進や電子処方箋の運用開始に加え、あと払い・薬配送サービスの導入、生成AIやRPA活用による業務効率化、ペーパーレス化の推進など、多方面でDXを進展させた。



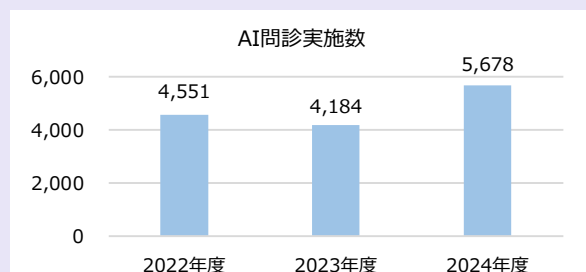
■ 事業報告

- ① マイナ保険証の利用促進に努めた。2025年3月時点での利用率は50%程度となり、全国平均を上回る水準で推移している。
- ② 近隣医療機関に先駆けて電子処方箋の運用を開始した。
- ③ 医療費あと払いサービスと、とどくすり（薬の宅配）サービスを開始。随時、会員（無料）募集を行っている。会員の増加により、会計待ち時間、あるいは調剤薬局での待ち時間短縮効果が期待できる。
- ④ 生成AIの活用が始まった。事務業務においては、会議・委員会議事録作成、退院サマリの作成代行、種々の書類の内容要約などである。さらに利用場面を拡大して業務負担軽減を図る。
- ⑤ ペーパーレス促進の一環として、承認申請ワークフローをオンラインで自動化する体制構築を行った。これにより、申請書類の紛失を防ぐだけでなく、申請から決裁にかかる期間短縮効果が得られた。その他にも、RPA活用業務数が増加している。
- ⑥ 全国の学会や研修会での発表や講演、雑誌の執筆等の回数が増加した。

けいじゅサービスセンター サービス課

- 部門代表者
金子 幸代

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

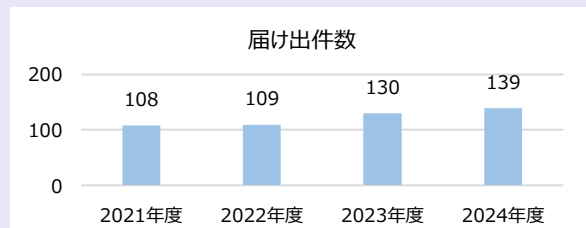
- ① マイナ保険証誘導スタッフ、初診患者のAI問診入力サポートスタッフを充実させて、高齢者に対するサービス向上に取り組んだ。
- ② 新たにホスピタルコンシェルジュ2級1名、3級2名、電話応対技能検定3級1名、4級1名取得した。

医療情報事務センター 管理課

- 部門代表者
松木 尊紀法

■ 2024年度のトピックス

2024年度の施設基準の届け出件数は139である。



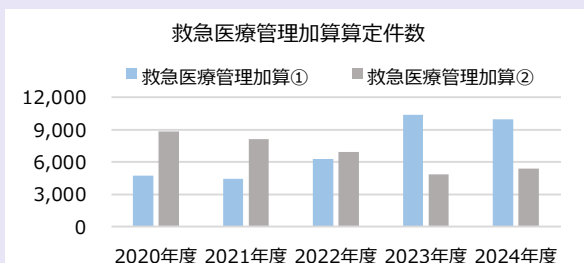
■ 事業報告

「事務部に係るペーパーレス化を進める」をテーマにTQM活動を行った。事務部内で管理できる書類を運用対象とした。申請フローをオンライン・自動化することで、紙の節約だけでなく、申請から承認までの時間短縮が認められた。医師派遣依頼書、室料差額減免申請書などを移行した。引き続き、電子申請化できるものを拡大していく。

医療情報事務センター 医事課

■部門代表者
竹田 慎一

■2024年度のトピックス



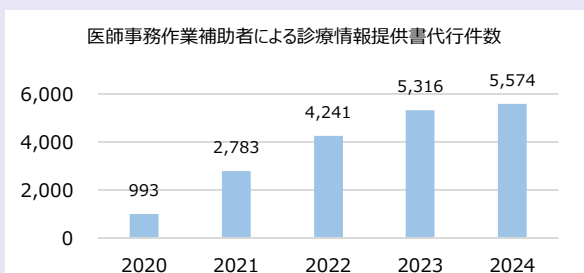
■事業報告

- ① 救急医療管理加算の算定に力を入れ、医師とのコミュニケーションを図り連携を強化した結果、昨年度に引き続き2024年度も算定件数は好調をキープした。
- ② マイナ保険証の利用促進をサービスセンターと協力して確認件数の強化に努めた。2025年3月時点での利用率は50%程度となり、全国平均を上回る水準で推移している。

医療情報事務センター 医療秘書課

■部門代表者
三浦 有紀

■2024年度のトピックス



■事業報告

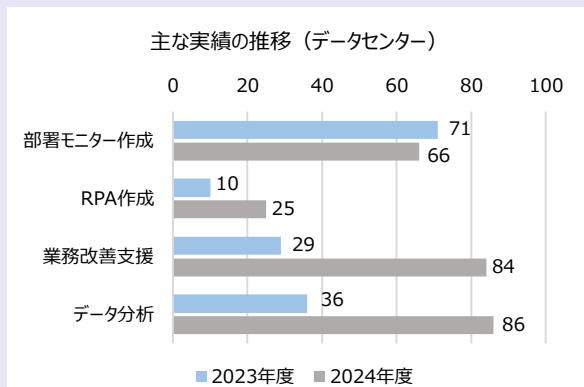
- ① 逆紹介を含む診療情報提供書代行件数は、5,574件（過去最高）となった。
- ② 日本医師事務作業補助者協会 第13回全国学術集会において「医師事務作業補助者による逆紹介推進サポート」について発表、優秀演題賞を受賞した。

データセンター

■部門代表者
神野 正隆、川腰 晃弘

■2024年度のトピックス

新たに66の部署モニターを作成、法人内に展開し、Data Driven Healthcareの更なる進化・拡充を図った。また、RPAやOfficeソフト等を用いた業務支援、データ分析は計190を数え、各部署における業務改善や問題解決に大きく貢献した。



■事業報告

- ① 「診療情報管理室」と「DATA LAB」で構成される。
- ② 診療情報管理室：診療情報管理の側面から医療の質向上に寄与することを目標とし、NCD（342件）、がん登録（570件）等の症例登録や、外部調査・院内からのデータ依頼（65件）など情報提供を行った。
- ③ DATA LAB：主に以下の3つを担う。
 1. 法人内に点在する膨大なデータを一元管理し、いつでも、誰でも、わかりやすく様々なデータをモニターで閲覧可能にする徹底した見える化を行っている。それを各部署にフィードバックし日々のKAIZEN活動（TQM等）に活かしてもらっている。本年は66の部署モニターを新たに作成。
 2. RPAは、現在130以上のロボットが常時稼働し、年間削減業務時間は12,000時間超。主な効果として、医療の質の向上、業務の効率化、収益の向上等が挙げられる。本年は25ロボットを新規作成した。
 3. データ分析を「データ経営分析チーム」と連携して行っている。各部署にその結果を共有し、フィードバック&改善案の提案を行っている。
- ④ その他、主にOfficeソフトを用いて86件の院内の非効率な業務の改善を図った。

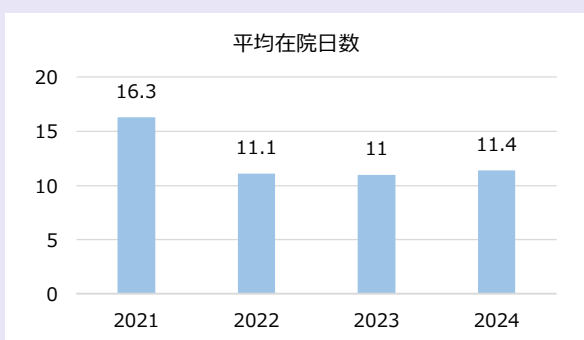
入退院管理センター

■部門代表者

神野 正隆、宮田 琴江、櫻 さおり

■2024年度のトピックス

設立3年目で、入退院管理センターが行うPFM（Patient Flow Management）は確立し、震災後にもその効果が発揮された1年であった。入院前～退院後までの流れ（院内PFM）が滞らないように一元管理し、入院期間と医療資源の最適化を目指した。新規事業（長生き健康サポート入院）も取り入れ、地域住民の健康寿命の延伸に取り組んだ。



■事業報告

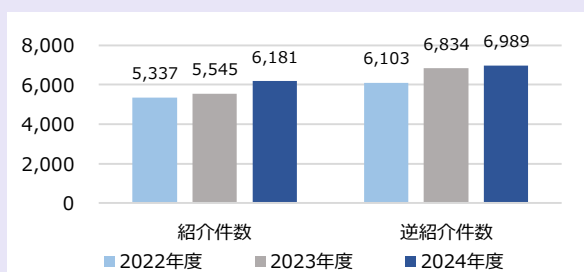
- ① 入退院指標の可視化を徹底し、エビデンスと患寿ルールに基づくPFM（Patient Flow Management）を実施している。コマンダー、入院支援看護師、診療情報管理士、地域連携課、医療ソーシャルワーカー（MSW）から成るOne Team体制を構築し、多職種連携による円滑な入退院支援を実現している。
- ② リアルタイムで入退院指標を把握できる内製化モニターを継続的に改良し、明確なルールに基づいたベッドコントロールを実施している。施設基準を遵守しつつ、個々の入院患者の状態、DPC期間、日当点等を総合的に判断し、最適なタイミングでの退院・転棟促進を図っている。
- ③ 高齢者の健康寿命延伸を目的とした短期集中型の健康増進プログラム「長生き健康サポート入院」を6月より開始した。地域包括ケア病棟を活用し、多角的な健康チェックにより、疾病の早期発見・治療に繋げている。
- ④ 連携医療機関との継続的な関係強化（挨拶回り、情報交換会等）に加え、退院支援の出口戦略を強化し、患者に合わせたスムーズな退院支援を実現している。
- ⑤ 平均在院日数は11日台で安定的に推移、紹介入院患者数・新入院患者数も増加している。これらの成果は、病院機能の質向上と収益にも大きく貢献している。

入退院管理センター 地域連携課

■部門代表者

細谷 幸治

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① これまで構築してきた地域連携データベース（紹介・逆紹介・紹介入院数、収益、疾患、手術など）の活用を促進し更なる連携の見える化を図った。まるわかりブックを用い連携医療機関との相互理解向上に努め、紹介件数増加に取り組んだ。
- ② 市民の健康増進を目的にがんに関する市民公開講座を開催し、当院への認知度・反応率UPにつなげた。

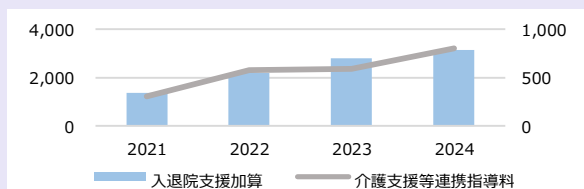
入退院管理センター 医療福祉相談課

■部門代表者

中川 一美

■2024年度のトピックス

PFMの定着により、3,143名の入退院支援につながった。
（昨年度比：112%）



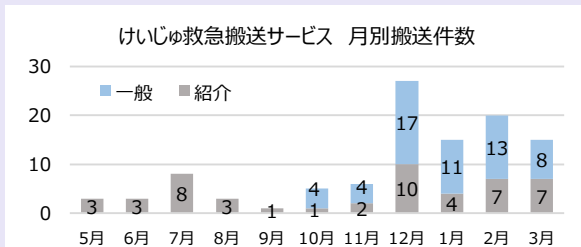
■事業報告

- ① 地域ケアマネジャーとの交流会を開催し、19施設41名の参加があった。能登半島地震を通じた支援症例をもとに情報交換会を行い、医療介護の連携が一層深まった。日頃のケアマネジャーとの連携は、年間801件行った。（昨年度比：135%）
- ② 地域の介護保険施設と協力医療機関協定を締結し、緊急時に備えた平時からの連携体制を構築した。

救急センター 救急救命課

■部門代表者
八井 聖子

■2024年度のトピックス



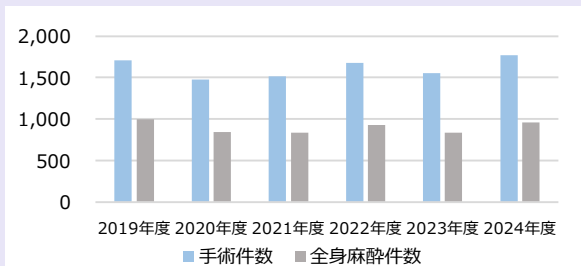
■事業報告

- ① 2024年度、七尾・中能登エリアを対象に、「けいじゅ救急搬送サービス」を運用開始。
- ② 今年度合計106件（紹介:49件、一般依頼:57件）の搬送を実施し、移動に不安がある方の来院支援として地域医療に貢献した。
- ③ けいじゅ救急だからこそできるケアを提供し、搬送を担当した救命士がそのまま診療まで対応する体制を構築した。

手術センター

■部門代表者
長谷川 公一、中田 淳也

■2024年度のトピックス



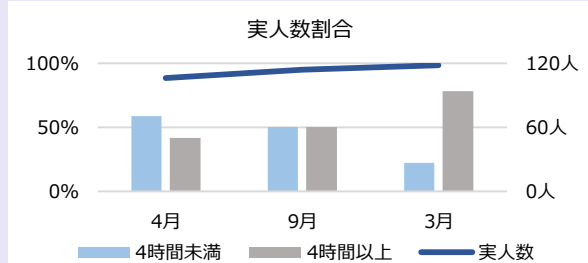
■事業報告

- ① 手術件数は1,766件（月平均147件）で、前年度と比較しプラス216件だった。新型コロナウイルス感染拡大前の2019年度（1,704件）より増加した。
- ② 全身麻酔件数は960件で、前年度と比較しプラス124件だった。
- ③ 総合入院体制加算3の要件を満たすことができている。

血液浄化センター

■部門代表者
熊野 奨、守田 尚美

■2024年度のトピックス



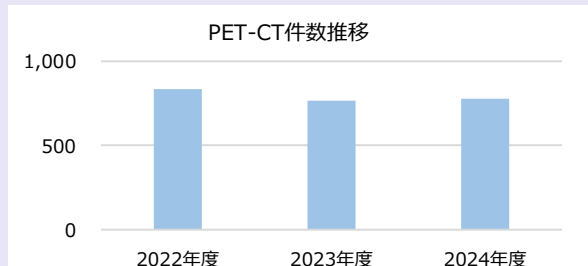
■事業報告

- ① 透析時間延長:緩やかに除水することで、合併症の低減や栄養状態の改善ができ、その結果、生命予後の改善がみとめられることを目的とした透析時間延長に取り組んだ。
- ② 院外活動:震災後、石川県透析連絡協議会主催の能登地域の透析6施設による情報交換会に7月と10月に参加。

PET・CTリニアックセンター

■部門代表者
角 弘諭、坂下 純司

■2024年度のトピックス



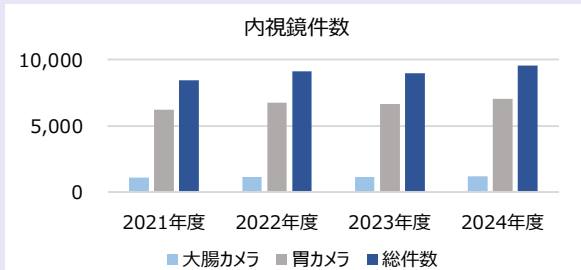
■事業報告

- ① PET-CT件数は779件（前年度比102%）だった。
- ② 核医学検査件数は281件（前年度比99%）だった。
- ③ 放射線治療照射回数は543回（前年度比53%）だった。
- ④ リニアック装置更新のため、11月末より放射線治療を休止した。2025年4月より治療開始となる。更新に伴い、照射範囲および位置合わせの精度の向上が期待される。

内視鏡センター 内視鏡課

■部門代表者
神野 正隆、水口 賢

■2024年度のトピックス



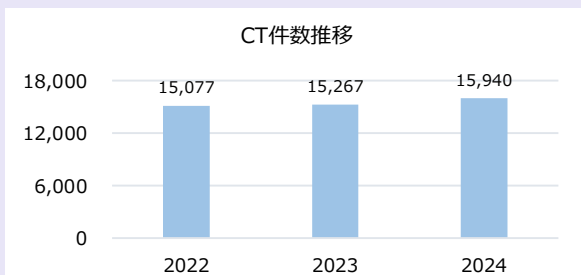
■事業報告

- ① 内視鏡総件数9,576件（前年度比 106.6%）に増加した。
- ② 全大腸内視鏡検査1,202件（前年度比 105%）に増加した。（目標は1,200件）
- ③ 大腸ポリープ切除術は646件（前年度比121.2%）に増加し、且つ非常に高い発見・切除率 53.7%（昨年度 46.7%）であった。

放射線センター 放射線課

■部門代表者
角 弘諭、坂下 純司

■2024年度のトピックス



■事業報告

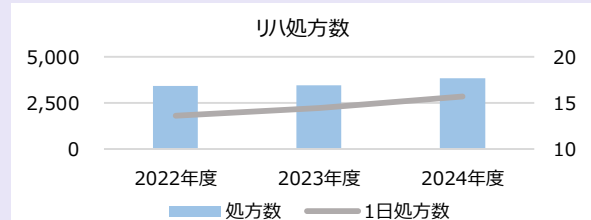
- ① 全診療放射線技師が告示研修を修了。特にCT造影剤使用時の静脈路確保を実施し、タスクシェアを進めている。（穿刺件数:222件/前年度比196%）
- ② 日本乳がん検診精度管理中央機構によるマンモグラフィ技術試験に、新たに1名が合格した。
- ③ マンモグラフィ健診施設・画像認定を更新した。検診精度管理上の線量・画像基準を満たす施設と認定された。

リハビリテーションセンター 理学療法課

■部門代表者
川北 慎一郎、田中 秀明

■2024年度のトピックス

処方数が400件増加した。



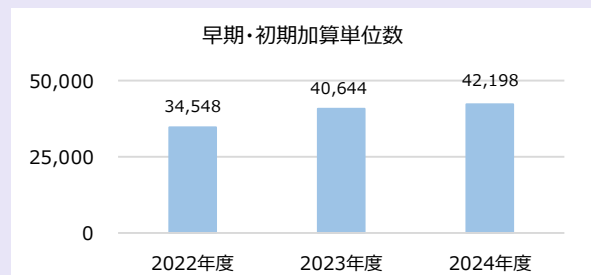
■事業報告

- ① リハ栄養口腔連携体制加算の体制を構築した。
- ② 書籍の分担執筆を3編担当した。
- ③ 理学療法士養成校に非常勤講師を13名派遣した。
- ④ 回復期リハ病棟の脳血管リハ算定単位が平均8.5単位と充実したリハを提供できた。

リハビリテーションセンター 作業療法課

■部門代表者
川北 慎一郎、川上 直子

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① 自動車学校との連携：実車評価での医療的側面の評価を一定に行うためのツールを作成した。
- ② 本館5階西病棟でリハビリテーション栄養口腔連携体制加算を取得するために1名専任配置した。
- ③ ユマニチード実践者育成4日間研修を2名が受講した。
- ④ 学術活動（学会発表、講師、論文、執筆協力）に取り組んだ。

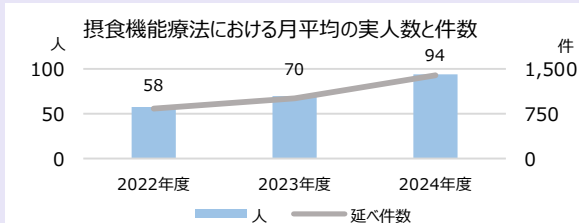
リハビリテーションセンター 言語療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、諏訪 美幸

■2024年度のトピックス

摂食機能療法算定件数がさらに増加した。



■事業報告

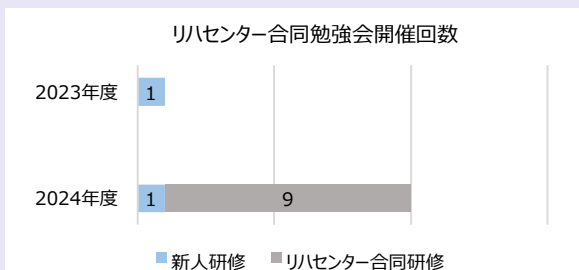
- ① 摂食機能療法対象者抽出システムは、2022年8月より運用開始し、直接病棟に配布し連携をとることで、実人数や延べ件数が増加した（一昨年比30%増）。
- ② 学会・研究会で、6演題発表した。
- ③ 新規資格では、ヒアリングフレイルサポーター1名、日本口腔ケア学会認定5級1名取得した。

リハビリテーションセンター リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、久保 佳子

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① リハセンター合同勉強会を企画実施（9回）
- ② 一部の勉強会資料、マニュアルをグループ内で共有した。
- ③ 共通評価シートの改訂
評価項目「課題を解決することを意図して研修や勉強会へ参加している」を、所属以外の課主催の勉強会に参加した場合をA評価以上とした。

薬剤管理センター 薬剤課

■部門代表者

神野 正隆、室宮 智彦

■2024年度のトピックス



■事業報告

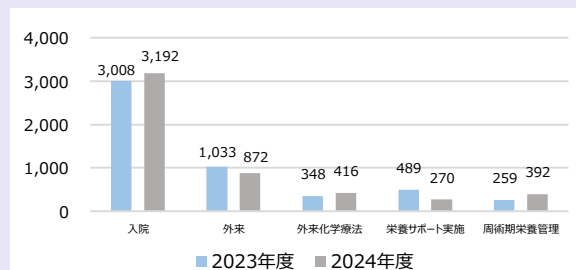
- ① 薬剤管理指導料1は前年比104%、指導料2は110%に増加した。
- ② 退院時薬剤情報管理指導は前年比95%減少した。
- ③ 薬剤総合評価調整加算は124件/年と前年度比10倍に増加した。
- ④ バイオ後続品使用体制加算は263件/年だった。
- ⑤ 後発医薬品使用率は90%以上を維持した。

栄養管理センター 臨床栄養課

■部門代表者

中川 紀温、前田 美穂

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① 実績は前年度と比較し、やや減少したものもあるが、全体として増加した。
- ② 今年度は新たに「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」が新設され、病棟専任の管理栄養士を配置した。それに伴い、48時間以内にGLIM基準による栄養アセスメントを実施する体制を整えた。

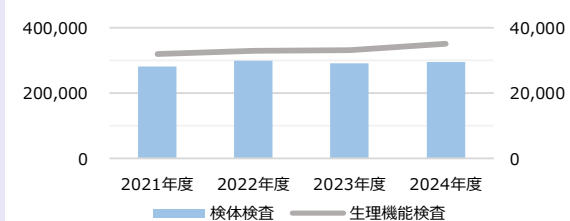
検査管理センター 臨床検査課

■部門代表者

上田 善道、尾田 真一

■2024年度のトピックス

検体検査、生理機能検査件数の推移は以下である。



■事業報告

- ① 検体検査総件数 295,068件 前年比 +1.3%
生理機能検査総件数 35,119件 前年比 +5.7%
- ② 検査室の自動分析機更新：血算機器、凝固機器、免疫機器、分注・搬送装置
- ③ 能登半島地震被災地におけるエコミークラス症候群フォローアップ検診に参加した。参加延べ人数 21人

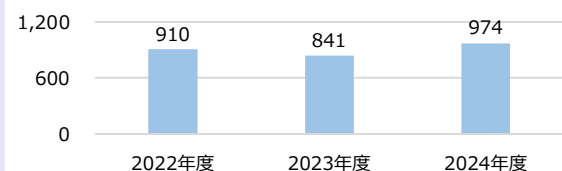
臨床工学センター 臨床工学課

■部門代表者

長谷川 公一、栃原 康則

■2024年度のトピックス

当課の手術業務総件数は前年度比+16%で、眼科+20%、消化器外科+18%、整形外科+17%増加した。



■事業報告

- ① 能登半島地震の影響による心臓不整脈デバイス遠隔モニタリング中断者に対して、使用状況確認や破損中継器の交換を行い、全員の通信環境回復が完了した。
- ② 事業継続計画（BCP）の見直しと更新を行い、血液浄化センターにて透析患者を交えて防災訓練を実施し、BCPアクションカードの内容の考察と更新を行った。次年度も内容の充実を図り、更新を継続していきたい。

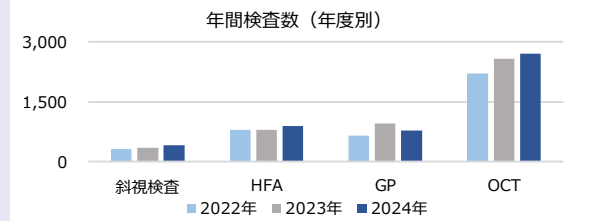
視能訓練課

■部門代表者

馬渡 嘉郎、松山 健一、諸屋 真太郎

■2024年度のトピックス

業務の効率化により検査枠を確保でき、検査数も増加した。



■事業報告

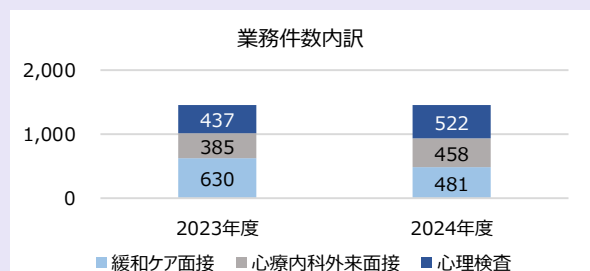
- ① 検査数増加に伴い、広角眼底カメラ（California ICGモデル）と新型OCT（RS-1）の導入決定。
- ② 斜視手術の術前検査機器として、回旋斜視検出用のCyclophorometerを導入した。
- ③ 石川ロービジョン協会（院外）やメーカー主催の研修に参加した。視能訓練課の独自の勉強会を開催した。（2024年度計5回）

臨床心理課

■部門代表者

佐原 周子

■2024年度のトピックス



■事業報告

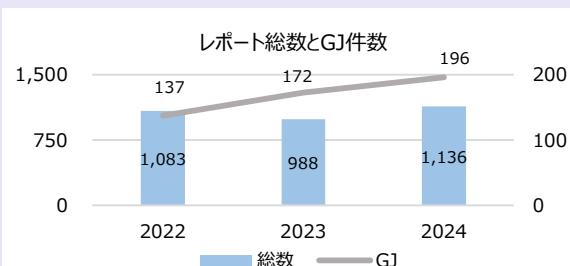
- ① 心理カウンセリング：心療内科外来患者のうち、前年度は10.3%、今年度は11.9%の患者にカウンセリングを実施した。
- ② 緩和ケア：がん等の身体疾患の入院患者に対し、メンタルヘルス維持を目的に個別面接を実施した。がん患者指導管理料は横ばいの推移。

医療安全管理センター 医療安全管理課

■部門代表者

岡田 由恵、小谷 薫

■2024年度のトピックス



■事業報告

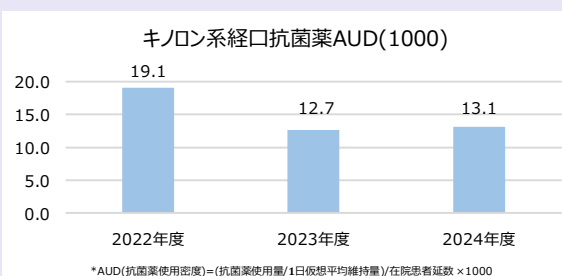
- ① タスクシフト/シェア（静脈路確保「恵寿免許」の定着）
放射線課、臨床検査課に加え、救急救命士による研修を加え、免許取得者の増加あり、実践活躍している。
- ② インシデント・アクシデント報告件数とともに、Good job 報告の件数増加がみられた。多職種間での「サンキューメッセージ」が増加した。（2023年度7件、2024年度32件）毎月のベストジョブ選出も定着した。

感染制御センター 感染制御課

■部門代表者

山崎 雅英、谷田部 美千代

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① AST活動の推進で、2022年度以降のキノロン系経口抗菌薬AUDの減少を維持している。
- ② 診療報酬改定で、介護保険施設等と締結し支援した。
- ③ 血液培養ボトルの出荷制限により7月～11月の期間は、一部例外を除き、基本1セットの対応を行った。
- ④ 個人防護具移動式ラックを採用し、5S管理に取り組んだ。

臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成

■2024年度のトピックス

- ① 2024年4月採用の研修医は基幹型1名、協力型4名の5名だった。1年次5名、2年次3名、合計8名であった。
- ② 研修医獲得のため、リクルート活動の強化を図った。全国から見学に来ていただき、コロナ前のような見学者数であった。見学者の増加により、マッチング応募者も増え、4名（フルマッチ）が2025年度採用予定となった。

■事業報告

- ① 医学生の病院見学受け入れ実績 29名
- ② リクルート活動実績（イベント名、ブース説明者数）
5/12マイナビ金沢20名 7/7レジナビ仙台10名
5/19レジナビ福岡20名 1/26レジナビ金沢25名
5/27レジナビ大阪20名 3/23レジナビ東京44名
6/16レジナビ東京15名

看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹

■2024年度のトピックス

- ① 1/14に8期生の修了式を開催した。能登半島地震による中断もあったが、8期生4名全員が修了した。
- ② 令和6年度特定行為研修の組織定着化支援事業（厚生労働省）に参加した。ワークショップに2回、シンポジウムに1回参加した。また研修修了者に対して、フォローアップ研修会、実践報告会を開催した。

■事業報告

- ① 10/15に9期生7名が受講を開始した。
（2025年10月修了予定）
そのうち外部施設から2名が受講している。
- ② 2025年4月1日現在、院内の特定看護師は33名になった。（10区分20行為）

北陸緑内障センター

■センター長

杉山 和久

■ 2024年度のトピックス

2024年4月1日に恵寿総合病院に北陸緑内障センターが開設された。緑内障患者やその疑いのある患者を専門的に診察して、診断・治療・経過観察をする緑内障専門外来（眼科外来内）と手術（手術センターの眼科枠）を行っている。

■ 事業報告

- ① 緑内障専門外来での診察と手術を、緑内障の診療・研究・教育を金沢大学眼科・岐阜大学眼科で約40年間行ってきた杉山和久センター長（金沢大学名誉教授）が担当。
- ② 能登地区は勿論のこと、北陸地方の緑内障診療の拠点の一つになることを目指し、病診連携を通じて緑内障診療のネットワークを構築し、緑内障患者に寄り添った質の高い診療を提供している。
- ③ 当院眼科の馬渡医師とともに、開放隅角緑内障に対して房水流出を改善する低侵襲緑内障手術、閉塞隅角緑内障には水晶体再建術を実施し、眼科の手術件数は2023年度に比較して飛躍的に増加した（眼科事業報告を参照）。
- ④ 今後は能登地区、北陸地区の大学病院、基幹病院、開業医との連携を密にして、緑内障患者に最高水準の医療を提供したい。

医療事業統括部門 恵寿金沢病院

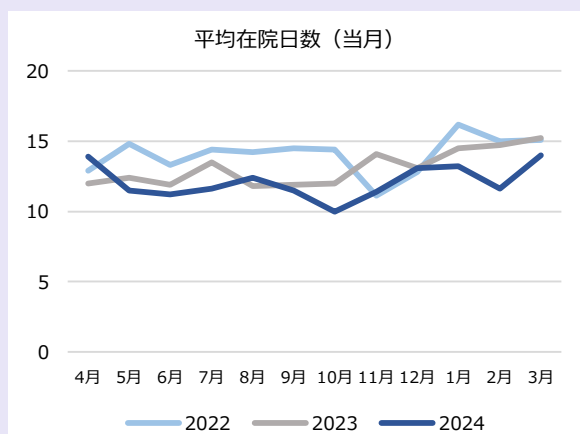
恵寿金沢病院

■ 病院長

大竹 茂樹

■ 2024年度のトピックス

平均在院日数は12.0日となり（2022年度14.1日、2023年度13.1日）3年連続短縮する結果となった。原因として整形外科の入院患者が減少したことの影響が大きいと思われる。



■ 事業報告

- ① 内科では化学療法を中心にクリニカルパス導入を積極的に進め、6種類89例を実施し、医療の質の標準化、業務の効率化に努めた。また、6月からDPC請求を開始し、在院期間の適性化・標準化に取り組んだ。
- ② 診療科閉科、縮小を実施し、6月末で眼科閉科・整形外科を週3回の外来に見直した結果、全体の外来患者数が減少した。
- ③ EK活動を職員に浸透し、業務改善に取り組む姿勢を全職員に浸透させることができた。董仙会内TQM活動では12件の改善を実施し、ペーパーレス取組みにおいての優秀賞を獲得した。
- ④ 法人内の人事交流を行い、看護師・事務員を本院へ派遣してスキルアップ・生成AI活用事例等を学んだ。
- ⑤ 人間ドック健診受検者数・オプション検査数ともに前年度を大きく上回る結果となった。なかでも60歳以上の受検者数が大きく伸びている。
- ⑥ 国際的ニュース雑誌で発表された、世界で優れた病院ランキングに当院が掲載された。日本では195病院が掲載され、日本全体7,007病院中、188位にランクインした。石川県内では当院を含め3病院が掲載されている。

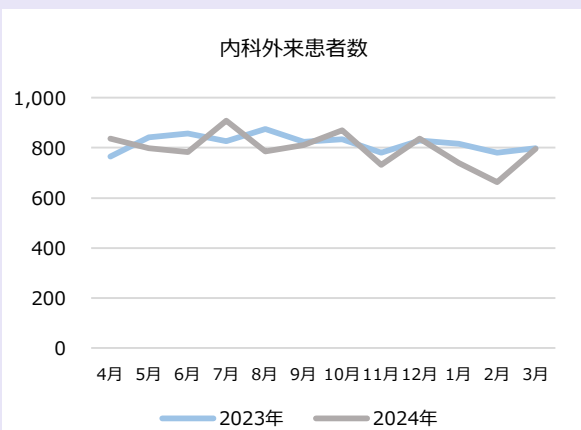
内科、血液疾患・骨髄腫センター

■所属医師

村田 了一、大竹 茂樹、佐賀 勉、斎藤 千鶴、高橋 稚奈、萩原 剛志

■2024年度のトピックス

金沢大学附属病院からの派遣医師を含め、血液内科のみならず、一般内科、呼吸器内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科が受診できる体制を整え、外来患者数を維持することができた。



■事業報告

- ① 金沢大学附属病院、石川県立中央病院の血液内科医師および地域連携室と診療連携を図り、入院患者の確保に努めている。
- ② 延在院患者数減少に伴い、化学療法件数も減少した。
入院患者数 14,099人（対前年比 90.3%）
入院化学療法 2,399件（対前年比 81.0%）
- ④ 外来診療において患者数は微減し化学療法件数も減少した。
外来患者数 9,558人（対前年比 97.2%）
外来化学療法 427件（対前年比 94.3%）
- ⑤ 患者受け入れについては血液患者以外にサブアキュート、ポストアキュート、緩和ケア、レスパイト入院53名を受け入れた。

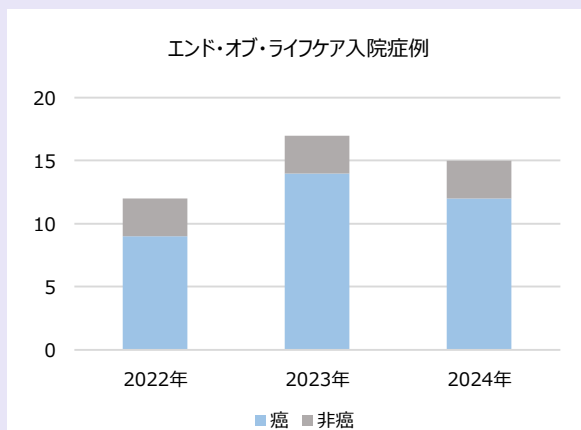
外科

■所属医師

道輪 良男

■2024年度のトピックス

エンド・オブ・ライフケア目的の入院は15例で、非癌症例は3例（20%）であった。癌症例の内、7例（58%）は化学療法の希望あり、化学療法を行った。



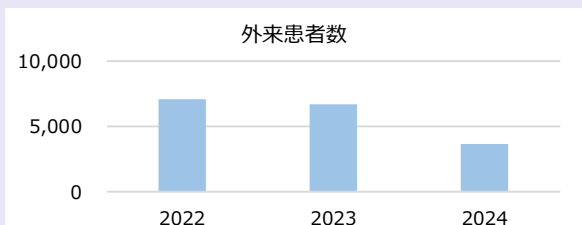
■事業報告

- ① 入院患者数は減少し、外来患者数は軽度減少した。
入院患者数：1,363人（前年比：77%）
外来患者数：1,495人（前年比：96%）
- ② 手術件数は64件で、増加した（前年比123%）。
- ③ 全大腸内視鏡検査数は126件で、昨年とほぼ同程度であった（前年比：102%）。
- ④ ドックの下部消化管内視鏡検査は、2023年10月より当院でも検査開始となり、月平均20.9件（前年比213%）であった。
- ⑤ エンド・オブ・ライフケア目的の入院は15例（前年比88%）で、年齢は52-100歳（中央値：76歳）、男：女 = 7:8、癌：非癌 = 12:3、化学療法施行7例（58%）であった。
- ⑥ 日本乳癌学会学術総会で、認知症を伴うHER2陽性乳癌に対する薬物療法の発表をした。

整形外科・リウマチ科

■ 2024年度のトピックス

週3回の外来となり患者数は減少した。



■ 事情報告

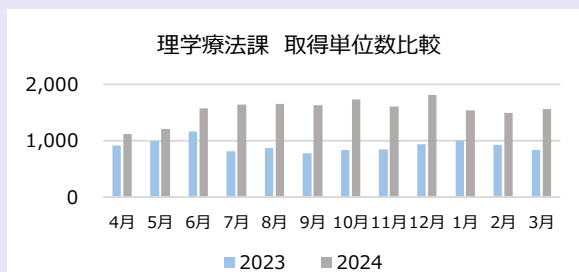
- ① 4月から常勤医師が不在となり金沢大学附属病院、金沢医科大学、米澤整形外科協力のもと、週3回午前中外来診療を実施した。手術・入院について受入を中止した。
- ② 手術が必要な患者について協力病院に紹介した。

理学療法課

■ 部門代表者

諏訪 勝志

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 4月より365日リハビリを開始したことにより、切れ間なくリハビリテーションを実施、効果の持続性や改善度の向上が図れ、1ヶ月あたりの取得単位数も増加した。
- ② 1名が登録理学療法士取得、3名が関連分野の資格を1つ取得、1名が3つ資格取得し、個々のスキルアップ、提供される理学療法の質向上につながった。

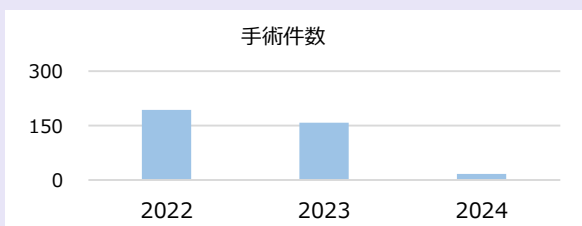
眼科

■ 所属医師

繰納 勉

■ 2024年度のトピックス

残念ながら6月末をもって診療を終了することとなった。



■ 事業報告

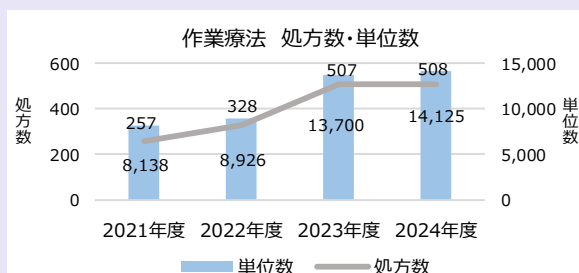
- ① 涙道手術を中心に金沢大学附属病院眼科の協力のもと積極的に手術を実施した。
- ② 以下は4月～6月までの件数であり、6月は手術・入院患者の受入れは中止とした。
 - ・ 入院患者数：12人
 - ・ 外来患者数：385人
 - ・ 手術件数：16件

作業療法課

■ 部門代表者

東川 哲朗

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

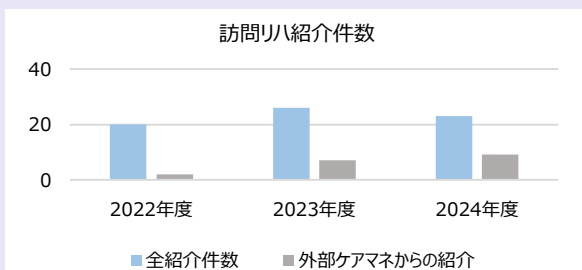
- ① 4月より365日リハを開始し、土日・祝日も練習継続が可能となった。
- ② OT処方数・単位数とも微増。
- ③ 処方の87.2%ががんリハ。整形外科休診を補完した。
- ④ 3学会合同呼吸療法認定士を1名取得。
- ⑤ 所属課員が東海北陸OT学会会長を務めた。

訪問リハビリテーション事業所

■部門代表者

諏訪 勝志、東川 哲朗

■2024年度のトピックス



■事業報告

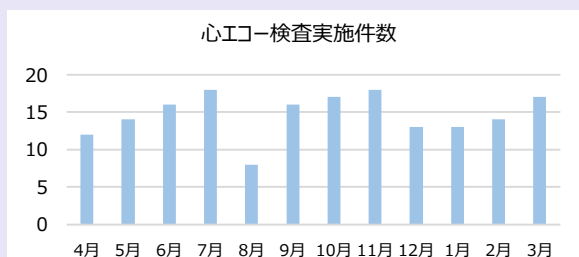
- ① 院内リハスタッフからの紹介は14件、外部ケアマネからの紹介は9件だった。年度前半に病院訪問・ケアマネへの広報をしたことで、外部ケアマネからの紹介が増えてきている。
- ② PT・OT半日、および男女の担当者としたことで、女性希望の利用者獲得、より利用者のニーズに応じた対応が可能となり、利用者獲得につながった。

臨床検査課

■部門代表者

長面 佳央理

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① 循環器内科医と協働し心エコー検査を176件実施した。
- ② 血液疾患患者の骨髄像カウント業務を72件実施した。
- ③ 悪性リンパ腫や多発性骨髄腫等の血液疾患患者に対する自家末梢血幹細胞採取を8件実施した。

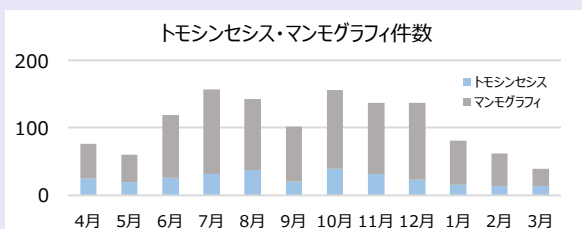
放射線課

■部門代表者

武村 真弓

■2024年度のトピックス

トモシンセシス導入2年目となった。



■事業報告

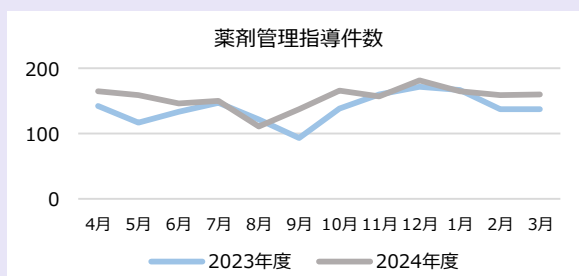
- ① CT件数 1,940件
- ② マンモグラフィ 977件 トモシンセシス 292件
- ③ 超音波件数 2,868件
- ④ CT読影所見の既読管理システム導入により所見の到着をいち早く医師にお知らせでき、見落とし防止に役立っている。
- ⑤ 乳がん検診超音波検査実施技師に1名認定

薬剤課

■部門代表者

宮森 久志

■2024年度のトピックス



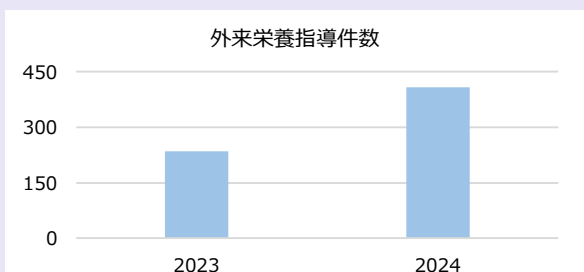
■事業報告

- ① 2024年度薬剤管理指導件数で前年度比112%
- ② GS1バーコードを活用した医薬品管理体制を構築し、医薬品管理業務の質の向上と効率化をすすめた。
- ③ 注射関連ホームページを新設し、注射関連情報（既存）を集約しイントラネット上で公開した。

臨床栄養課

- 部門代表者
羽根 由子

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 生活習慣病管理料Ⅱを算定している患者へ積極的に外来栄養指導を行った。外来カンファレンスに参加し、対象者を看護師と共有したことで前年度比173%と増加した。
- ② がん病態栄養専門管理栄養士の更新を含め、学会や院外研修に積極的に参加し知見を深めた。

人間ドックセンター

- 所属医師
大竹 茂樹、上田 幹夫、土田 達、垣内 博成

■ 2024年度のトピックス

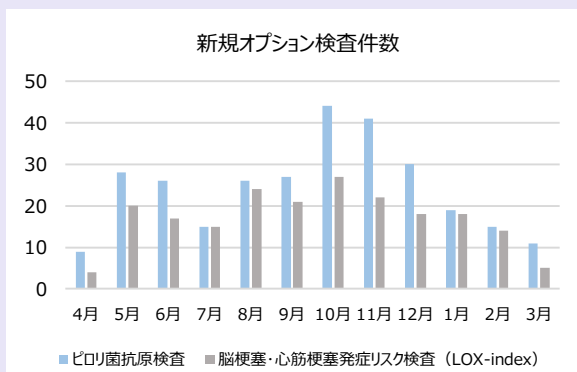
人間ドック受検者数 2,363人（前年度 2,197人）

男女比率 男性58.4% 女性41.6%

コース比率 1泊2日 65.9% 1日 25.2% 半日 8.9%

<新オプション> ピロリ菌抗原検査 291件

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査（LOX-index）205件



■ 事業報告

- ① 2024年度ドック受検者数は2,363人で前年度より約8%増加した。2023年度に引き続きNTTや協会けんぽに加入する企業に働きかけを行ったことによる成果と考えられる。
- ② 受検者数を月別でみると、例年のごとく夏場に多く冬場に少ない傾向にあった。受検者枠の是正によりバランスの改善を図った。12月～2月の受検者数の増加が実現できたが、3月は十分ではなかった。
- ③ ドック検査結果の報告発送までに要した日数は、2022年度31.7日、2023年度20.1日、2024年度22.1日と引き続き短縮していた。これは、検査結果コメントの簡素化や、業務の効率化など職員の努力によるところが大きい。
- ④ ドックオプション検査として、ピロリ菌抗原検査と脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査（LOX-index）を新たに導入し、それぞれ291件、205件の受検があった。オプション検査は、約6%の増加を示した。

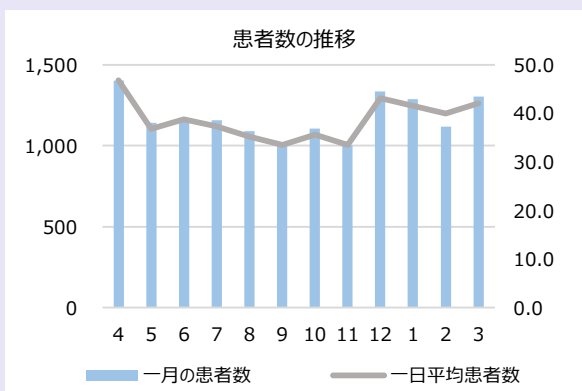
看護部

■ 看護部長

前大道 綾子

■ 2024年度のトピックス

今年度診療体制が変更となり、2階と3階に分かれていた病棟を一つの病棟として合計60床とし、平均49床の高稼働を目指して運用が開始となった。12月からは53床の高稼働とさらに目標値をあげた。患者数の獲得には苦慮したが年度後半にかけ徐々に患者数が増加した。



■ 事業報告

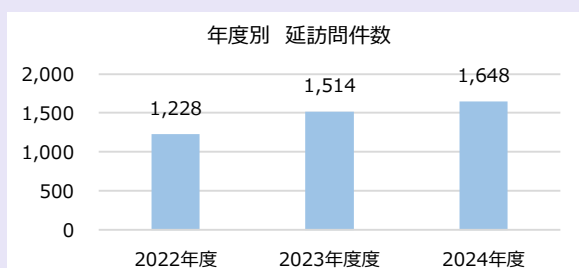
- ① 2病棟を1病棟化するため、業務のすり合わせ、人員配置、患者配置について検討実施した。4月当初は、異なる病棟のスタッフが一緒に働くことや階によって違う物品配置などもあり、何度も話し合いを繰り返しながら、患者配置、患者受け持ちを考え業務の組み立てを行った。
- ② 今年度地域包括ケア病床を廃止した。それに伴い、地域包括ケア病床として使用していた2室の個室を、無菌加算の取得できる個室へメンテナンスを行い、活用した。
- ③ 病院をあげてペーパーレス化に取り組み、看護部でもペーパーレスにできるものを洗い出し、病棟ではワークシート、患者の検査結果、外来では順路案内票やFAX用紙の削減を行い貢献した。
- ④ 1病棟化により、病棟看護師数が患者数に対し多くなり本院への研修を計画したが、計画的には進まなかった。本院の看護師数不足時は、要請に応じ看護師を派遣し本院の急性期一般入院基本料の維持に貢献した。また手術室への看護師応援の要請にも対応し支援した。
- ⑤ 病棟から、訪問看護ステーションへの応援を行った。また病棟看護師の本院への派遣時、病棟業務量が増えた際は土日も含め外来看護師の応援体制を行った。
- ⑥ 特定行為看護師の資格取得を1名目指している。

けいじゅ金沢訪問看護ステーション

■ 部門代表者

藪内 照美

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

- ① 2024年度の延利用者数は合計1,648件で、月平均137件であった。増加の要因としては、医療保険の利用者の訪問件数が一番多くなった事が挙げられる。
- ② スマートフォンの転送機能が利用できるようになり、携帯電話受け渡しのための休日出勤の必要がなくなった。
- ③ 病休者が出たが、外来や病棟の応援により、訪問を継続する事ができた。

事務局

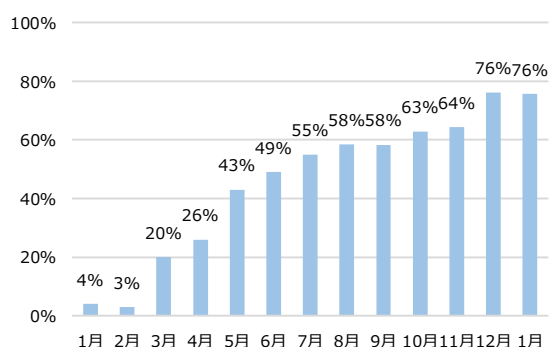
■ 部長

森田 均

■ 2024年度のトピックス

2024年12月からの新たな保険証発行中止に向けて、マイナ保険証利用促進に取り組んだ。6月にはNTTからの協力を受け重点的に啓蒙活動を行った。受付した後マイナ保険証確認へという患者導線が定着し、利用増加につながった。

マイナ保険証利用率（マイナポータル調べ・最新1月）



■ 事業報告

- ① 6月よりDPC請求を開始した。今年度は激変緩和係数が割り当てられ、医療機関別係数は1.0208となった。またDPCコーディング委員会を立ち上げ、統計データ報告や症例検討を行った。
- ② 医事課職員2名と医療福祉相談員1名を本院へ研修として一定期間異動した。医事課、医療秘書課、地域連携課、医療福祉相談課でノウハウを学んだ。
- ③ 増加するインバウンドに対応するため、外国人对応電話サービス（メディフォン）の利用を開始した。本院協力のもとオンラインで説明会を受け実用化に至った。
- ④ 医療DX推進体制整備加算の算定要件でもある電子処方箋発行を3月より開始した。
- ⑤ 6月の診療報酬改定で新設された生活習慣病管理料Ⅱの算定を進めた。従来の特定疾患療養管理料算定者の中から対象患者を抽出。算定方法を検討し、スムーズに算定へつなげることができた。
- ⑥ 管理課主導でペーパーレス推進チームを立ち上げ、データ化による業務効率化、紙や印刷コストの削減などで生産性を向上した。A4用紙の使用量は前年比25%削減を達成。

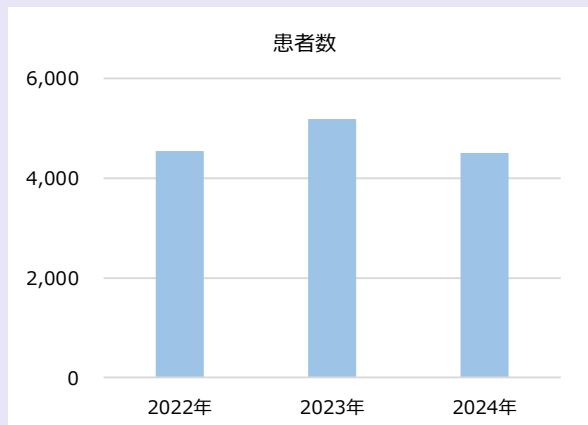
医療事業統括部門 クリニック

田鶴浜診療所

■所属医師
廣正 修一

■2024年度のトピックス

2024年元旦に発生した「能登半島地震」により、当診療所の被害は甚大であり、田鶴浜地区の被害及び他の地区への避難などによる影響を大きく受けていて、患者数は4,502人であった。



■事業報告

- ① 治療効果の評価などを目的として、必要な検査（採血、検尿、レントゲン、骨密度、ABI）を定期的に施行するように心がけた。
- ② 地域の健康管理のため、ワクチン接種も積極的に行い、新型コロナワクチン接種とインフルエンザワクチン接種に力を注いだ。
- ③ iPadを使用して、隣接する鶴友苑の通所リハビリテーション会議に積極的に参加した。
- ④ 2024年1月1日の最大震度7の地震の被害は甚大で、応急復旧を行い、建築の専門家にも建物診断をしていただき、その結果、地中の杭に問題があり、“建物の復旧は困難”という結果が出た。そのため、これ以上の診療継続が困難となり2025年3月31日で閉院の運びとなった。

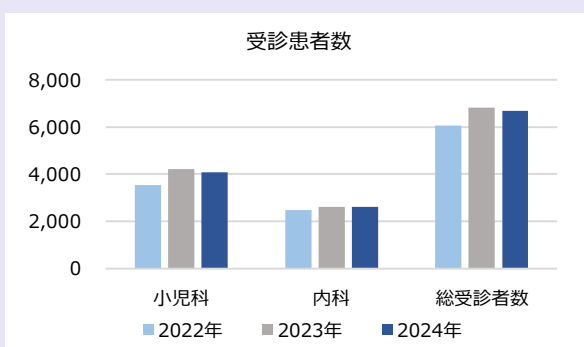
鳥屋診療所

■所属医師

齋藤 靖人、中谷 茂和、平松 茂

■2024年度のトピックス

- ① 今年度より、毎週火曜日心療内科・内科診療を開始し、現代社会の様々なストレスに関連する障害に対応している。
- ② 総受診者数は、昨年度とほぼ同程度であった。
- ③ 内科では、特定健診受診者数が増加した。
- ④ 発熱患者と非発熱患者の空間的分離を継続した。



■事業報告

① 鳥屋診療所

診療日 月・水・金:内科・小児科/火:心療内科・内科
総受診者数 6,694人（内科 2,603人、小児科 4,091人）で昨年度とほぼ同程度であった。内科では、生活習慣病管理を中心とした診療を行い、特定検診や新型コロナワクチン、インフルエンザワクチン、带状疱疹ワクチンなどの健康管理に努めた。特定検診受診者は、昨年度に比し、32%増加した。小児科は、中能登町唯一の小児科として各種感染症診療や気管支喘息など慢性疾患管理を行い、各種予防接種、乳児健診などの保健事業にも取り組んでいる。

② いきいき

営業時間:月・水・金 9:00-12:00/13:30-14:30
延人数（予防）928人、延人数（介護）1,820人
延人数合計 2,748人、稼働率 59.6%

今年度も理学療法士と介護福祉士が連携し、利用者の体力や健康状態に配慮しながら、リハビリを提供している。いきいきのスペースでは常に利用者の笑い声や笑顔があふれており、専門知識に長けたスタッフと共に目標達成証書授与に向けて取り組んでいる。

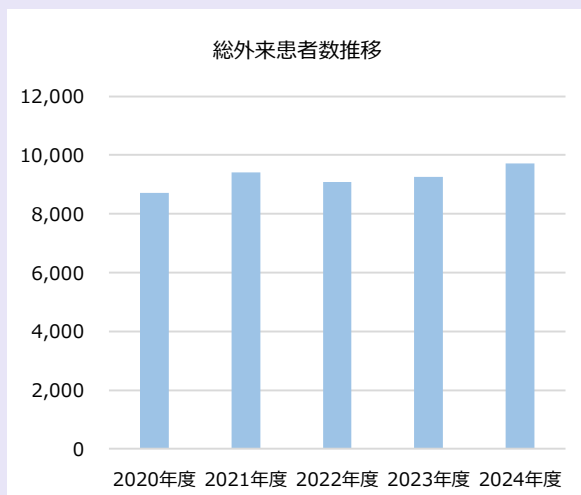
恵寿ローレルクリニック

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要

■2024年度のトピックス

総外来患者数：9,715人（前年度比105%）、訪問診療件数：800件（前年度比99.5%）だった。



■事業報告

① 患者数

総外来患者数は前年度比105%に増加、訪問診療件数は前年度比99.5%とほぼ変わらなかった。

③ 予防接種

前年度に引き続いて、新型コロナワクチン接種対応を行った。任意予防接種についても積極的に推奨し、一定数の带状疱疹予防接種を行った。

③ 閉院について

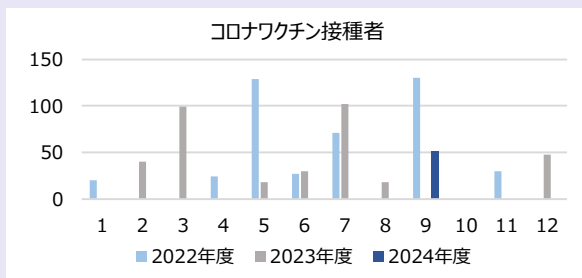
院長退職の意向により、2025年3月31日をもって恵寿ローレルクリニックは閉院となった。

恵寿鳩ヶ丘クリニック

■所属医師

渡邊 博之

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① 2024年1月の震災後も介護医療院併設の医療機関として、入所者のレントゲン一般・CT（今年度新規更新）撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。
- ② 新型コロナワクチン接種については、2024年度は主に併設の介護医療院にて実施。今年度から費用の一部が自己負担となったことも影響して減少した。

介護事業統括部門

■部門長

吉田 茂和

■副部門長

内田 かおり、古木 恵美子

■2024年度のトピックス

Spare社と共に、AIオンデマンド乗合交通ソリューション「Spare Platform」を活用した介護送迎サービスの高度化を目指した実証実験により、90%作業効率を改善した。全事業所にiPhoneとBONXインカム120台を導入し、業務効率を上げた。入浴機器（ピュアット）の導入で新たな入浴を構築した。

	2023年までに導入	2024年導入
介護DX		iPhone BONXインカム Spareシステム
移乗移動支援	Hug SASUKE 自動体交オスカー	移動式介護リフト
入浴支援	PAO（パオ）	ピュアット
見守り・レク コミュニケーション	ネオスケア オミビスタ DAM	PALRO

■事業報告

① 介護の技の熟練、質の向上

けいじゅヘルスケアシステム内で介護技術を競う大会を開催し、優秀者は石川県介護グランプリ出場し、「入浴の部」最優秀賞（2年連続受賞）「排泄の部」技能賞を受賞。

初任者研修・おむつマイスター・ノーリフトマイスター・実務者研修を継続した。

② 地域貢献

Foot活出前授業を袖ヶ江地区コミュニティセンターで2回実施し、合計50名に対し指導した。

③ けいじゅヘルスケアシステム事業所の統合

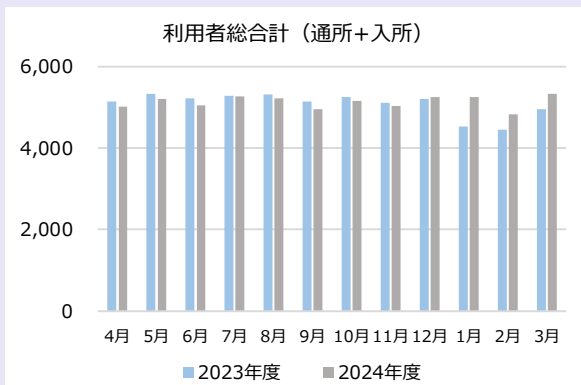
8月にふれあいの里、12月に鶴友苑デイケアを廃止し、他の事業所へ移行した。9月にエレガントたつるはま（25床）、3月に鶴友苑（50床）を閉所した。

介護老人保健施設 和光苑

■施設長
大塚 悟

■2024年度のトピックス

介護DXを進めるため、生産性の向上を推進する委員会を立ち上げ、導入した機器の効果的な運用を行った。中でも、iPhone導入や通所事業でのデジタル送迎で業務効率の向上を目指した。ユマニチュードの浸透を目的に一年を通して学習と実践を繰り返し行い、ケアの質の向上を図った。



■事業報告

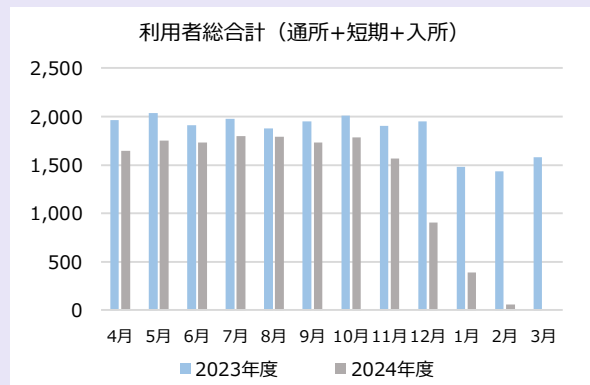
- ① 今期目標と達成度
入所稼働率 97.2%（前年比-1%）
目標 99.0%（達成率98.1%）
通所稼働率 79.9%（前年比+9.0%）
目標 90.0%（達成率88.7%）
入所は特に9月・10月と新型コロナウイルス感染流行で入所受け入れを一時停止する必要に迫られた。また、入院者・お看取りで亡くなられた方が多く、稼働が落ちたが、年度末に稼働率が徐々に増えた。通所は鶴友苑の通所利用者の受入れに伴い、12月に定員40名に追加変更。稼働率は年度末にかけて徐々に増えた。
- ② 教育研修
介護支援専門員1名、介護福祉士1名、認知症介護実践リーダー研修修了者1名、認知症介護実践研修・実践者研修修了者2名、技能実習責任者1名、技能実習指導員3名、技能実習生活指導員1名
- ③ 今後の課題
今後も生産性の向上は必要であり、多様な働き方や適切な人員配置を行いながら、DXの更なる推進をしっかりと取り組んでいく必要がある。

介護老人保健施設 鶴友苑

■施設長
廣正 修一

■2024年度のトピックス

2024年1月1日元旦の能登半島地震で建物は甚大な被害を受けた。そのような状況の中でも職員一同が一丸となって前半は質の良い介護・医療を求めて頑張り、2025年3月末の閉所が決定した後半は施設の幕引きという全く異なったステップを行った。



■事業報告

- ① 昨年元旦の震災で、建物が壊滅的な被害を受け、2025年3月末で閉所が決定。
- ② 入所：2024年11月には事業所閉所が決定し、他事業所への移行を開始。
入所稼働率 97.1%（10月まで:前年比-0.1%）
認知症・短期集中・個別リハビリ加算 311件（前年比+5件）
所定疾患療養費Ⅰ 88件（前年比+20件）
緊急時施設療養加算 5件（前年比+1件）
在宅復帰率平均 51.5%
- ③ 通所：2024年11月末で事業所休止。
通所稼働率 49.3%（11月まで:前年比-26.7%）
認知症・短期集中リハビリ加算 235件（前年比+54件）
リハビリマネジメント加算 187件（前年比+187件）
- ④ 石川県「介護技能グランプリ」技能賞受賞。
- ⑤ 介護者教室を田鶴浜地区3か所で開催し、介護・栄養に関する相談や認知症予防体操等を企画。また小学校へ出向き出前授業を行い地域の方と触れ合うことができる取り組みを行った。

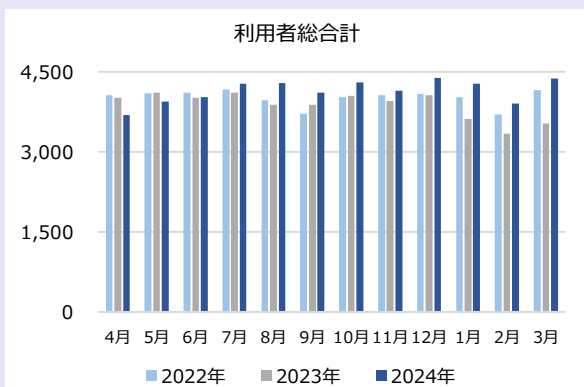
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■ 院長

渡邊 博之

■ 2024年度のトピックス

2024年1月の能登半島地震からの復旧復興の1年だった。前年度末の3月にはデイを再開、入所を含めて利用者数は4月から6月までは例年に及ばなかったが、7月以降全ての月で過去2年を上回っており、社会資源も少なくなった奥能登地域の慢性期医療・介護を止めずニーズに応えてきた。



■ 事業報告

- ① 年間延べ利用人数は49,752人だった。（前年比106.8%）
- ② TQMテーマ「鳩ヶ丘での尊厳ある生活を支えるために～ユマニチュードを実践し介護の質の向上を目指す～」に取り組み発表した。
- ③ BCPIに基づく各種災害訓練を実施した。
防災訓練（火災・地震・原子力）今年度5回
感染対策訓練 今年度5回
- ④ 介護の質の向上（各種マスター認定者数増）
「ノーリフトマスター」10名
「おむつマスター」3名
「Foot活マスター」3名
「スマート介護士」EXPERT 1名、BASIC 1名
- ⑤ IoT・ICTの導入・活用
見守り機器（ネオスカ）13台
移乗移動ロボット（Hug）1台に加え、移乗移動ロボット（SASUKE）1台
iPhoneインカムの導入（各勤務帯職員に携帯）
- ⑥ 震災被害で使用が困難になった特殊浴槽の新規更新。
各被害インフラの応急復旧から恒久工事の実施。
- ⑦ コロナ等周辺状況に合わせて、面会制限の緩和。

第2章 法人方針・事業報告（介護事業統括部門）

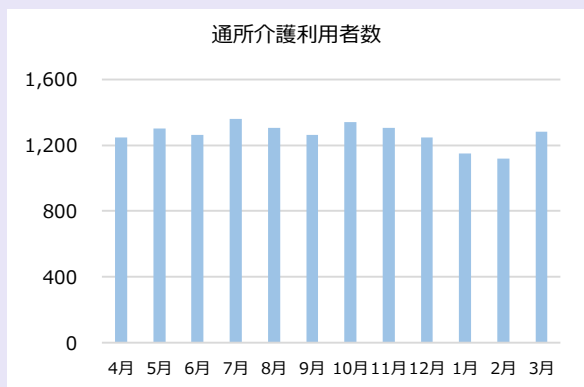
在宅複合施設 ほのぼの

■ 部門代表者

一谷 真澄

■ 2024年度のトピックス

今年度は移乗サポートロボットHug、iPhoneインカム（BONX）、FREEDAM（生活総合機能改善機器）、送迎AI等の導入により、利用者の安心・安全・喜び、および職員の身体的負担の軽減や業務の効率の向上につなげることができた1年であった。



■ 事業報告

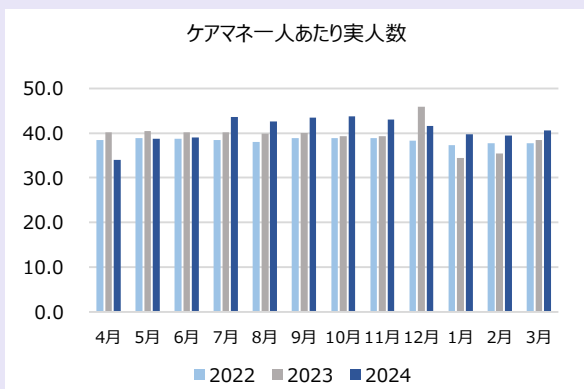
- ① 今期の目標と達成度
稼働率の目標値：通所介護90%、短期入所90%
通所介護稼働率：89.9% 達成度 99.9%
短期入所稼働率：95.0% 達成率 105.6%
- ② 教育研修
ノーリフトマスターに2名、おむつマスターに1名が認定された。日常業務や職員指導へと活かしている。他の職員もオンライン研修の受講や勉強会等へ参加し個々のスキルや知識の習得・知識を深めることに日々取り組んでいる。
- ③ 今後の課題
来年度は、通所介護と短期入所ともに稼働率95%を目標とする。通所介護では、ほのぼのの強みとなりつつある『理学療法士の専従により、利用者がほのぼのを利用することで心も身体（あしこし）も元気になる施設』をもっと積極的にアピールをしていけるよう努めていきたい。短期入所では、見守り介護ロボット「ネオスカ」や「iPhoneインカム（BONX）」の積極的な活用により、転倒・転落件数の減少につなげ、より安心・安全にご利用していただけることを外部にアピールしていきたい。

ケアマネステーション恵寿

■部門代表者
清水 光代

■2024年度のトピックス

ケアマネジャー平均9.5名で居宅介護支援業務にあたった。「地域包括ケアステーション」と「入退院管理センター」と協働し、入院早期より介入、新規利用者獲得につなげた。介護DX・ICT/生成AI等の活用により、業務の効率化を図り、ケアマネ一人あたりの利用者実人数増につなげた。



■事業報告

- 年間延べ利用者数 4,607人（前年比：97.2）
新規利用者 177人（前年比：143.9%）
 - なかのとサテライトを在宅複合施設ほのぼの内に開設。
 - 能登半島地震後1年経過、12月より営業区域に穴水町を追加。（穴水地区の利用者:3人）。
- 加算
 - 初回加算 114件
 - 入院時情報連携加算 247件
 - 退院・退所加算 270件
 - 通院時情報連携加算 23件
 - ターミナルケアマネジメント加算 3件

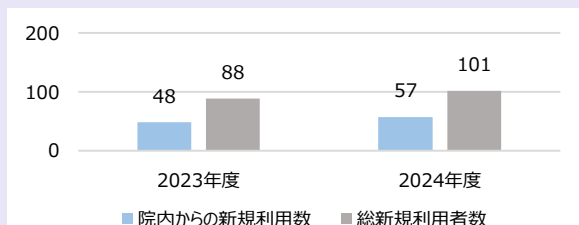
医療との連携に注力し、通院時や入退院時には病院へ訪問し、病院職員との連携を図る。入院早期から情報連携を行い、早期退院に向け多職種連携とサービス調整により、在宅側より入退院時の後方支援を行った。
- 「気づきの事例検討会」年4回実施。
介護支援専門員の資質向上に努めた。
- 資格
 - 主任介護支援専門員 6名（うち1名資格取得）
 - 介護支援専門員 4名

訪問リハビリステーション恵寿

■部門代表者
永井 亜希子

■2024年度のトピックス

訪問リハ利用件数が増大した。



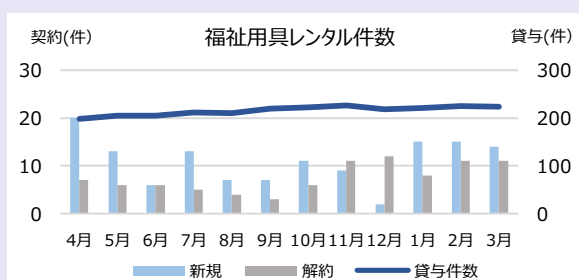
■事業報告

- 後方病棟、急性期一部病棟のみから、全病棟に訪問リハチェックシートの活用を開始。院内からの訪問リハ対象者の新規利用件数増大を図った。
- 外部ケアマネジャーへ訪問リハパンフレットの配布は継続して実施した。

福祉用具レンタルステーション恵寿

■部門代表者
永井 亜希子

■2024年度のトピックス



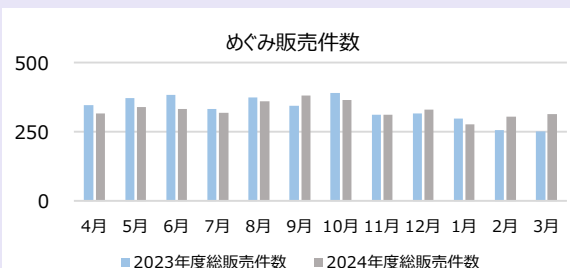
■事業報告

- 院内リハスタッフやケアマネからの依頼で、家屋評価（51件）、担当者会議（105件）にオンラインを含め参加し、福祉用具機器選定を行い利用に繋げた。
- ケアマネからの依頼が増え、レンタル総数は増えている。
- カタログを刷新し、他居宅や利用者にも配布し、利用をしていただけるよう営業活動を行った。
- 車椅子・歩行車・電動カートの研修会を開催した。

医療福祉ショップめぐみ

■部門代表者
永井 亜希子

■ 2024年度のトピックス



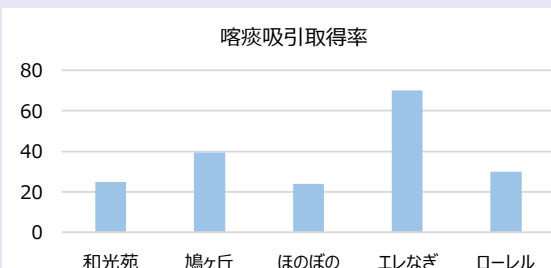
■ 事業報告

- ① 売れ行き商品を把握し、SPDの増減を行い、商品確保・管理に努めた。
- ② 資材課への商品発注伝票を簡略化し、スムーズに行えるようにシステム改善を行った。
- ③ 上位販売品目はパウチ各種・ストマ関連スプレー・おむつ各種・弾性ストッキング・ポータブルトイレ・コンタクトレンズであった。

喀痰吸引等研修センター

■部門代表者
吉田 茂和

■ 2024年度のトピックス



■ 事業報告

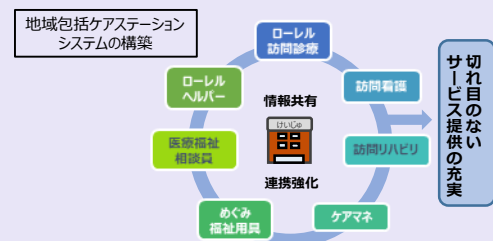
- ① 2024年は、地震の影響もあり、開講は困難だった。
- ② 2017年度以降、のべ112名の修了生を輩出した。
- ③ 2024年度までに、修了後、施設で実地研修を含むすべての研修を修了した者は、のべ94名となった。この94名の2024年末の配属先、取得率はトピックスのとおりであり、看護師の夜間常駐がないエレガンテナぎの浦が70%となっている。

地域包括ケアステーション

■部門代表者
本橋 敏美

■ 2024年度のトピックス

訪問系事業所として董仙会と徳充会の連携体制を確立した。



■ 事業報告

- ① 定例会議（毎月）、サービス介入検討会議（毎週）入院患者情報をMSWより収集し、訪問系事業所内（福祉用具レンタル含む）の多職種での意見交換、介入の準備を行い、新規顧客獲得につなげた。
- ② 事業所の利用者困りごとの相談や介入支援（随時）
- ③ AIによる訪問スケジュール・移動スケジュール等の管理により、隙間時間を把握し時間を有効活用した。

社会事業統括部門

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2024年度のトピックス

けいじゅデリカサプライセンター食数変化

董仙会	
恵寿金沢病院	整形外科常勤医なし、20床休床
鶴友苑	デイ・入所 廃止
恵寿みおや	デイ・ショート 廃止
徳充会	
エレガントたつるはま	入所 廃止
精育園	入所者全員避難、転籍

■事業報告

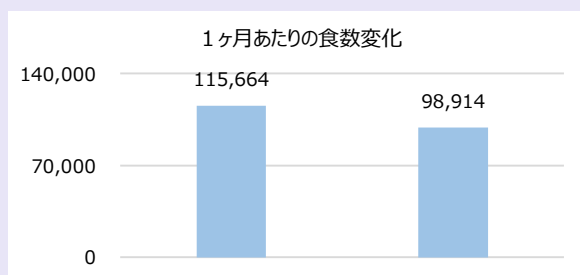
- ① 看護学校については、事務長交替、収益改善対策のために、財務部長の関わりを増やした。
- ② けいじゅデリカサプライセンターへの地震による影響としては、施設の統廃合により食数が減少したこと、委託先のシダックスフードの職員の退職があり、グルメプラザけいじゅを開店できていないことである。

けいじゅデリカサプライセンター

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2024年度のトピックス



■事業報告

- ① 発災後3月1日より通常稼働したが、食事のサイクルは14日製造で、40日サイクルに戻ったのは5月27日で、地震から146日のことである。
- ② 厨房施設が使用困難となった徳充会ワークセンターの弁当製造も実施した。
- ③ 施設の統廃合により、1ヶ月あたりの食数は、約98,000食に減少した。

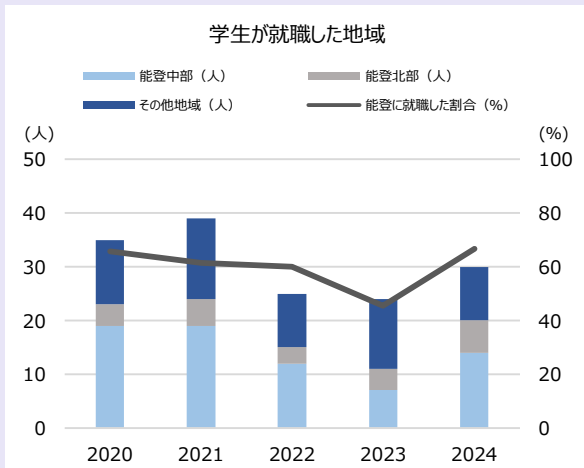
七尾看護専門学校

■事務長

平田 吉喜

■2024年度のトピックス

33名が卒業し、30名が病院に就職。能登地区の病院に20名（内 恵寿総合病院12名）が就職。能登地区の病院に就職した割合は66.6%であった。



■事業報告

- ① 入学出願者数27名、受験者数25名、入学者数22名だった。出身別では、能登北部6名、能登中部13名、石川中央3名、南加賀0名で県内22名、県外0名であった。
- ② 入学試験は、11月16日推薦・社会人（一次）、1月16日一般（一次）社会人（二次）、2月13日一般（二次）社会人（三次）を実施。3月17日一般（三次）社会人入学試験を追加実施した。
- ③ 2月16日に看護師国家試験に新卒者33名＋既卒者6名の合計39名が受験し、36名が合格した。合格率92.3%であり、全国平均90.1%を上回った。
- ④ 董仙会の修学資金を受けている学生は、1年生3人、2年生4人、3年生9人である。
- ⑤ 看護師等養成所におけるDX促進事業において、全国の養成所の中からモデル校8校に選出された。

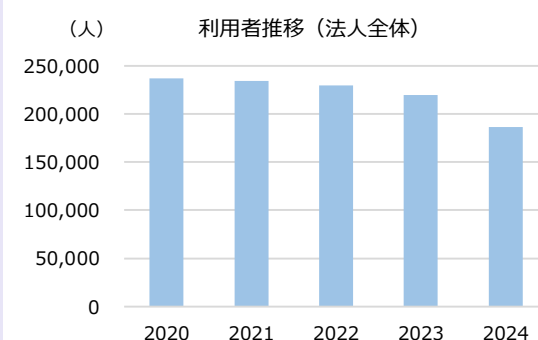
徳充会

■部門代表者

今寺 忠造

■2024年度のトピックス

「明るく、楽しく、前向きに」をテーマに、各部署が積極的に取り組んだ。震災の建物被害は甚大で、高齢者の通所介護、配食・訪問入浴・小規模特養は、廃止・集約化をせざるを得ない状況になった。石川県精育園は、加賀市の錦城学園に広域避難した。事務局は、震災の復旧対応に追われた。



■事業報告

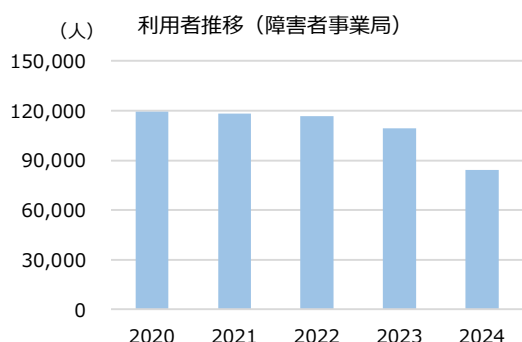
- ① 「ATM」を意識し、各事業所が感染症予防に対応しながら、それぞれの置かれた場所で、強みを生かし新しいサービスの創造・構築を目指して取り組んだ。大震災の影響をもろに受け、各事業所はその対応に追われた。多くの応援と支援に感謝。
- ② 障害者事業局：入所は高齢化し、重度・医療的ケアのニーズが高く、入院が多い現状。通所系は後半は震災前の数値に近づいたが、能登は若年層利用者の広域避難の影響大。身体系より知的・精神の利用ニーズが高くなっている。震災での緊急利用に積極に対応した。
- ③ 高齢者事業局：エレガントたつるはま、ふれあいの里は震災による建物被害が甚大で、事業廃止・集約化した。特養の入所は施設内感染予防を徹底した。通所は、感染症・震災の影響を強く受けたが、強みを生かした選択プログラムやクラブ・カルチャー教室などを導入し、意欲を引き出した。外出支援やイベント交流などを再開した。
- ④ 事業局：介護職員処遇改善加算による賃上げ・石川県被災地介護・福祉人材確保支援事業給付金の支給。BCM・BCPの改定、補助金・義援金の受入と申請、復旧対応・会議参加、法人内応援体制を構築した。
- ⑤ 地域貢献：できる範囲で実施した。

障がい者事業局

■部門代表者
今寺 忠造

■2024年度のトピックス

各事業所、「ATM」を意識し、置かれた立場で、復旧・復興の取り組んだ。建物被害は甚大であり、限られた環境で創意工夫をしながら、利用者サービスを提供した。また、地域交流や貢献も継続して行った。



■事業報告

- ① さいこうえんの障害者支援センター：引きこもり・8050問題の普及、職場定着、復興支援の継続を行った。キラは被災地支援を行った。
- ② セレーナ青山：現状維持。公費解体利用者の受入。
- ③ 青山彩光苑リハビリテーションセンター：工事と並行してサービス提供。7名就職。
- ④ 青山彩光苑ライフサポートセンター：70名に定員変更したが、延べ利用は約200名増加。災害義援金を活用した能登北部への日帰り外出、震災での緊急避難等の受入強化。地域住民を招待して震災復興記念の集いを行った。
- ⑤ ワークセンター田鶴浜：20名に定員変更。7月に施設外就労実施。
- ⑥ 青山彩光苑六水ライフサポートセンター：震災緊急受入、利用者プチ個別支援、障害者週間（小学校福祉教育・アンサンブル・太鼓等の交流会）。
- ⑦ 石川県精育園：40名加賀市の錦城学園の避難生活。県外ボランティアの応援があった。その他の利用者は、2府7県・31施設に分散避難し、ほとんどが帰園を希望している。グループホームは、9月の水害被害者を積極的に受け入れた。HS銀河で高齢者訪問介護を開始した。

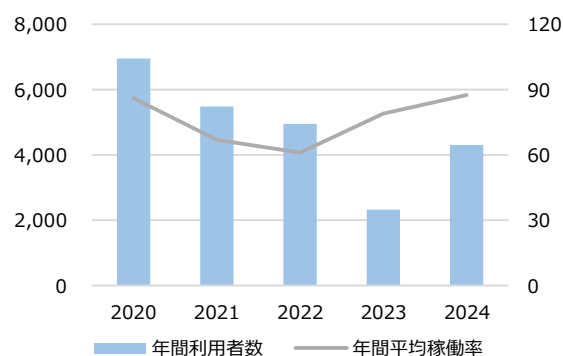
第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

障がい者事業局 青山彩光苑 青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者
久保 奈保

■2024年度のトピックス

2024年1月発災の能登地震により、居住地変更を余儀なくされ、サービス終了に至ったケースが複数みられたが、2024年8月には地震前の登録人数まで回復することができた。現在も復旧・復興を目指して工事と並行して継続したサービス提供を続けている。



■事業報告

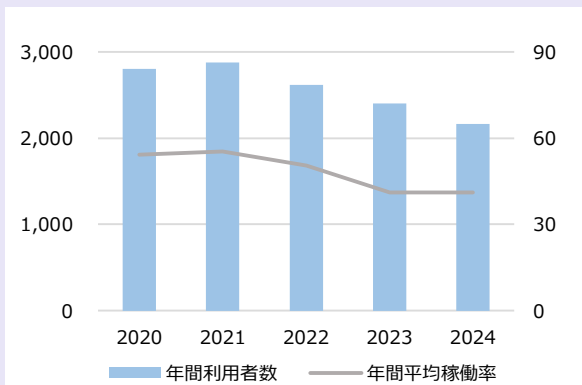
- ① 目標と達成度
機能訓練稼働率を100%以上とする
→94%であったため、達成度としては94%
就労移行支援稼働率を100%以上とする
→81%であったため、達成度としては81%
生活訓練（機能訓練）稼働率を100%以上とする
→80%であったため、達成度としては80%
- ② 就労移行支援事業については、7名の利用者が就職した。6ヶ月以上の職場定着者は3月時点で1名となった。定着者が多かった昨年度に比べて低下したが、2年間実績での評価のため、2025年度も報酬単価最高値となった。2024年度は前年度に比べて就労移行支援事業で安定した利用を続けることができ、稼働率が向上した。2024年度末就職者を複数輩出したため、開始時点では定員割れが予測されるが、学校及び相談支援事業所へのアプローチを継続し新規獲得を目指していく。

障がい者事業局 青山彩光苑 さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者
前田 奈津子

■2024年度のトピックス

地域活動支援センターは地震の影響で9月まで青山彩光苑ライフサポートセンターの1室を間借りし活動していたが、10月から従来のリハビリテーションセンターに戻り、利用を控えていた利用者が戻ってきたことで、10月以降は平年並みの稼働率となった。



■事業報告

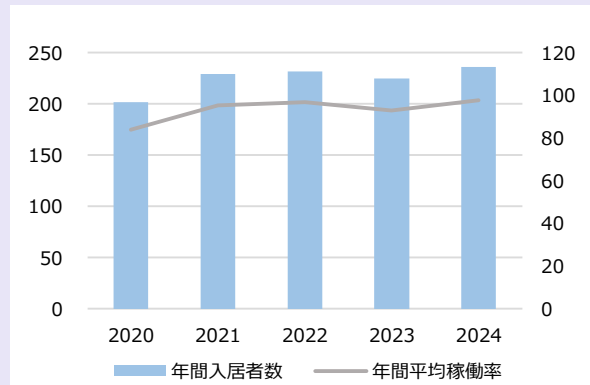
- ① 地域活動支援センターは今年度も七尾市・中能登町からの委託を受け、I型事業を実施している。高階地区コミュニティセンターとつながりを維持し、地域の一員として積極的な活動を実施した。今年度から利用者企画の行事を取り入れたことで、利用者が主体的に取り組み、楽しめる活動が増えている。
- ② 相談支援事業（指定特定・指定一般・指定障害児）は、障がいのある人の様々な相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数 5,287件）。昨年に引き続きひきこもりや8050問題について取り組み、今年度は七尾市徳田地区・能登島地区に出向いて、民生委員の方を中心に普及活動を実施している。相談支援事業所キラデは各関係機関と連携し、復興支援を継続している。
- ③ 障害者就業・生活支援センター事業は障がい者・企業からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数 2,043件、就職件数29件、職場実習研修22件）。

障がい者事業局 青山彩光苑 バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者
久保 奈保

■2024年度のトピックス

2024年4月は19床から開始し、年度末には19床の稼働となった。2024年1月発災の能登地震により自宅が公費解体対象となり、入居を希望された方の受け皿として機能した。1年間で多少の入退居はみられたが、年間通じて定員20名に対し、19～20名で推移した。



■事業報告

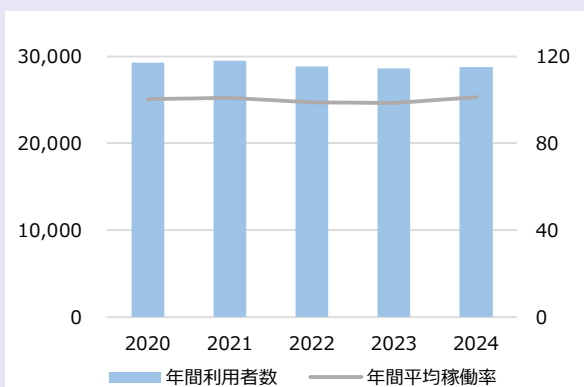
- ① 退居2名、新規入居者は2名であった。年間平均稼働率は前年比4%の上昇となった。
- ② 入居者の法人内サービス利用の内訳
※重複利用を含む
【障害者活動系】
リハビリテーションセンター：7名
ワークセンター田鶴浜：4名
障害者生活支援センター：2名
就業・生活支援センター：4名
【生活支援系】
ヘルパーステーションローレル：4名

障がい者事業局 青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者
瀧野 利徳

■2024年度のトピックス

入所者全員が支給対象となった災害義援金を活用して、輪島市、穴水町への日帰り外出を実施した。入所者80名中30名が参加し、家族も8名が同行した。現地での飲食や土産の購入で合計8万円を消費し、「障害を抱えながらもできること」の位置づけのもと、復興への一助を実現できた。



■事業報告

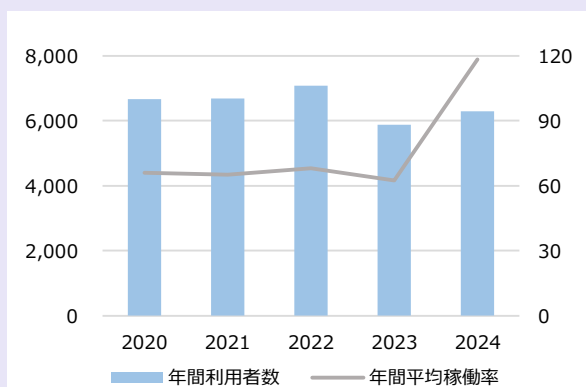
- ① 新規利用者を7名受け入れたが、そのうち3名が震災の影響により自宅での生活が困難になった方であった。また、養護者による虐待が疑われるケースを発見、通報したうえで数ヶ月後に入所へと導いた。
日中事業（生活介護）の定員を80名から70名へと変更したが、定員超枠を有効活用した結果、年間延べ利用者数は200名余り増加した。同じく施設入所についても80名から78名へと変更したが、延べ利用者数は140名余り増加する結果を得られた。
- ② イベント活動として、「震災復興祈念のつどい」と題し、震災時に当施設へ避難した地域住民を招待したうえで、現在までの歩みを利用者を交えた皆で共有する機会を設けた。また、地元の太鼓や外部の模擬店に協力を得られたことで、例年実施していた夏祭りの雰囲気を出し出すことができ、制限された生活を強いられる中でも、穏やかなひと時を参加者に提供することができた。

障がい者事業局 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者
細木 俊逸

■2024年度のトピックス

4月に定員を20名に変更し運営した。7月に施設外就労を行えるように体制を整え、利用者が施設外で仕事をして経験を積めるように環境を整えた。施設外就労では5名の方が就業場所で仕事をしている。土耕、軽作業、洗濯事業については、仕事量は震災前に戻りつつある。



■事業報告

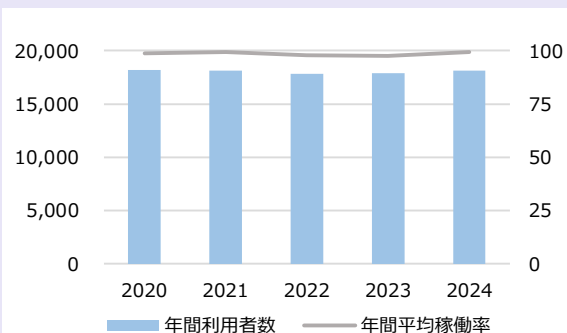
- ① 新規利用者は4名、退所者は4名であった。
年間の総利用者数は6,281名であり、昨年度に比べ411名増加した。稼働率は118.4%であり、目標稼働率の達成率は95.5%であった。実利用者は33名～30名で推移していた。
- ② 2024年度の収益としては、土耕事業は約35%減少、軽作業事業は約5%減少、ランドリー（洗濯）事業、商品販売は横ばい、リサイクル事業約10%増となった。震災の影響が見られたが徐々に回復傾向にあると思われる。
- ③ 土耕事業について、野菜の栽培に関しては、ガラスハウスにおいてパプリカの栽培を7月～1月行い、市内のスーパー、道の駅、関連の施設にて販売した。試行的に新たな野菜として大根の栽培も行い、各施設に限定販売を行った。
- ④ 2024年度より新たに和倉地区の公園トイレの清掃、ごみ拾いの仕事を受託し実施している。清掃業務については受託件数を増やし、障がいのある方が仕事ができる場を増やしていきたいと考えている。
- ⑤ 今後は夏野菜苗の育成販売の再開等以前に行っていた生産に戻していく。

障がい者事業局 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者
大林 尚美

■2024年度のトピックス

- ① 震災緊急受け入れでショート3名、入所者6名に加え、通所でもみなしや仮設住宅者を積極的に受け入れた。
- ② 利用者支援は“プチ支援”と題した特別感を感じてもらった個別支援、ピアガーデン、さらに地域の復興状況をみながら地域ボランティアなどを活用した支援を復活させた。
- ③ 震災復旧工事は一部を残し、生活エリアは終了した。



■事業報告

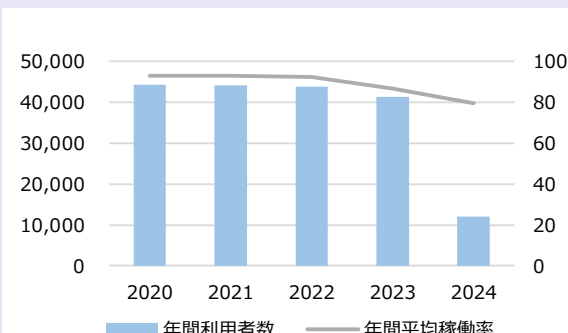
- ① 施設入所支援事業は、目標稼働率100%に対して99.3%で、入院が昨年より約2倍が影響した。生活介護事業（通所）は目標稼働率60%に対して56.9%と震災で遠方避難された方が多く通所実人数が半数以下に減少、新規受入もあったが目標値に届かず。短期入所事業は、目標稼働率70%に対して60.6%で、遠方避難で定期利用者が減少、前期は避難長期利用で稼働率70%を超えることもあったが、地域に戻られるなどし、下回った。
- ② 意思決定支援に基づき、本人参加型のサービス会議を実施、入所者15名が参加した。
- ③ “プチ支援”と題した一人ひとりの希望に寄り添った個別支援では、震災後の自宅を見に行ったり、地元の寿司屋に出かけたりと、特別感が味わえる支援が実施できた。
- ④ 障害者週間企画は、震災下でも小学校との福祉教育やアンサンブル演奏、豊年太鼓の団体と苑内交流イベントを開催できた。
- ⑤ 地域復興応援では地域事業者を積極的に活用。地元のパン屋、寿司屋を利用する企画や衣料品訪問販売を実施できた。

障がい者事業局 石川県精育園・自立ホームけいじゅ

■部門代表者
田中 こずえ

■2024年度のトピックス

震災後、利用者120名中40名は加賀市内の錦城学園へ一斉避難、他利用者は2府7県・31施設へ分散避難となった。錦城学園には法人職員18名が帯同して支援した。12月まで県外から応援派遣職員やボランティアによる支援も多数頂きつつ、3月31日に一斉避難者39名のみが帰園した。



■事業報告

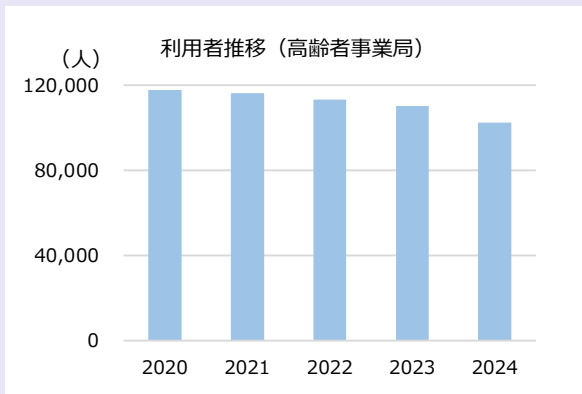
- ① 生活介護（日中）の稼働率は91.9%であった。施設入所支援は79.6%の稼働率となり、利用者の一斉避難に伴い、約80名が退所扱いとなり稼働率は大幅に減少した。
- ② 施設の復興方針、利用者の避難期間の見通しが立たず、7月より定員130名から40名に変更し運営した。
- ③ 避難先の錦城学園では、錦城学園主催の行事に多数参加した。精育園企画の交流会も開催し、利用者、職員ともに楽しく参加し、積極的な交流を図った。また、虐待防止の取り組みとして、月1回県外派遣職員による巡視を実施。巡視結果を職員へフィードバックし、対応改善を図った。月1回、利用者と職員で男女別グループに分かれ、錦城学園内の清掃ボランティア（草むしり、ゴミ拾い等）を実施した。避難先での利用者の生活の様子について、「加賀だより」としてホームページで随時情報発信した。各種会議や、利用者のモニタリングはZoomを利用してオンラインで実施した。
- ④ グループホームでは、9月の水害によって被害を受けた在宅障害者の緊急ショートを積極的に受入れた。
- ⑤ ヘルパーステーション銀河では、穴水町の介護保険対象者へのサービスを開始した。

高齢者事業局

■部門代表者
今寺 忠造

■2024年度のトピックス

能登半島地震の建物被害等の影響で、ふれあいの里の事業（配食・訪問入浴・通所介護）を休止・廃止した。エレガント田鶴浜も建物被害（半壊）で廃止した。すべての利用者に意思を確認し、関連施設等へのスムーズな移行ができた。ローレルでは開設10周年イベントを実施した。



■事業報告

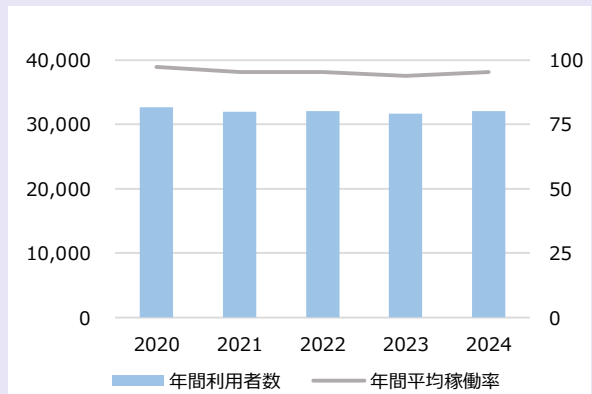
- ① エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦：通所事業はふれあいの里と合併。体・脳・心の3つで利用者の興味・意欲を引き出す支援を実施。カラオケ・麻雀・運動レク・創作活動は効果的であった。入所事業は、施設内感染の防止策を徹底した。対面の面会、外出支援、季節行事、調理支援等を再開した。
- ② エレガントたつるはま・もみの木苑：建物が壊滅的な被害を受け、2月にリハビリテーションセンターに避難し、9月末には全利用者の移行完了した。もみの木苑は、6月よりふれあいの里、12月より鶴友苑の利用者を受け入れた。クラブ活動・カルチャー教室の15プログラムを提供した。選択して参加できる方式は意欲向上に繋がる。
- ③ ふれあいの里：震災の影響により、通所は5月末、訪問入浴事業は8月末廃止。配食は3月末終了となった。全利用者は、別の事業所にスムーズに移行した。
- ④ ローレルハイツ恵寿：安心と笑顔の提供、震災後の引きこもりの軽減を目指し、お茶会・スイーツ作り・ランチ外出・イベント等を実施。3月に開設10周年イベントを開催した。ローレルグランプリ等で職員教育を図った。訪問介護は新規も多いが、中止も多い現状であった。

高齢者事業局 エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

■部門代表者
江澤 恵太、藤澤 優子

■2024年度のトピックス

通所事業は、ふれあいの里の廃止により、利用者の受け入れを行い、稼働状況が改善した。入所事業では、入院件数は多いが、退所から入所までの空床日数が、短期であったため、稼働状況は改善した。ショートステイもコロナクラスターの影響あったが現在は稼働率目標達成している。



■事業報告

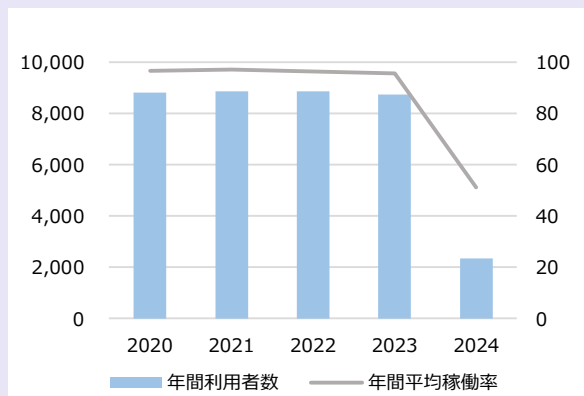
- ① 通所事業については、ふれあいの里との合併により、各事業の良いサービスを取り入れた。体・脳・心の3つチームにて利用者の興味や意欲を引き出す支援を行い、活動的な時間を過ごすことにつながっている。特にカラオケや麻雀、運動レク、制作など趣味を活かしたプログラムは利用者の素敵な一面を引き出している。
- ② 入所事業は、コロナクラスター等の発生や拡大を防ぐため、施設内感染防止対策を行い、徹底することで、最小限の発生で収束。対面での面会を再開した。外出支援や施設内で季節ごとの行事や調理支援を行うことができた。
- ③ ATM広場の開園とし、施設のいいところ探し、いいところづくりとして、職員のモチベーション向上を図ったり、動画の整備や活用によるサービスの標準化に取り組んだ。
- ④ 「稼働実績」については、ベッドコントロールが順調に実施でき、空床期間の短縮につながっている。
- ⑤ ケアハウスは、毎月の有料メニューの提供、健康教室、タブレット等を活用した支援なども行った。

高齢者事業局 エレガントたつるはま・もみの木苑

■部門代表者
芳原 哲弥

■2024年度のトピックス

建屋の復旧の見込みが立たず、利用者全員を他事業所へ移行。2024年9月末移行完了、2024年末で事業廃止となる。もみの木苑は6月よりふれあいの里の利用者、12月より鶴友苑の利用者の受け入れを実施、実利用人数も80名台となり、稼働率も80%台となる。



■事業報告

【エレガントたつるはま】

- ① 他事業所への移行が3月に決定。他事業所が空き次第順次移行した。（9月末完了）
- ② 食の楽しみを感じてもらう食事支援を実施する。
- ③ デジタル・リモートを活用し、家族との絆をつなぐためにZoomやLINEを使用した面会や映像等の提供等を実施した。

【もみの木苑】

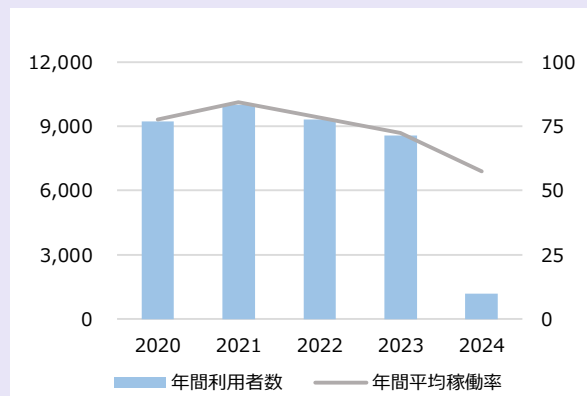
- ① Foot活プロジェクトの参加利用者8名。
- ② クラブ活動・カルチャー教室のプログラムを15種類提供した。利用者は参加したいメニューを選択し参加するスタイルとして実施、参加した人にはポイントを進呈することで意欲の向上を図った。
- ③ 毎月3回、珈琲喫茶を営業し利用者に楽しんでいただいた。
- ④ 利用の利便性を図るため半日利用、前倒し利用などを実施、それぞれ数名の希望者が自らの都合に合わせてサービスを利用していただいた。
- ⑤ 外部のボランティアとの交流を再開する。
- ⑥ 付加価値を向上させるため、持ち帰り弁当の仲介サービスや移動スーパーとくし丸の誘致を実施した。

高齢者事業局 ふれあいの里

■部門代表者
江澤 恵太

■2024年度のトピックス

能登半島地震の影響により、施設の復旧は困難となり、全ての事業を廃止。



■事業報告

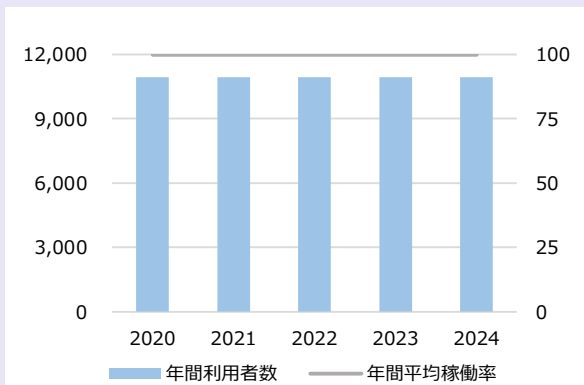
- ① 通所事業は、5月末に廃止。利用者については、けいじゅグループ内でほぼ全員受け入れを行い、継続してサービスを利用していただくことができた。
- ② 訪問入浴事業は、他の事業所への利用変更や他のサービスに変更するなど利用者全員の入浴を確保できる状況が整うまで営業を行い、8月末に廃止。
- ③ 配食事業は、地震の影響により、上下水道が復旧せず、再開することなく3月末に委託契約終了となった。

高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿

■部門代表者
松井 智子

■2024年度のトピックス

特定ケアハウスの平均稼働率99.8%、一般ケアハウスは平均稼働率100%。サ高住は入居希望が多く満室が続き、稼働率103%と高稼働を維持した。訪問介護は地域包括ケアステーションでの横のつながりを活かし、新規受入れを増やしていった。平均訪問件数は770件で今季目標をクリアした。



■事業報告

「ATM 笑顔を支援する」をテーマに、安心と笑顔を提供できるよう取り組んだ。

- ① 震災後の不安や引きこもりを軽減するために、声掛けを増やし、お茶会やイベントを企画しコミュニティづくりを行った。睡眠アンケートの実施で、睡眠が確保できていることを把握した。見守り機器やインカムの導入は職員間のスムーズな連携が可能となり、スピーディな対応や転倒予防等、サービスの質の向上の一助となった。
- ② ランチや近郊のミュージアム外出の実施や、外部講師や地域ボランティアによる教室や行事を実施した。毎月実施したHAPPY DAYやお茶会では、季節感のある内容やスイーツ作りを行い、参加者も多く人気企画であった。3月には「開設10周年祭」を開催。多くの方に好評で、節目にふさわしい記憶に残る催しとなった。
- ③ 職員育成として、ローレルグランプリを実施。部署間研修を通して応援体制の強化を図った。業務改善としてペーパーレス化、訪問スケジュール自動作成アプリ導入に取り組んだ。
- ④ サ高住は、お試し入居で満室を維持したため高稼働率を達成できた。訪問介護は新規顧客も多いが、中止や希望時間の偏りもあり、サービス調整が課題である。

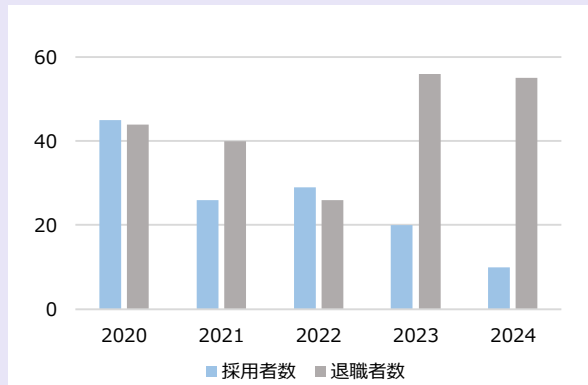
第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

事務局

■部門代表者
山下 賢

■2024年度のトピックス

2024年度における採用者数は10名、また退職者数は55名で差し引き△45名であった。期首の職員総数は395名、期末の職員総数は350名。



■事業報告

① 事業所の再構築

通介護事業所「ふれあいの里」を閉鎖し「エレガントなぎの浦デイサービスセンター」及び「もみの木苑」に集約。
小規模特養「エレガントなつるはま」を閉鎖し特養「エレガントなぎの浦」に集約。

障害者支援施設「石川県精育園」：避難先から39名帰還し40名定員規模で再開。

② 災害復旧工事（本復旧）

青山彩光苑：継続中（2025/10完了予定）

穴水ライフサポートセンター：2024/12完了（残工事2025上期完了予定）

穴水ライフサポートセンター陥没工事：検討中

ワークセンター田鶴浜：2024/11完了

石川県精育園：仮復旧2025/3完了、本復旧は石川県と協議予定。

自立ホームけいじゅ：2024/7完了

エレガントなぎの浦：2025/3完了

ローレルハイツ恵寿：2024/7完了

もみの木苑：2025/2完了

事務局 総務部

- 部門代表者
畑中 浩樹

■2024年度のトピックス

内 容
車両事故に関する分析、情報提供で事故防止対策
能登半島地震を踏まえた法人BCM、BCPの改訂
新人職員を対象とした他事業所体験研修を実施
SNSへの積極的情報発信
給与計算方法等の業務手順の見直しと改善

■事業報告

- ① 法人内の車両事故に関する統計をイントラネットにて情報共有。法人内の事故防止を図った。
- ② 法人BCM、BCPの改訂。各事業所に共有。
- ③ 新卒職員を対象に恵寿総合病院、他事業局施設への体験研修を実施。
- ④ 法人、各事業所の新着情報をSNSにて掲載
(Instagramのフォロワー約3,500)

事務局 経営企画部

- 部門代表者
松下 清寛

■2024年度のトピックス

能登半島地震の復旧対応

- ① 復旧工事会議等
- ② 災害復旧補助申請関連
・社会福祉施設等災害復旧費国庫補助金
・なりわい再建支援補助金
- ③ 工事代金資金の借入申請（WAM・民間銀行）

■事業報告

- ① 経営状況の把握・情報共有
- ② 災害による損失資産の試算（施設建物・設備等）
- ③ コスト増への対応（電気契約、委託料等見直し）
- ④ スキル向上（オンライン研修活用）
- ⑤ 理事会・評議員会開催
- ⑥ 法人登記手続き（資産変更登記）
- ⑦ 監査対応（石川県指導監査、会計監査人監査）

教育研修委員会

- 部門代表者
畑中 浩樹

■2024年度のトピックス

日程	内容
4月1日	新人職員研修
6月12日	管理監督者研修（課長以上）
7月5日	第1回 新人フォローアップ研修
7月17日	主任研修 ※オンライン
11月26日	ストレスマネジメント研修 ※オンライン
12月11日	第2回 新人フォローアップ研修
12月	介護福祉士受験対策講座 ※オンライン

■事業報告

- ① 新人職員研修の神野理事長の講義を重仙会新人職員と合同で開催。
- ② 10月・12月に新卒の新人職員5名の新規研修として、恵寿総合病院と他事業局施設で体験研修を実施。

福利厚生委員会

- 委員長
刀祢 千恵

■2024年度のトピックス

- ① 業務で使用する「物品購入」の助成
- ② 親睦会などの「食事会費」の助成
- ③ ストレスや健康維持に関する
「物品・サプリメント購入」の助成
- ④ 助成金は1人1,500円
委員会の開催はZoomにて実施

■事業報告

- ① 職員全体の約70%の職員が利用。
- ② 親睦会の実施：4件。
- ③ ストレス緩和や健康維持のサプリメント購入：7名。
- ④ 購入品の対象品目の幅を広くしたことでの購入のしやすさや、親睦会などの実施緩和による職員間の交流に活用することができた。今後は助成金の増額や、コロナ前のようなイベント・旅行などの開催も期待したい。

第2章 法人方針・事業報告（徳充会）

事例研究大会

■委員長

宮西 竜太郎

■2024年度のトピックス

大会テーマ「ATM-明るく、楽しく、前向きに-」で、2025年2月7日（金）新型コロナウイルスの感染や拡大防止のため、Zoomを利用し開催した。

1事業所1事例を発表。当日は、レコーディングを行い、後日、法人内職員が視聴できるよう配信した。

■事業報告

- ① 感染症対策として、2025年度もZoomを活用し、七尾・穴水会場とのハイブリッドで大会を開催予定である。感染症が落ち着いても、オンライン開催を希望する意見が多く聞かれた。
- ② 2024年度は、テーマ通り震災後の復旧・復興に対する事例も多く、他事業所の事例を参考に今後の支援や復興に活かしたいと多くの意見があった。

コンプライアンス委員会

■部門代表者

畑中 浩樹

■2024年度のトピックス

日程	内容
4月8日	2024年度 第1回委員会 開催
8月1日	ハラスメント防止規定 更新
10月8日	カスタマーハラスメント対策について審議
2024年度 委員会開催数 7回	

■事業報告

- ① 個別に策定されていたハラスメント防止規定、セクシャルハラスメント防止規定を統合。
- ② 各事業所に対して、虐待防止研修のおよび法令遵守活動に関する進捗状況を確認、実施励行。
- ③ 各事業所における不適切事例等の情報共有、対策等の審議。